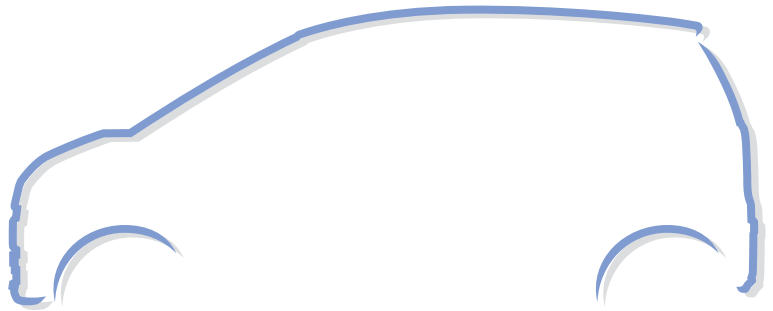


01999-B2411

取扱説明書

ご使用になる前に必ずお読みください。

PLEO



SUBARU

このたびは、スバル車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。





本書は、プレオの正しい取り扱いかたや、
手入れの方法などについて説明しているほか、
お車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、
また、万一のときの処置についても記載しています。
安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、
ご使用の前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車両を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は次の通りです。

 警告	警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。
 注意	注意事項を守らないと、けがや事故、車体の破損につながるおそれがあります。
 アドバイス	お車のために守っていただきたい事項です。
 オプション/グレード別装備	オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。

ご愛車のために

- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとう便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
 - ・車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
 - ・本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ・ご不明な点は、ご購入先のスバル販売店（営業スタッフ）におたずねください。

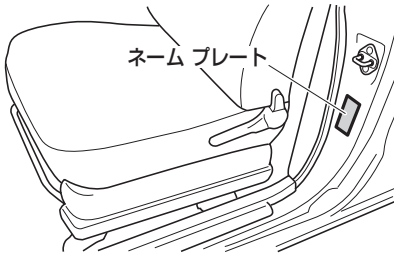
ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネーム プレートをご覧ください。

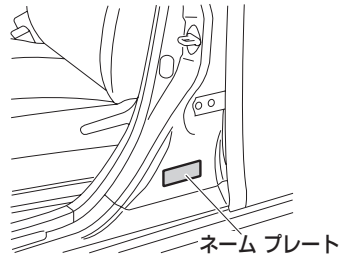
ご愛車のメモ	
車名および型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	KF- 型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	マニュアルトランスミッション CVT

ネーム プレートは助手席側ドアを開けたところに貼り付けしてあります。

3ドア車



5ドア車



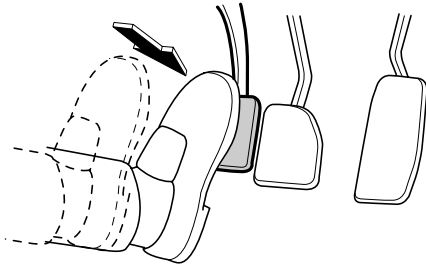
クラッチ スタート システム

マニュアル車には、エンジン始動時の誤操作を防ぐためのクラッチ スタート システムが装備されています。

(クラッチ スタート システム→ 133 ページ)

クラッチ スタート システム

マニュアル車は、クラッチ ペダルをいっぱいまで踏み込まないとエンジンがかかりません。



目 次

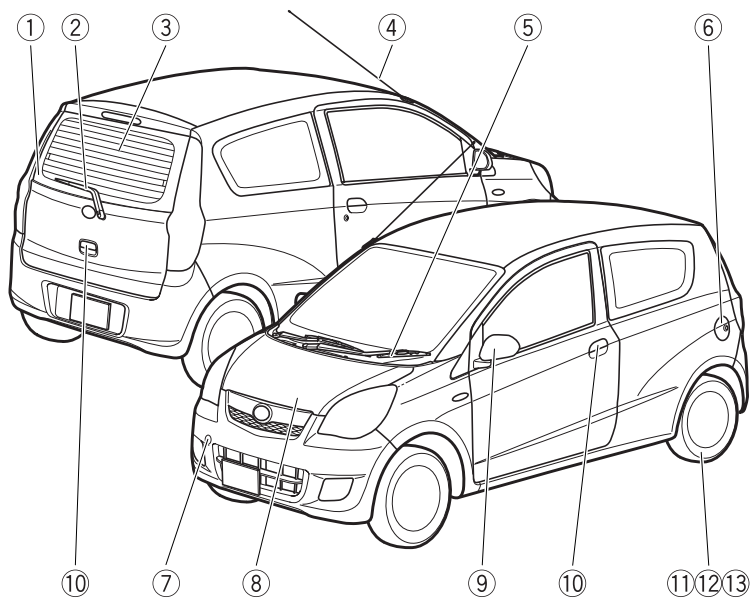
絵目次	2
必読！ドライバーのみなさまへ	15
走行する前に-----	16
エンジンをかけるときは-----	19
走行しているときは-----	21
駐停車するときは-----	25
安全な燃料給油のために-----	27
SRSエアバッグについて-----	29
CVT車について-----	31
お子さまを乗せるときは-----	33
お車を長持ちさせるには-----	37
こんなときは-----	40
知っておいていただきたいこと-----	43
安全装備	45
シート-----	46
シート ベルト-----	51
チャイルド シート-----	56
SRSエアバッグ-----	71
ABS-----	78
お車を運転する前に	81
車体各部の開閉-----	82
車体各部の調整-----	104
お車を運転するにあたって	107
メーターのはたらき-----	108
表示灯、警告灯のはたらき-----	111
スイッチの使いかた-----	120
運転装置の使いかた-----	128
エンジンのかけかた-----	132
マニュアル車の運転-----	136
CVT車の運転-----	137
装備品の使いかた	147
空調-----	148
オーディオ-----	156
室内装備品-----	182
いざというときに	193
工具類-----	194
いざというときの処置-----	198
お車の手入れ	229
お車の手入れ-----	230
積雪、寒冷時の取り扱い	247
積雪、寒冷時の取り扱い-----	248
サービス データ	255
さくいん	261

絵目次

外観

バン仕様車（3ドア車）

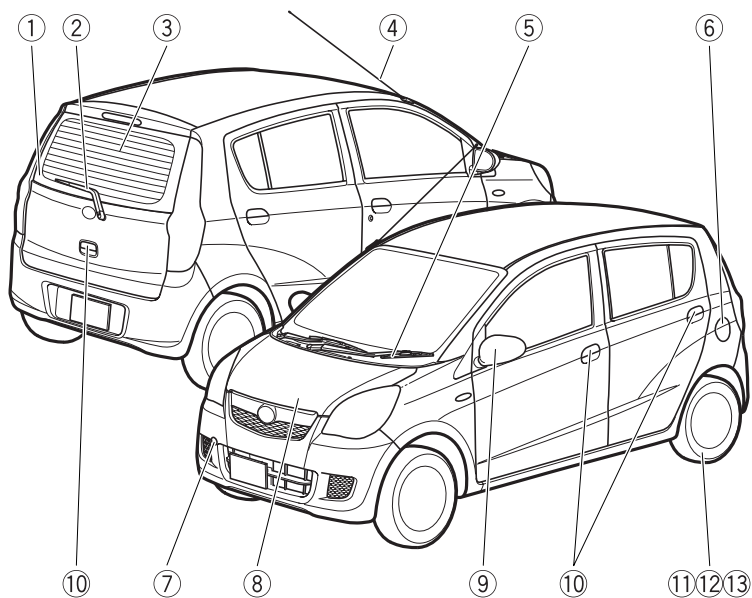
グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①リヤ ゲート	90
②リヤ ワイパー	126
③リヤ ウィンドウ デフォッガー	126
④アンテナ	156
⑤フロント ワイパー	125
⑥フューエル リッド	96
⑦けん引フック	201
⑧ボンネット	94
⑨ドア ミラー	104
⑩ドアの開閉	87
⑪タイヤ交換	204
⑫タイヤのローテーション	235
⑬タイヤ チェーン	250

標準車 (5ドア車)

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。

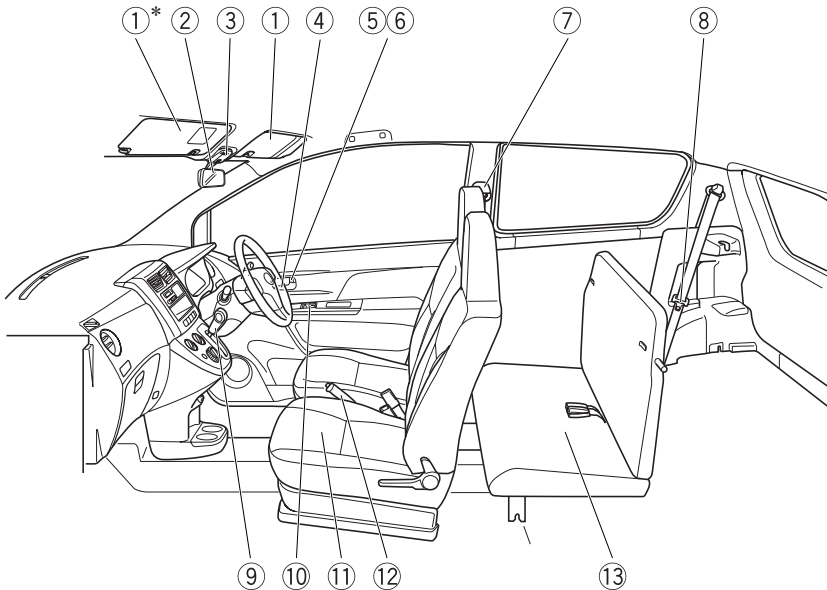


①リヤ ゲート -----	90
②リヤ ワイパー-----	126
③リヤ ウィンドウ デフォッガー -----	126
④アンテナ -----	156
⑤フロント ワイパー-----	125
⑥フューエル リッド-----	96
⑦けん引フック -----	201
⑧ボンネット -----	94
⑨ドア ミラー -----	104
⑩ドアの開閉-----	87
⑪タイヤ交換 -----	204
⑫タイヤのローテーション -----	235
⑬タイヤ チェーン -----	250

内装

バン仕様車（3ドア車）

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



*助手席側サン バイザーに次の内容のラベルが貼られています



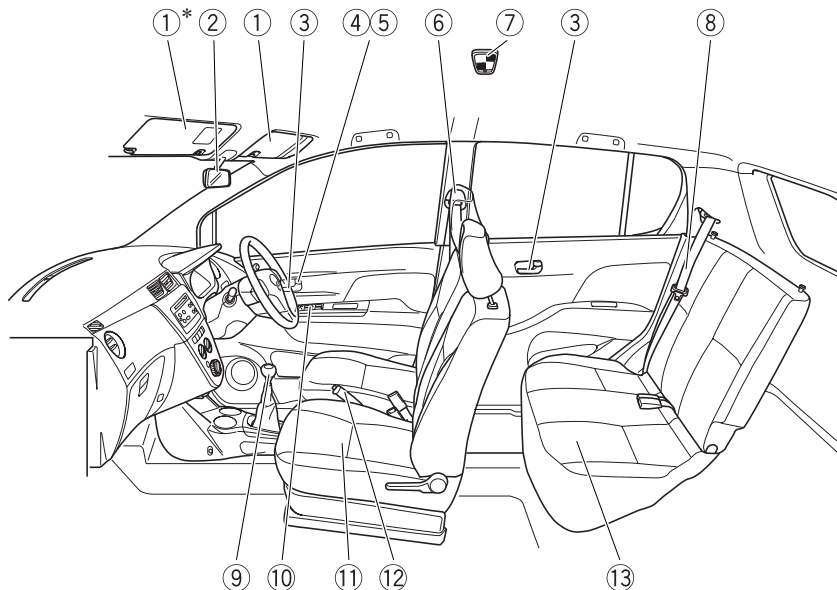
助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

(チャイルド シートの固定のしかた→ 66 ページ)

①サンバイザー	184
②ルームミラー	104
③ルームランプ(フロント)	182
④ドアの開閉	87
⑤車内からの施錠・解錠	87
⑥集中ドアロック	89
⑦シートベルト(フロント)	53
⑧シートベルト(リヤ)	53
⑨セレクトレバー/チェンジレバー	
マニュアル車	136
CVT車	137
⑩パワーウインドウ	99
⑪フロントシート	47
⑫駐車ブレーキ	129
⑬リヤシート	49

標準車 (5 ドア車)

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



*助手席側サン バイザーに次の内容のラベルが貼られています



助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

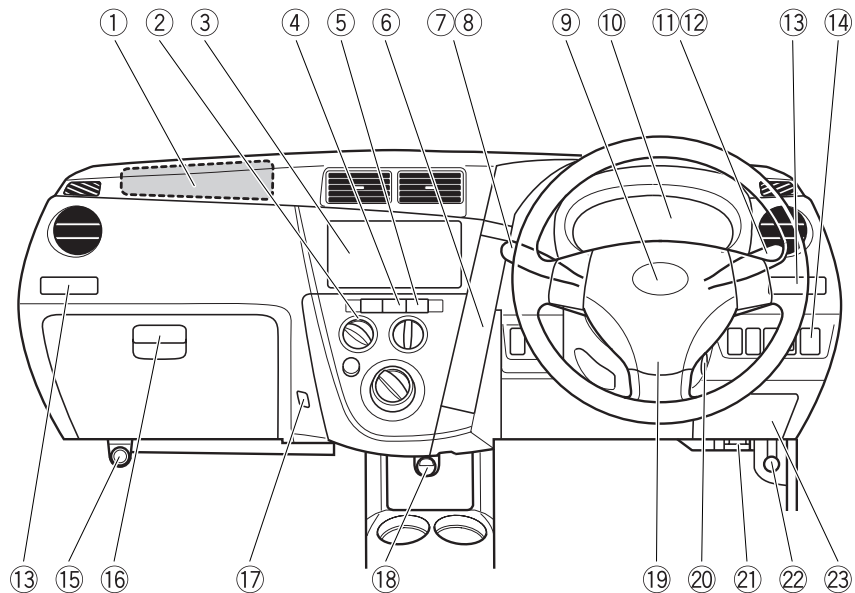
(チャイルド シートの固定のしかた→ 66 ページ)

①サンバイザー	184
②ルームミラー	104
③ドアの開閉	87
④車内からの施錠・解錠	87
⑤集中ドアロック	89
⑥シートベルト（フロント）	53
⑦ルームランプ（センター）	182
⑧シートベルト（リヤ）	53
⑨チェンジレバー	136
⑩パワーウィンドウ	99
⑪フロントシート	47
⑫駐車ブレーキ	129
⑬リヤシート	49

インストルメント パネル

マニュアル車

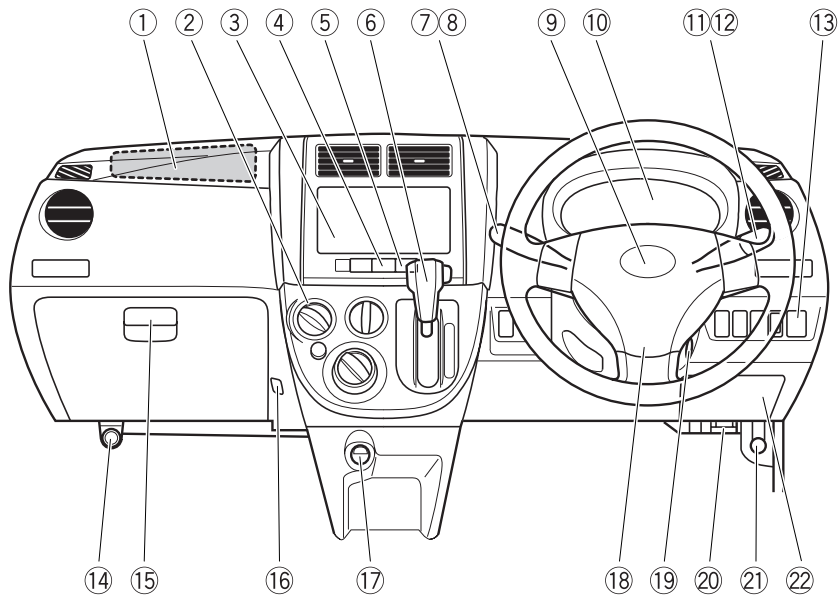
グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①助手席SRSエアバッグ	71
②エアコン	148
③オーディオ	156
④非常点滅表示灯スイッチ	124
⑤リヤ ウインドウ デフォッガー スイッチ	126
⑥インパネ センター ボックス	185
⑦フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ	125
⑧リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ	126
⑨運転席SRSエアバッグ	71
⑩メーター	108
⑪ライティング スイッチ	121
⑫方向指示レバー	123
⑬前席カップホルダー（プッシュオープン式）	188
⑭光軸調整ダイヤル	122
⑮発炎筒	200
⑯グローブボックス	185
⑰ショッピングフック	186
⑱アクセサリソケット	187
⑲ホーンスイッチ	127
⑳エンジンスイッチ	128
㉑フューエルリッドオープナーレバー	97
㉒ボンネットオープナー	95
㉓インパネアンダーボックス	186

CVT車

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



①助手席SRSエアバッグ	71
②エアコン	148
③オーディオ	156
④非常点滅表示灯スイッチ	124
⑤リヤ ウインドウ デフォッガー スイッチ	126
⑥セレクト レバー	137
⑦フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ	125
⑧リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ	126
⑨運転席SRSエアバッグ	71
⑩メーター	108
⑪ライティング スイッチ	121
⑫方向指示レバー	123
⑬光軸調整ダイヤル	122
⑭発炎筒	200
⑮グローブ ボックス	185
⑯ショッピング フック	186
⑰アクセサリ ソケット	187
⑱ホーン スイッチ	127
⑲エンジン スイッチ	128
⑳フューエル リッド オープナー レバー	97
㉑ボンネット オープナー	95
㉒インパネ アンダー ボックス	186

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

安全のためにぜひ守りましょう



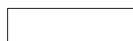
必読！

ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。



警告に値する項目です



注意に値する項目です

走行する前に -----	16
エンジンをかけるときは -----	19
走行しているときは -----	21
駐停車するとき -----	25
安全な燃料給油のために -----	27
SRSエアバッグについて -----	29
CVT車について -----	31
お子さまを乗せるときは -----	33
お車を長持ちさせるには -----	37
こんなときは -----	40
知っておいていただきたいこと ----	43

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをおこなわずに行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。点検・整備はメンテナンス ノートにしたがって実施してください。詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

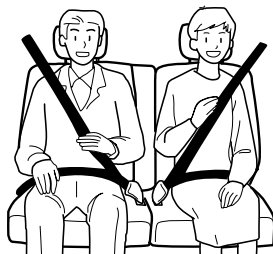
(シート→ 46 ページ)

(車体各部の調整→ 104 ページ)

シート ベルトはしっかりと着用してください

走行する前に必ず運転者、同乗者とも全員がシート ベルトを着用してください。(後席でも必ずシート ベルトを着用してください。)
シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。必ず正しい着用方法を身に付けてください。

(正しい着用→ 51 ページ)



妊娠中の方もシートベルトを着用してください

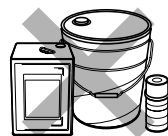
妊娠中の方も次の要領でシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩部ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。



危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。



ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください。ペダル操作が確実にできないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあります。

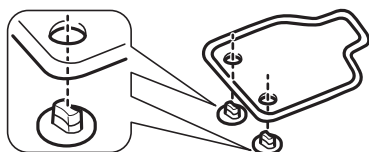


必読！ドライバーのみなさまへ 走行する前に

フロア マットはスバル純正品 を使用してください

フロア マットを使用するときは、次の項目を必ず守って正しく装着してください。

- スバル純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 付属の取付要領書に従って正しく装着してください。
- ずれないようにフロア マット付属の専用フックで必ず固定してください。



- 重ねて使用しないでください。
- 運転前にフロア マットが正しく固定されていることを確認してください。
- フックの破損などにより、フロア マットが固定できなくなったときは、すみやかにフロア マットの使用を中止してください。

これらを守らないと、ブレーキ ペダルやアクセル ペダルにフロア マットが引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



荷物を積み過ぎないでください

- 助手席やリヤ シートに荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体に当たるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧の点検をしてください

タイヤ空気圧の点検は法的に義務付けられています。

タイヤ空気圧はスペア タイヤも含め、最低でも月に1回は点検を行ってください。タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行すると、偏摩耗や早期摩耗します。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。タイヤの点検については、別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。



マニュアル車の場合に注意していただきたいこと

マニュアル車には、エンジン始動時の誤作動を防ぐためクラッチ スタート システムが装備されています。クラッチ ペダルをいっぱいまで踏み込まないとエンジンがかかりません。

駐車ブレーキをかけ、チェンジ レバーをニュートラルにし、クラッチ ペダルをいっぱいまで踏んでからエンジンを始動してください。

(エンジンのかけかた→ 132 ページ)

CVT車の場合に注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でセレクト レバーを必ずPレンジにして、ブレーキ ペダルをしっかり踏みエンジンを始動してください。

(エンジンのかけかた→ 133 ページ)

必読！ドライバーのみなさまへ エンジンをかけるときは

排気ガスには気を付けてください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。

排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、スバル販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めない てください

走行中にエンジンを止めると、次のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
 - 各警告灯が作用しなくなります。
 - “LOCK” の位置ではキーが抜けるおそれがあります。万一キーが抜けるとハンドルがロックし、ハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあり危険です。
 - ハンドル操作が重くなります。
 - 触媒装置を損傷するおそれがあります。
- 万一、お車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

(車両を緊急停止するには→ 225 ページ)

下り坂ではエンジン ブレーキ を併用してください

長い下り坂や急な下り坂を回レンジのまま（マニュアル車はシフト ダウンしないで）走行すると、スピードが出すぎてしまうことがあります。

このようなときにフット ブレーキに頼ると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。路面状態やスピードに応じてセレクト レバーを回レンジまたは、回レンジに入れて（マニュアル車は 1 速ずつシフト ダウンして）エンジン ブレーキを併用しましょう。

その際には、急激なエンジン ブレーキ（セレクト レバー、またはチェンジ レバー操作）をさけてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。

また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジン ブレーキを使用してください。

エンジン ブレーキ

エンジン ブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

必読！ドライバーのみなさまへ 走行しているときは

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキパッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確認してください。

効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき

→ 198 ページ）



高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジン オイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。



クラッチ ペダルに足をのせたまま走行しないでください

クラッチ ペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。クラッチが早く摩耗したり、過熱し思わぬ事故につながるおそれがあります。

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。

また、リヤ シートの背もたれを前倒した状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときなど、体が固定されず大変危険です。

人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

(シート→ 46 ページ)

ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万一のときに大変危険です。

必読！ドライバーのみなさまへ 走行しているときは

「急」の付く運転はしないで ください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジン ブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物 に気を付けてください

ルーム ミラー、ドア ミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さない ください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。



駐停車するときには

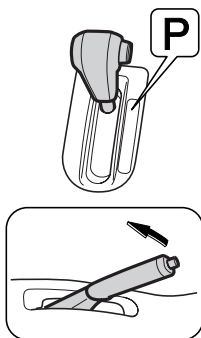
駐停車するときを知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときには注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときには、必ず駐車ブレーキをかけ、マニュアル車はチェンジレバーを1速（上り坂）または後退（下り坂）、CVT車はセレクトレバーをPレンジに入れます。坂道で駐車するときには、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。



燃えやすい物のそばにお車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。お車の後方に可燃物があるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。

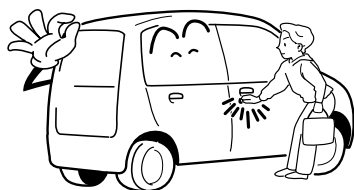
隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、お車を止めたりしないでください。

お車から離れるときに注意していただきたいこと

お車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。

お車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。

また、乳幼児のみを車内に残してお車から離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。



必読！ドライバーのみなさまへ 駐停車するときは

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のまま仮眠すると、無意識にセレクト レバーを動かしたり、アクセル ペダルを踏み込んだりして、お車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

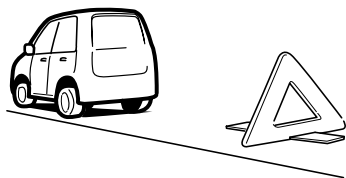
また、風通しの良くない所や風向きによっては、排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。



高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。

万一のために停止表示板（停止表示灯）はお車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスク ホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスク ホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

お車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態でお車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

安全な燃料給油のために

セルフ ガソリン スタンドなどで、お客様自身で燃料給油する場合に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいこと、特に注意していただきたいことをまとめています。

よくお読みになり、安全に給油を行ってください。

必ず指定燃料をご使用ください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



燃料給油時には、必ず次のことをお守りください

燃料は引火しやすいため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。必ず次のことをお守りください。

- エンジンは必ず止めてください。
- お車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。



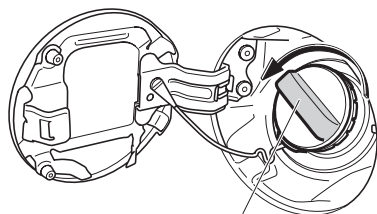
- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で引火するなどして、やけどのおそれがあり危険です。

* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。

必読！ドライバーのみなさまへ 安全な燃料給油のために

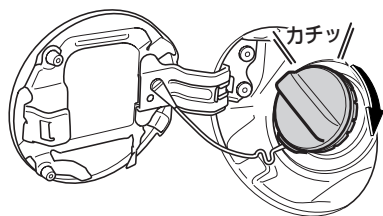
- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方一人で行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。



ツマミ部分

- フューエル キャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布などでふき取ってください。
- こぼれた燃料がお車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。

- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。



- 指定品のフューエル キャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料の気化ガスを吸わないようにしてください

燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、ご注意ください。

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグのページも併せてお読みください。

シート ベルトを着用してください

SRS*エアバッグの効果を発揮させるため、必ずシート ベルトと併用してください。SRSエアバッグはシート ベルトを補助するための装置で、シート ベルトの代わりではありません。

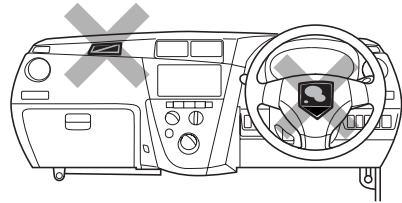
いざというとき効果を発揮しないばかりでなく、重大な事故につながるおそれがあります。

修理、分解、取り外しをしないでください

修理、分解、取り外しなどをお客様自身で行わないでください。修理の際は、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

パッド部、インストルメントパネルにステッカーなどを貼らないでください

パッド部、インストルメント パネルにステッカーを貼ったりカバーをおおうと、いざというときSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。

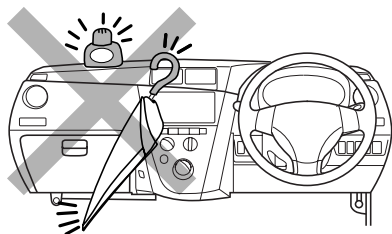


* Supplemental Restraint System (サブプリメンタル レストレイント システム) の略で、乗員保護補助装置の意味です。

必読！ドライバーのみなさまへ SRSエアバッグについて

インストルメント パネルに物を置かないでください

インストルメント パネルの上に芳香剤など物を置いたり傘を立てかけたりしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で飛ばされたり、SRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。



走行中は正しいシート位置に座ってください

シートの前端に座ったり、ハンドルに近付きすぎたりしないでください。お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたりしないでください。

また、インストルメント パネルにもたれかからないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

チャイルド シートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 6歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ず（スバル純正）チャイルド シートを使用してください。チャイルド シートの使用方法はチャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

(SRSエアバッグ→ 71 ページ)

CVT車について

CVT車の運転のページも併せてお読みください。

CVT車の特性や操作上で注意 していただきたいこと

CVT車には、いくつかの特性があります。思わぬ事故につながるおそれがありますので、正しく理解し、操作する習慣を身に付けてください。

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、Nレンジ以外の位置では、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりとお車が動き出します。

停車中は平坦路であってもお車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

エンジンをかける前にペダルの 位置を確認してください

ペダルの踏み間違えないように、右足でアクセルペダルおよびブレーキペダルの位置を確認し、必ずセレクトレバーがPレンジの位置になっていることを確認してください。

ブレーキペダルは右足で操作 してください

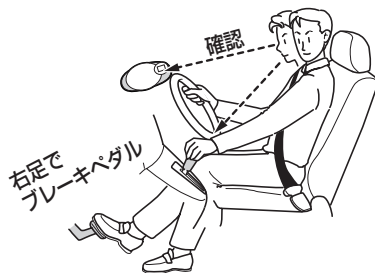
ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作する習慣を身に付けてください。



スタートするときはブレーキ ペダルを踏んだままセレクト レバーを操作してください

セレクトレバーがどの位置にあるかをセレクトレバーまたはメーター内のインジケーターを必ず目で見て確認し、必ず右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだままセレクトレバーを操作してください。また、アクセルペダルを踏んでのセレクトレバー操作はしないでください。

(運転のしかた→ 140 ページ)



必読！ドライバーのみなさまへ CVT車について

走行中はセレクト レバーを(N)レンジの位置に入れしないでください

走行中はセレクト レバーを(N)レンジに入れると、エンジン ブレーキが全く効かず思わぬ事故の原因となります。

また、下り坂などでは必ず路面状態やスピードに応じてセレクト レバーを(S)レンジまたは、(R)レンジに入れてエンジン ブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏み続けることはやめてください。



坂道などで注意していただきたいこと

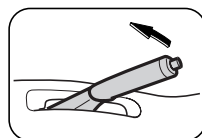
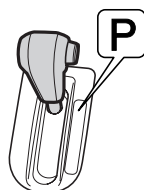
坂道などでは、セレクト レバーを(R)、(S)レンジまたは(R)レンジに入れたまま惰性で後退したり、(R)レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

駐停車するときは

駐停車するときは、必ずセレクト レバーを(P)レンジの位置にし、しっかりと駐車ブレーキをかけてください。

また、お車が完全に停止するまでセレクト レバーを(P)レンジには入れないでください。



お子さまを乗せるときは

ドアの開閉は、大人が注意しながら操作してください

ドアを閉めるときなど、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。開閉、施錠、解錠は大人が行い、安全のためにもチャイルド プルーフを使用してください。

(車体各部の開閉→ 82 ページ)



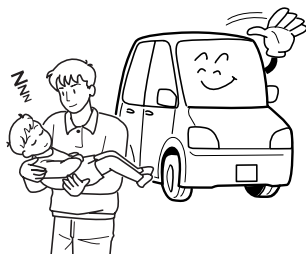
シートの操作は大人が注意しながら行ってください

操作を行うときは動いている部分にお子さまの手や足を挟まないように注意してください。

隙間に指などが挟まると、けがをするおそれがあります。

お車から離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによるお車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。必ずお子さまと一緒にお車から離れてください。

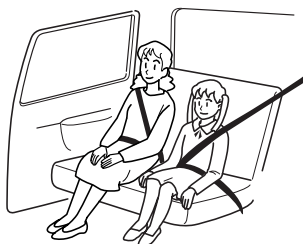


必読！ドライバーのみなさまへ お子さまを乗せるときは

お子さまは大人と一緒にリヤシートにお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。

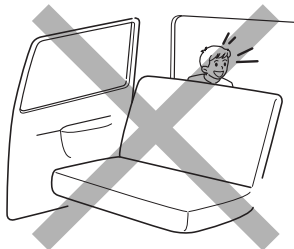
また、万一のとき、お子さまがインストルメント パネルに頭をぶつかけたり、放り出されるおそれがあります。



お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。



お子さまにもシート ベルトを着用させてください

- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させてください。急ブレーキ時など体が固定されず大変危険です。また、お子さまをひざに抱いて走行しないでください。ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 6歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ず（スバル純正）チャイルド シートを使用してください。通常のシート ベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
- チャイルド シートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

（チャイルド シート→ 56 ページ）

- チャイルド シートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付け要領は、それぞれのチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んでください。
- お子さまを乗せていないときでもチャイルド シートは、しっかりとシートに取り付けるか、荷室へ収納してください。
シートから取り外した状態で室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

5 ドア車

- リヤ シートの左右席に、ISO* FIX対応 ISO FIX固定バー&テザー アンカー対応のチャイルド シートを取り付けることができます。

(チャイルド シートの固定のしかた
→ 66 ページ)

シート ベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。



* ISOはInternational Organization for Standardization (国際標準化機構) の略

必読！ドライバーのみなさまへ お子さまを乗せるときは

チャイルド シートは正しく取り付けてください

- お子さまはリヤ シートに乗せてください。
- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 6 歳未満のお子さまはチャイルド シートの着用が法律で義務付けられていますので、必ず（スバル純正）チャイルド シートを使用してください。
チャイルド シートの使用方法はチャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

（SRSエアバッグ→ 71 ページ）

パワー ウィンドウはお子さまに操作させないでください

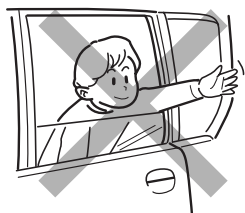
パワー ウィンドウは大変強い力で開閉しますので、開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ロック スイッチを“OFF” にすると、運転席ウィンドウ ガラス以外は開閉できなくなります。お子さまを乗せているときは、ロック スイッチを“OFF” にしてください。

（ロックスイッチ→ 101 ページ）



お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。



お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょ

お車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、スバルが推奨するものに基づいています。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。

腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態では、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

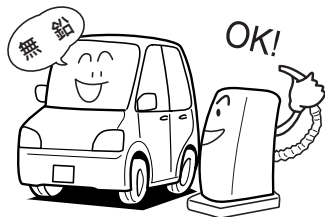
必読！ドライバーのみなさまへ お車を長持ちさせるには

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラー ガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。



* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。

お車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けしないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロント ガラスおよびフロント ドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、このお車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、スバル販売店にご相談ください。
- 無線機やスバル指定部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スバル販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にスバル指定部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

指定部品を使いましょう

部品を交換する場合は「スバル指定部品」のご使用をおすすめします。



こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

(警告灯→ 113 ページ)

オーバー ヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバー ヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。

また、あわてて冷却水注入口を外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

(オーバー ヒートの処置→ 210 ページ)

エンストしたとき

エンストしたときは落ち着いて操作してください。

ブレーキの倍力装置やパワー ステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れてハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

(タイヤ交換→ 204 ページ)

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所にお車を停車し、下回りを点検してください。

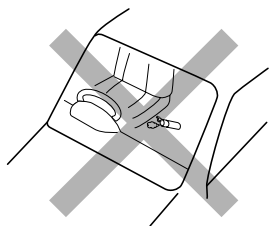
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

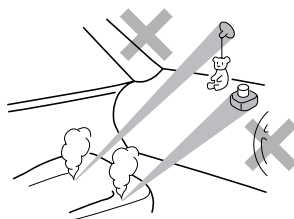
地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、お車に異常のおそれがあります。このようなときは、スバル販売店で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、次の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメント パネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブ ボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。



- ウィンドウ ガラスには吸盤を付けないでください。また、インストルメント パネルの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。



- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウ ガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウィンドウ ガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジン ルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジン ルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
また、走行中にエンジン ルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

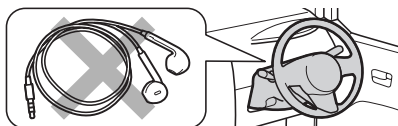
必読！ドライバーのみなさまへ こんなときは

車内に水などをかけないでください

インストルメント パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにスバル販売店にご相談ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- インストルメント パネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ケーブルなどをひっかけたりしないでください。
スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグ システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。



- 運転者はハンズ フリー以外の携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カー ナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていない状態での走行は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一レッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

車止めなどに注意をしてください

次のような場合には、スポイラー、大型バンパーなどを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

知っておいていただきたいこと

RF送信機の取り付けについて

RF送信機は、次のような電子システムに影響を与える可能性がありますので、取り付けないでください。

- 燃料噴射システム
- ABS（アンチロック ブレーキ システム）
- SRSエアバッグ システム
- プリテンショナー付シート ベルト

故障診断コネクタに機器を取り付けないで

お車の故障診断コネクタには、点検整備用の故障診断装置のみが接続できます。故障診断装置以外の機器を接続すると、車両システムに悪影響をおよぼしたり、バッテリーが上がるなど、思わぬトラブルをまねくおそれがあります。特定機器以外の接続に起因する不具合については、メーカー保証の対象にはなりません。

車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

スバルおよびスバルが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないよう加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうスバルは、株式会社SUBARUを意味しています。】

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing a memo.



安全装備

お車を運転するうえで乗員の安全を保護するための
装備について説明しています。

■ シート

正しい運転姿勢	46
フロント シート	47
リヤ シート	49

■ ABS

ABS (EBD機能付)	78
--------------	----

■ シート ベルト

正しい着用	51
3点式ELRシート ベルト	53
プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付 シート ベルト	54
可変ロード リミッター機構付 シート ベルト	55

■ チャイルド シート

チャイルド シート	56
チャイルド シートの選びかた	58
チャイルド シートの固定のしかた	66

■ SRSエアバッグ

SRSエアバッグ	71
SRSエアバッグ警告灯	77
SRSエアバッグ コンピューター	77

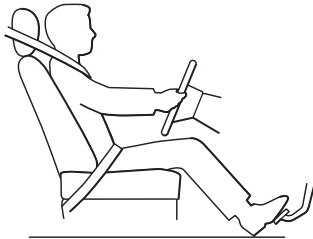


シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、次のことに注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シート ベルトが正しく着用できること
- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること



⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シート ベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシート ベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあります。

(シート ベルト→ 51 ページ)

⚠注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。



フロント シート

シート スライド調整

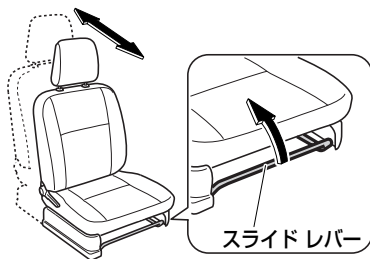
▼調整を行う前に

⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



リクライニング調整

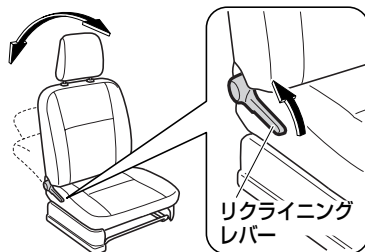
▼調整を行う前に

⚠警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背もたれを軽くゆすり、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニング レバーを引き上げながら背もたれの角度を調整します。



⚠注意

- リクライニング レバーを引き上げるときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

▼背もたれを元に戻すときは

⚠注意

- 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。



○ウォークイン レバー

3ドア車

▼操作方法

助手席側フロント シートのウォークインレバーは、リヤ シートからレバーを引いて、背もたれを倒すことができます。



⚠注意

- 背もたれを前に倒した状態で運転しないでください。背もたれが急に戻り、後部座席の人に当たるなど、思わぬ事故の原因となります。
- 乗り降りするときは、足など引っかかないように注意してください。

📱アドバイス

- ウォークイン レバーを引くと、背もたれは前に倒れますが、シートは前に移動しません。

ヘッド レストの調整

5ドア車

▼調整を行う前に

⚠警告

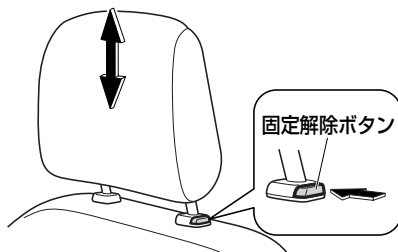
- ヘッド レストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッド レスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けしないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼調整方法

そのまま持ち上げて調整します。

下げるときは固定解除ボタンを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定してください。

取り外すときは固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。





リヤ シート

⚠注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はシートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。

背もたれの前倒し

リヤ シートを操作することで、カーゴルームを広くすることができます。

⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 背もたれを前に倒すときは、背もたれが急に倒れるおそれがあります。必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。
- 倒した背もたれの上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

👉 アドバイス

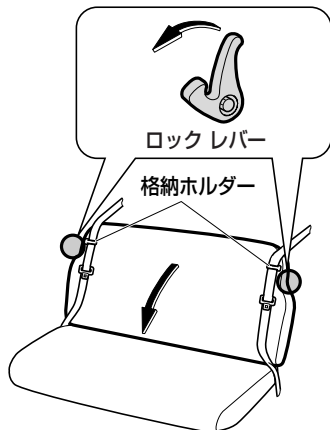
- 背もたれを倒すとき、または倒した背もたれを元に戻すときは、シート ベルトがシートにかみ込むことを防ぐために、必ず格納ホルダーにシート ベルトをかけてから操作してください。



3 ドア車

▼操作方法

1. かみ込み防止のため、格納ホルダーにシートベルトを掛けます。
2. 左右のロックレバーを引き、背もたれを前に倒します。



▼元に戻すときは

背もたれを引き起こします。

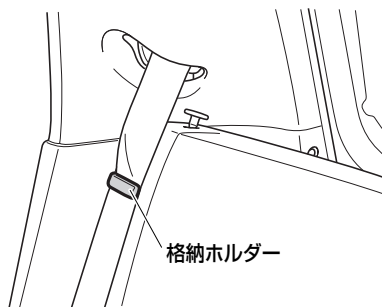
⚠注意

- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬけがをするおそれがあります。

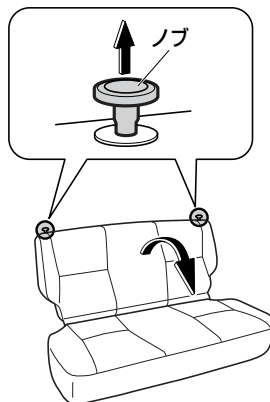
5 ドア車

▼操作方法

1. かみ込み防止のため、格納ホルダーにシートベルトをかけます。



2. ノブを引きながら背もたれを前に倒します。



▼元に戻すときは

背もたれを引き起こします。

⚠注意

- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬけがをするおそれがあります。

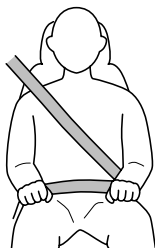


シートベルト

正しい着用

運転者はお車を運転する前に、次のことに注意してシートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱い方を身に付けてください。



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

警告

- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。
- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



- リヤシートベルトの格納ホルダーは背もたれを前に倒したときにシートベルトを固定するための物です。シートベルト着用時には格納ホルダーから外して使用してください。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用してください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。





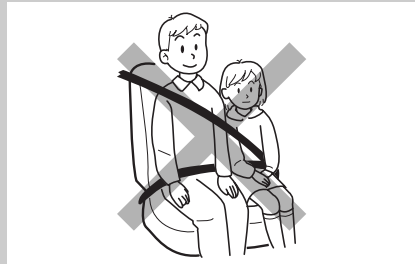
⚠警告

- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシート（別売）を使用してください。
（チャイルドシート→ 56 ページ）
（チャイルドシートの固定のしかた→ 66 ページ）
- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩部ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。



⚠警告

- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。



- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。



- ハンドルやメーターに必要以上に近づいて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、クリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。



⚠警告

- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、スバル販売店でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用すると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、スバル販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

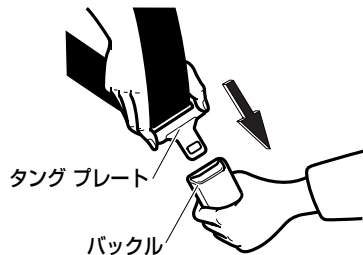


3点式ELRシートベルト

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートベルトを調整します。
2. タングプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にタングプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



⚠警告

- 肩部ベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

⚠注意

- タングプレートを差し込むとき、タングプレートでバックルを無理にこじらないでください。

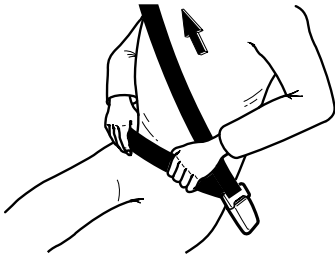




アドバイス

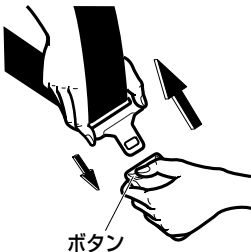
- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- 運転席シートベルトは、シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。（シートベルト警告灯→ 117 ページ）

3. 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるとし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。



▼外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどが無いかを確認しながら、ベルトやタングプレートに手を添えてゆっくり戻します。



プリテンショナー&可変ロードリミッター機構付シートベルト

○フロントシート

5ドア車

△警告

- プリテンショナー&可変ロードリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 次のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 車両前部を修理するとき
 - 無線機を取り付けるとき
 - 廃車にするとき



プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シートベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシートベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠️注意

- プリテンショナー機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。



アドバイス

- プリテンショナー機構はシートベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

可変ロードリミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠️注意

- 可変ロードリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。

可変ロードリミッター機構付シートベルト

○フロントシート

③ドア車

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠️警告

- 可変ロードリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。

⚠️注意

- 可変ロードリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。





チャイルドシート

チャイルドシート

6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシートをご使用ください。

車両に固定するチャイルドシートには、ISO^{*1} FIX対応ISO FIX固定バー&テザーアンカーで固定するタイプとシートベルトで固定するタイプがあります。

(チャイルドシートの固定のしかた
→ 66 ページ)

チャイルドシートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。



アドバイス

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルドシートを選んでください。

チャイルドシートについて

- ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

(チャイルドシートの種類→ 57 ページ)

チャイルドシートの 質量グループについて

ECE R44^{*2}の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により、5種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループI	9~18kg
グループII	15~25kg
グループIII	22~36kg

*1 International Organization for Standardization
(国際標準化機構)の略

*2 チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。



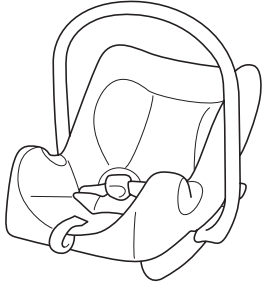
チャイルドシート

チャイルドシートの種類

○ベビーシート

体重の目安：～13kg

質量グループ0、0+に相当します。

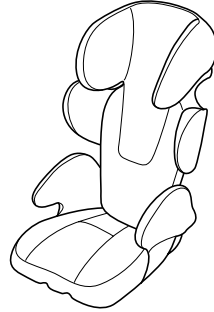


○ジュニアシート

体重の目安：15～36kg

年齢の目安：3～12歳

質量グループII、IIIに相当します。



○チャイルドシート

体重の目安：9～18kg

質量グループ0、0+およびIに相当します。

(チャイルドシートの質量グループ
について→ 56 ページ)



チャイルド シートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

- ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで取り付ける場合
(ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 59 ページ)
- シート ベルトで取り付ける場合
(シート ベルトで取り付けるチャイルド シート
適合性一覧表→ 63 ページ)



アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、スバル販売店、チャイルド シート製造業者、または販売店にご相談ください。



ISO* FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで 取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

3ドア車

このお車には、ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーが装備されていないため、ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーによるチャイルドシートの取り付けはできません。

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	×
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	×
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9~18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	×
	B1	ISO/F2X	×
	A	ISO/F3	×
II (15~25kg)		—	×
III (22~36kg)		—	×

●記号の説明

× : ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることはできません。

* International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略



5 ドア車

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	IL1
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL1
	D	ISO/R2	IL1
	C	ISO/R3	IL1
I (9~18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IL2またはIUF
	B1	ISO/F2X	IL2またはIUF
	A	ISO/F3	IL2またはIUF
II (15~25kg)		—	×
III (22~36kg)		—	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX 対応の前向きチャイルドシートのみ取り付け可能です。

IL1：スバル純正ISO FIXチャイルドシート（後ろ向き）

IL2：スバル純正ISO FIXチャイルドシート（前向き）

×：ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることはできません。

●ISO FIX対応チャイルドシートのリスト

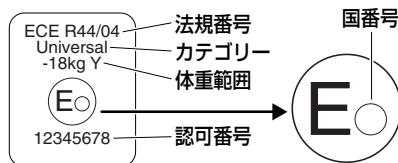
質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX対応チャイルドシート	使用の向き	カテゴリー
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	スバル純正ISO FIX チャイルドシート	後ろ向き	準汎用
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1			
	D	ISO/R2			
	C	ISO/R3			
I (9~18kg)	B	ISO/F2		前向き	
	B1	ISO/F2X			
	A	ISO/F3			

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、スバル販売店、チャイルドシート製造業者または販売店にご相談ください。

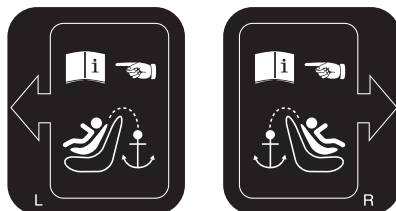


アドバイス

- このお車のISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーは、2006年10月1日施行の新保安基準に適合しています。
これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルドシートしか取り付けることができません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルドシートには、次の認可ラベルが表示されています。
- ECE R44 の認可マークです。
汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



- スバル純正ISO FIX対応テザー アンカーの位置を示すマークの一例です。



- スバル純正の準汎用（セミ ユニバーサル）カテゴリー、および汎用（ユニバーサル）のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはスバル販売店にご相談ください。



 アドバイス

- チャイルド シートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	お子さまの体格	使用の向き	形状、大きさ
A	ISO/F3	幼児	前	大型
B	ISO/F2	幼児	前	中型
B1	ISO/F2X	幼児	前	中型
C	ISO/R3	幼児	後ろ	大型
D	ISO/R2	幼児	後ろ	中型
E	ISO/R1	乳児	後ろ	小型

- 詳しくは、スバル販売店、チャイルド シートの製造業者、または販売店にご相談ください。



シートベルトで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

3ドア車

このお車にチャイルドシートを取り付けることはできません。

質量グループ	座席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0 (10kgまで)	×	×
0+ (13kgまで)	×	×
I (9~18kg)	×	×
II (15~25kg)	×	×
III (22~36kg)	×	×

●記号の説明

×：チャイルドシートを取り付けることはできません。



5 ドア車

質量グループ	座席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0 (10kgまで)	×	U
0+ (13kgまで)	×	U
I (9~18kg)	×	U
II (15~25kg)	×	U
III (22~36kg)	×	U

●記号の説明

U : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリのチャイルドシートが取り付け可能です。

× : チャイルドシートを取り付けることはできません。

●取り付け可能なチャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	使用の向き	カテゴリ
0 (10kgまで)	スバル純正チャイルドシート	後ろ向き	汎用
0+ (13kgまで)			
I (9~18kg)	スバル純正チャイルドシート	前向き	汎用
II (15~25kg)	スバル純正ジュニアシート	前向き	汎用
III (22~36kg)			

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、スバル販売店、チャイルドシート製造業者または販売店にご相談ください。

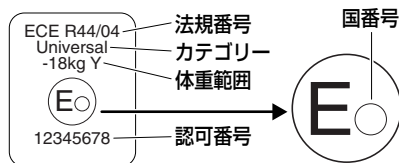


👉 アドバイス

- チャイルドシートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。

(チャイルドシートの選びかた→ 58 ページ)

- ECE R44 に適合している「U」のチャイルドシートには、次の認可ラベルが表示されています。
- カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルドシートの認可であることを表します。



- スバル純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはスバル販売店にご相談ください。



チャイルドシートの固定のしかた

5ドア車

警告

- チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
- 助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 急ブレーキや事故の際、お子さまの安全のために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシート（ジュニアシート）を使用しているときは、チャイルドシート付属の取扱説明書に従ってシートベルトで固定してください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

警告

- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けして使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートやシートベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。
- チャイルドシートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または、荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。



⚠️注意

- 標準装備のシートベルトは大人用です。6歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシートを使用してください。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

👉アドバイス

チャイルドシートをリヤシートに取り付けたときは

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤシートの助手席側に取り付けてください。

(正しい運転姿勢→ 46 ページ)

チャイルドシートを使用しないときは

- チャイルドシートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

ISO FIX対応ISO FIX 固定バー&テザー アンカーによる固定

▼チャイルドシートを取り付ける前に

⚠️警告

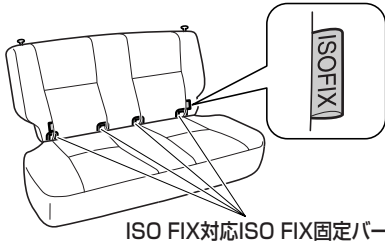
- チャイルドシートを取り付けるときは、ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが正しく固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



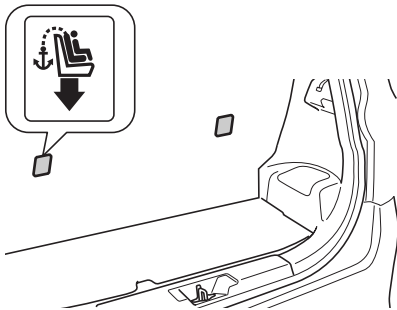


▼取り付けかた

1. ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザーアンカーの位置を確認します。
- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。

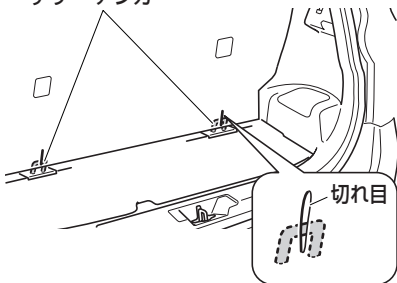


- テザー アンカーを示すマークが背もたれ裏側にあります。



- 背もたれの切れ目から、テザー アンカーの位置を確認します。

テザー アンカー



2. チャイルド シートのベース シートをISO FIX固定バーに確実に取り付けます。
3. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) をチャイルド シートのベースシートに確実に取り付けます。
4. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) を上下左右に軽くゆさぶり、ISO FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
5. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) のテザー ベルトのフックをテザー アンカーに確実に引っかけます。
6. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) のテザー ベルトがピンと張る (5kg程度) まで強く引っ張って、チャイルド シートの上側を確実に固定します。
7. ISO FIXチャイルド シート (テザー式) のテザー ベルトを軽く引っ張り、テザー アンカーに確実に固定されていることを確認します。
8. チャイルド シートが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。

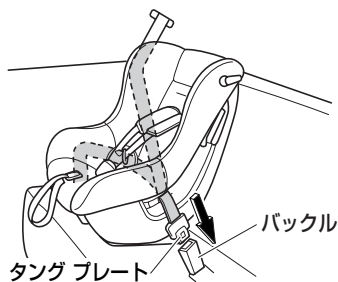


チャイルド シート

シート ベルトによる固定*

▼取り付けかた

1. チャイルド シートをリヤ シートに置きます。
2. シート ベルトのタング プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。



3. バックルの中にタング プレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- タング プレートを差し込むとき、タング プレートでバックルを無理にこじらないでください。

4. チャイルド シートのロック オフ レバーを開き、肩ベルトをロック オフ レバーの下に通します。
5. チャイルド シートに体重をかけてリヤ シートに押しつけながら、肩ベルトをたるみがなくなるまで巻き取らせます。
6. チャイルド シートのロック オフ レバーを閉じ、肩ベルトを固定します。
7. チャイルド シートやシート ベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認してください。

⚠注意

- チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。

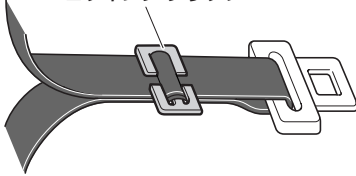
* 固定のしかたは代表例です。

また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルド シートの形状とは異なります。



8. チャイルドシートにシートベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキングクリップを使用して固定します。

ロッキングクリップ



アドバイス

- ロッキングクリップの取り付けは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
また、ロッキングクリップの購入については、スバル販売店にご相談ください。



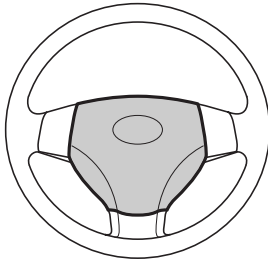
SRSエアバッグ

SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

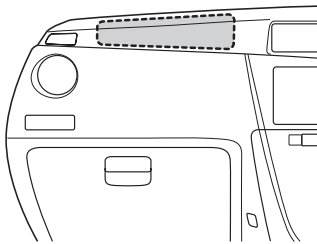
運転席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



助手席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。



警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しい着用→ 51 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

* Supplemental Restraint System (サブリメンタル レストレイント システム) の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です。

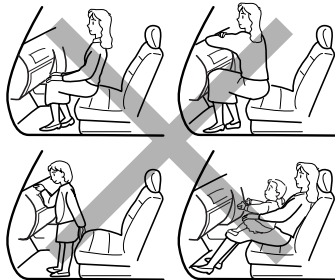




⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているののでやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず次の注意事項をお守りください。
- シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

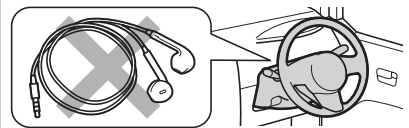


⚠警告

- 助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



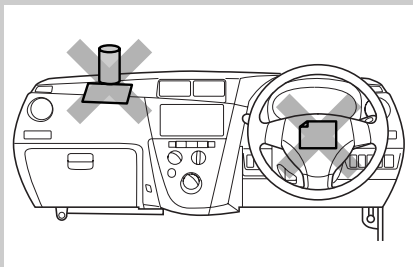
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ケーブルなどをひっかけたりしないでください。スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。





⚠警告

- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメント パネルの上に飲み物や物を置かないでください。SRSエアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。

SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、次の事項を必ず守ってください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。





⚠注意

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドウ ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。

⚠注意

- 次のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ハンドルを取り外すとき
 - 車両前部を修理するとき
- お車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

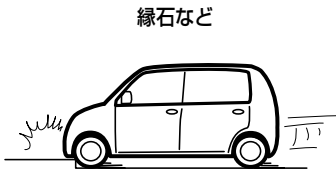


作動する場合

SRSエアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にシートベルトのプリテンショナー機構（バン仕様車以外）も作動します。

走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバッグが作動することがあります。

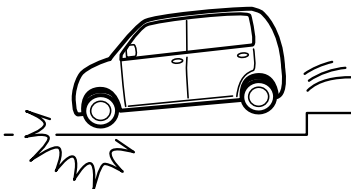
- 高速で縁石などに衝突したとき



- 深い穴や溝に落ち込んだとき



- ジャンプして地面に衝突したとき



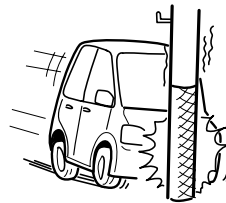
作動しない場合

次のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

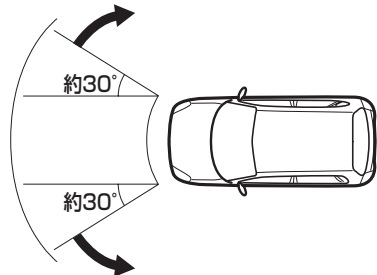
- コンクリートの壁に約 20km/h以下の速度で正面衝突したとき



- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき

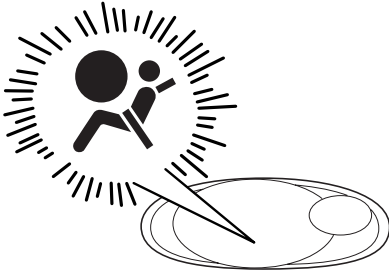


- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき

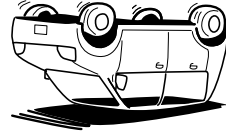




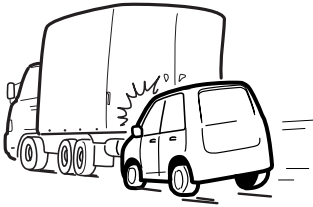
- SRSエアバッグ警告灯点灯時



- 車両が横転、転覆したとき



- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき



次のようなときは、SRSエアバッグが作動しません。

- エンジン スイッチが“LOCK”、“ACC”の位置のときに衝突したとき



次のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき





SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、次のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 71 ページ)
- プリテンショナー機構 (5 ドア車)
(プリテンショナー機構
→ 55 ページ)

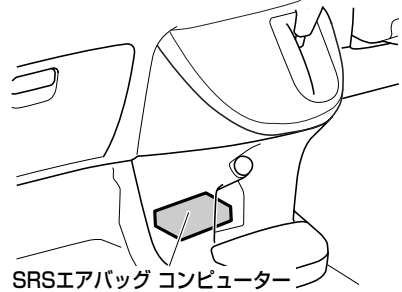
⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。



⚠注意

- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRSエアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、飲み物などをかけないように注意してください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。スバル販売店で交換してください。



ABS

ABS* (EBD機能付)

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution (電子制動力配分制御) の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠注意

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤ チェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
 - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

*ABSは、Anti-lock Brake System (アンチロック ブレーキ システム) の略です。

アドバイス

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ*はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



お車を運転する前に

お車を運転する前に必要な各部の開閉、調整、点検
について説明しています。

■ 車体各部の開閉

キー	82
電波式リモコン ドア ロック	83
盗難警報装置	84
ドアの開閉	87
チャイルド プルーフ	89
集中ドア ロック	89
キー抜き忘れ警告ブザー	90
リヤ ゲート	90
ボンネット	94
フューエル リッド	96
パワー ウィンドウ	99
手動式ウィンドウ	103

■ 車体各部の調整

ルーム ミラー	104
ドア ミラー	104

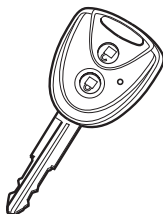


車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほか、ドアの施錠、解錠などお車を操作するためになくてはならない物です。大切に管理してください。

メインキー



スペアキー



アドバイス

- キーはメインキーとスペアキーを用意しております。スペアキーは、いざというときのために予備として使用してください。
- メインキーは4枚まで設定することができます。

アドバイス

キー ナンバー プレートについて

- お客様以外にキー ナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキー ナンバーを打刻してあります。



キー ナンバー

- キー ナンバー プレートを車両以外の場所に大切に保管してください。万一、キーを紛失したときに、キー ナンバーをスバル販売店にご連絡いただければ、指定キーを作ることができます。
- スペアキーを作るときもこのキー ナンバーは必要になりますので、車両以外の場所に大切に保管してください。

航空機に乗るときは

- 航空機にメインキー（電波式リモコン ドア ロック）を持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

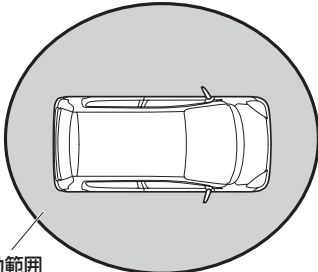


電波式リモコン ドア ロック

ドアの施錠、解錠をメイン キーで行うことができます。

▼ 作動範囲

車両中心から周囲約 3m 以内です。



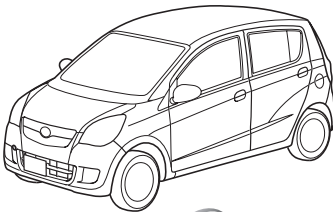
作動範囲
車両中心から周囲約3m以内

▼ 操作方法

ドアが施錠された状態で、メイン キーの“UNLOCK” ボタンを押すと、すべてのドアは解錠されます。

“LOCK” ボタンを押すと、すべてのドアは施錠されます。

- ボタンを押すと、キーのインジケータが 1 回点滅します。



アドバイス

- メイン キーは誤って操作しないために、凸側が“LOCK” ボタン、凹側が“UNLOCK” ボタンになっています。
- “UNLOCK” ボタンを押し、ドアロックが解錠されたあと、ドアの開閉を行わなかった場合は約 30 秒後、自動的にすべてのドアが施錠されます。（自動ロック機能）
- メイン キーと車両中心の距離が約 3m 以上離れているときは正確に作動しないことがあります。また、近くにTV塔や発電所、放送局があるなど周囲の状況により正確に作動しないことがあります。
- キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれている場合、またはいずれかのドアが開いている場合は作動しません。
- メイン キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので次のことをお守りください。
 - 直射日光や高温下に放置しないでください。
 - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えないでください。
 - 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにしてください。
- お車から離れるときは、ドア ハンドル、またはリヤ ゲート ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。



お車を運転する前に 車体各部の開閉

アドバイス

- メイン キーの電池寿命は、1日10回乗降時で約2年です。

電池の消耗について

- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

(キーの電池交換→ 240 ページ)

作動完了の確認方法

非常点滅表示灯と室内照明により、電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認することができます。

▼ 確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅表示灯と室内照明（スイッチが“DOOR”のとき）が下表の通り作動します。（アンサー バック）

これにより、電波式リモコン ドア ロックの作動完了を確認してください。

アンサーバック	LOCK時	UNLOCK時
非常点滅表示灯	1回点滅	2回点滅
室内照明	減光し、その後消灯	約15秒間点灯

アドバイス

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

盗難警報装置

盗難警報装置は、すべてのドアを閉め、電波式リモコン ドア ロックでドアを施錠した場合に、盗難に対する警戒を開始します。

電波式リモコン ドア ロック以外の操作でドアを開けると、警報を発して周囲に異常を知らせます。

アドバイス

- 盗難警報装置は、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、盗難警報装置の作動について知らない方が運転するときは、盗難警報装置について十分ご説明ください。盗難警報装置の作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。
- たとえ盗難警報装置をセットしていても、現金や貴重品は車内に放置しないでください。

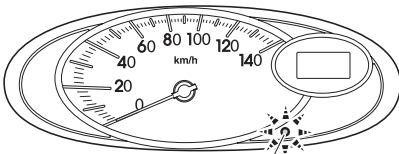


盗難警報装置の セット方法

すべてのドアを閉め、電波式リモコン ドア ロックでドアを施錠すると、セキュリティ表示灯が点灯し、セットを開始します。

約 30 秒後にセットが終了し、盗難警報装置は警戒状態になります。

警戒中は、セキュリティ表示灯が点滅します。



セキュリティ表示灯

アドバイス

- 電波式リモコン ドア ロック以外の操作でドアを施錠した場合、盗難警報装置はセットされません。（電波式リモコン ドア ロックの自動ロック機能で施錠された場合は、セットされます）
- セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に次の操作をした場合、盗難警報装置のセットは中断されます。
 - 運転席ドアを解錠したとき
 - ドアを開けたとき
 - キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれたとき

警戒中の作動

警戒中に電波式リモコン ドア ロック以外でドアを開けると、警報が作動します。

（1次警報）

この間、警報が解除されなかった場合、さらに警報が作動します。（2次警報）

アドバイス

- 警報作動中にドアを閉めても、警報は停止しません。
- 警報終了後、ドアを閉めると、盗難警報装置が再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車から離れる際は確実に施錠してください。

○盗難警報

▼ 1次警報

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅表示灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

▼ 2次警報

- セキュリティ表示灯が点滅
- 非常点滅表示灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る



お車を運転する前に 車体各部の開閉

盗難警報装置の 解除方法

電波式リモコン ドア ロックでドアを解錠するか、エンジン スイッチを“ON”の位置にすると解除できます。

アドバイス

- 盗難警報装置は、車内に人が乗っているときや、ドア ウインドウ ガラスが開いているときにも作動します。盗難警報装置を誤作動させないために、車内に人が乗っているときや、ドア ウインドウ ガラスが開いているときは、盗難警報装置をセットしないでください。

警報の停止方法

すべてのドアを閉め、電波式リモコン ドア ロックで施錠するか、エンジン スイッチを“ON”の位置にします。

盗難警報装置の 作動履歴の確認

盗難警報装置のセット中に警報（2次警報まで作動した場合のみ）が作動したことを確認することができます。

▼ 確認方法

エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴り、2次警報まで作動したことを知らせます。

アドバイス

- 作動履歴の確認は、2次警報作動後、1回のみ行うことができます。

盗難警報装置の メンテナンスについて

盗難警報装置のメンテナンスは不要です。

注意

- 盗難警報装置の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。



ドアの開閉

▼操作を行う前に

警告

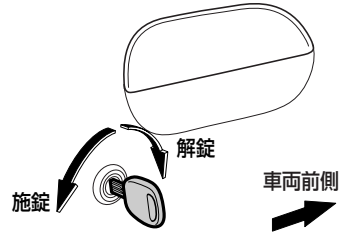
- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物がお車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- お車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人でお車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたづらをさせないでください。思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

アドバイス

- ドアを施錠している場合でも、お車から離れるときは貴重品などをお車の中に置いたままにしないでください。

車外からの施錠、解錠

キーを確実に差し込んでから回します。キーを車両前側に回すと解錠され、後ろ側に回すと施錠されます。

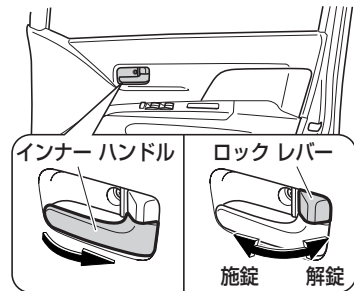


アドバイス

- ドアのキー挿入口は助手席側には設定していません。

車内からの施錠、解錠

ロックレバーを押し込むと施錠できます。ロックレバーを手前に引くと解錠できるインナーハンドルを引くとドアが開きます。





お車を運転する前に 車体各部の開閉

車外からキーを使わない施錠

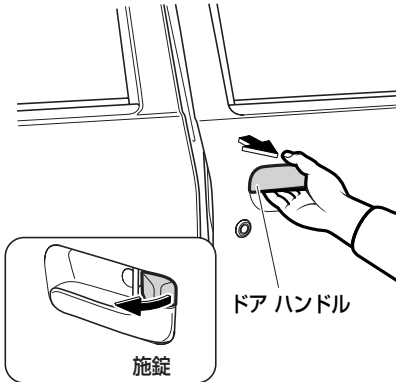
👉 アドバイス

- キーを車内に置き忘れないようにしてください。不注意によりキーを車内に閉じ込めてしまう場合があります。
- キーを使用せずにドアを施錠するときにはキーを手を持っていることを確認してからドアを閉める習慣を身に付ければ、車内にキーを閉じ込めてしまうことを防止できます。

○フロント ドア

▼操作方法

ロック レバーを押し込み、ドア ハンドルを引いたままドアを閉めて施錠します。



○リヤ ドア

5 ドア車

▼操作方法

ロック レバーを押し込み、ドアを閉めて施錠します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

エンジン スイッチにキーが差し込まれているときに作動します。

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されません。

- 車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席ドア ハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドア ロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

👉 アドバイス

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。



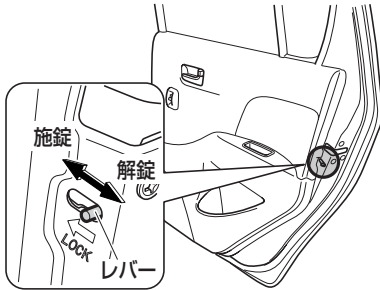
チャイルド プルーフ

5ドア車

お子さまの安全のため、チャイルド プルーフを左右リヤ ドア後部に設けています。

▼操作方法

レバーを“施錠”側にしておくと車内のドア ハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。ドアを開けるときは、車外のドア ハンドルで操作します。

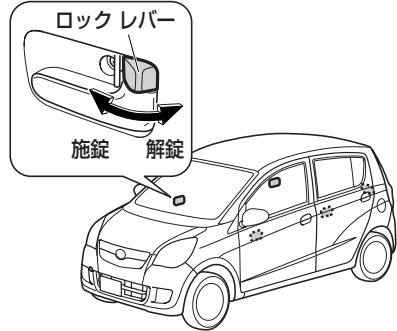


⚠注意

- お子さまをリヤ シートに乗せるときは必ずチャイルド プルーフを使用してください。

集中ドア ロック

運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動して助手席ドア・左右リヤ ドア（5ドア車）・リヤ ゲートが施錠、解錠されます。





お車を運転する前に 車体各部の開閉

キー抜き忘れ警告ブザー

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置でいずれかのドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

リヤ ゲート

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

走行するときは

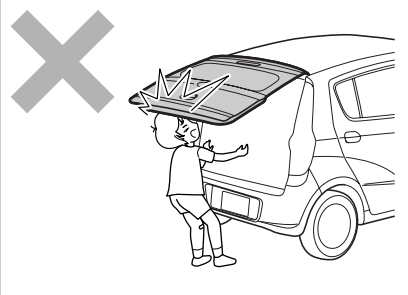
- 走行中はリヤ ゲートを閉じてください。開けたまま走行すると、リヤ ゲートが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 走行前はリヤ ゲートを軽くゆすり、リヤ ゲートが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然リヤ ゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⚠警告

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはリヤ ゲートの開閉をさせないでください。不意にリヤ ゲートが動いたり、閉めるときに頭をぶつかけたり、首や手を挟んだりするおそれがあります。



- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などになるおそれがあります。

⚠警告

リヤ ゲートを開閉するときは

- リヤ ゲートの開閉や荷物の出し入れをするときは、次のことをお守りください。リヤ ゲートで頭をぶつかけたり、首や手を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
- リヤ ゲート周辺の安全を十分確認してください。
- 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- リヤ ゲートのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- リヤ ゲートは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、リヤ ゲートが不意に閉まるおそれがあります。
- リヤ ゲートを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、リヤ ゲートが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

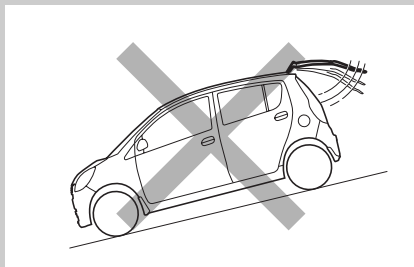




お車を運転する前に 車体各部の開閉

⚠警告

- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもリヤゲートが開閉しにくかったり、急にリヤゲートが閉じたり開いたりするおそれがあります。リヤゲートを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。

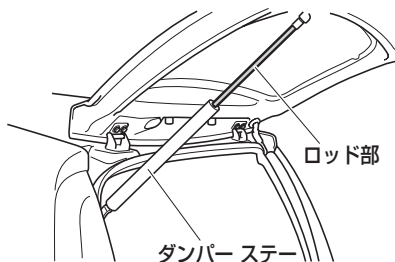


- リヤゲートを開ける前に、リヤゲートに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでリヤゲートが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- リヤゲートを支えているダンパーステーを持ってリヤゲートを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりするおそれがあります。
- リヤゲートにスバル指定用品以外のアクセサリーを取り付けしないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなり、不意にリヤゲートが閉まるおそれがあります。

⚠注意

ダンパーステーについて

- リヤゲートには、リヤゲートを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
- ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
- ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。



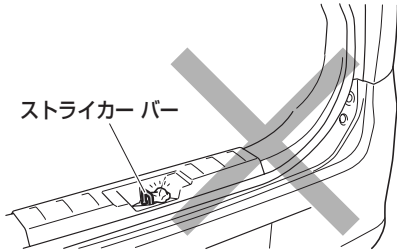
- 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。



⚠注意

ストライカー バーについて

- リヤ ゲートを閉めるときはストライカー バーに異物がかみ込まないようにしてください。
バーが破損し、リヤ ゲートが閉まらなくなるおそれがあります。



車内からの施錠、解錠

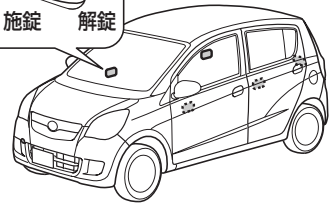
○リヤ ゲート連動集中ドア ロック
運転席ドアのロック レバーを操作すると、
連動してリヤ ゲートが施錠、解錠されま
す。このとき助手席ドア、リヤ ドア（5
ドア車）も同時に施錠、解錠されます。

▼施錠方法

運転席ドアのロック レバーを押し込むと
施錠できます。

▼解錠方法

運転席ドアのロック レバーを手前に引く
と解錠できます。



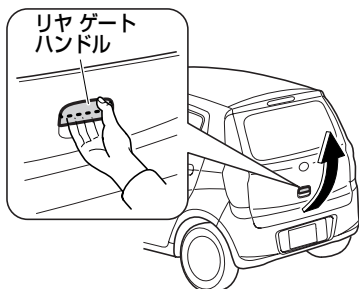


お車を運転する前に 車体各部の開閉

リヤ ゲートの開閉

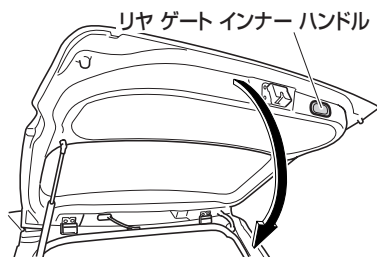
▼開けるとき

解錠したあとでリヤ ゲート ハンドルを引いて、リヤ ゲートをゆっくりといっぱいまで持ち上げます。



▼閉めるとき

1. リヤ ゲート インナー ハンドルを持ってリヤ ゲートを途中までゆっくりと下げます。



⚠注意

- リヤ ゲート インナー ハンドルで直接リヤ ゲートを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをしますおそれがあります。リヤ ゲートは、必ず外から押して閉めてください。

2. ハンドルから手を離して、リヤ ゲートを上から手で押さえつけるように閉めます。
3. 半ドアでないことを確認します。

ボンネット

▼操作を行う前に

⚠警告

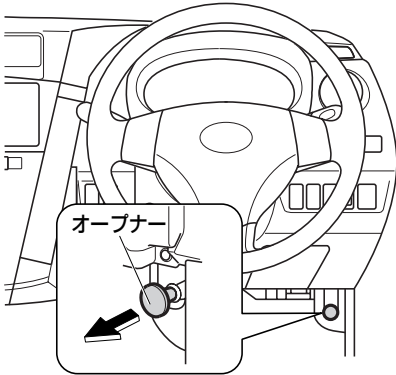
- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、次のことをお守りください。
 - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
 - 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあり大変危険です。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと思わぬけがにつながるおそれがあります。



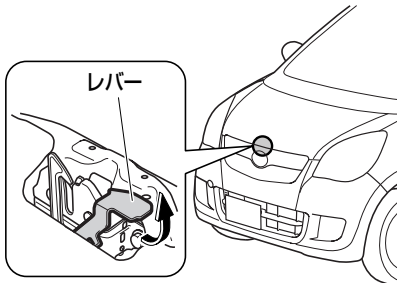
開けかた

▼操作手順

1. インstrument パネル右下のオープナーを手前に引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。



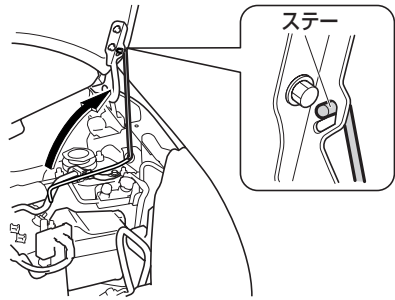
2. ボンネット前部中央にあるキャッチフックのレバーを矢印の方向に引き上げ、もう一方の手でボンネットを持ち上げます。



⚠注意

- エンジン回転中や停止後は、レバーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、レバーを持つ前に必ず確認してください。

3. ボンネットをステーで確実に支えます。



⚠注意

- エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、ステーを持つ前に必ず確認してください。
- ステーを確実に固定穴に差し込んでください。ステーが外れると大変危険です。

👉アドバイス

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けると、ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。



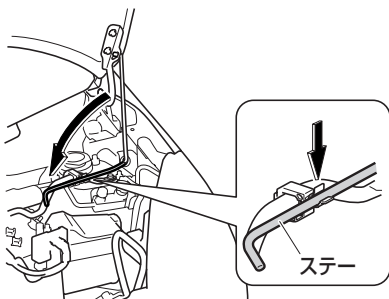


お車を運転する前に 車体各部の開閉

閉めかた

▼操作手順

1. ボンネットを片手で支えて、ステアを元の位置へ戻します。



2. ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉めます。

アドバイス

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえずぎないでください。

フューエル リッド

▼操作を行う前に

警告

- 燃料は引火しやすいため、次のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンは必ず止めてください。
- お車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近づけないでください。
- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
- フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。



⚠警告

- フューエル キャップを少しゆるめるときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
- こぼれた燃料がお車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したまま放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- スバル指定フューエル キャップ以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
- その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

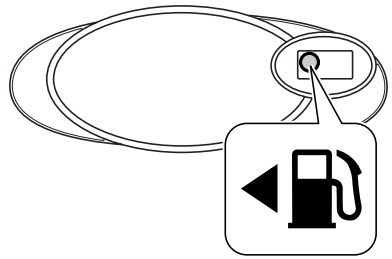
⚠注意

- 指定燃料は無鉛レギュラー ガソリンです。
- 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料*、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

フューエル リッドの開閉

👉アドバイス

- メーター内にフューエル リッドの車両取り付け方向を示しています。



* アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオ ガソリンは使用できます。

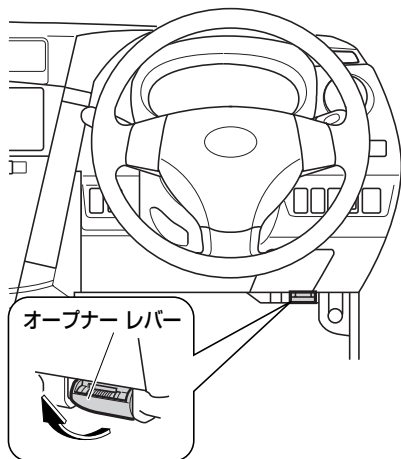




お車を運転する前に 車体各部の開閉

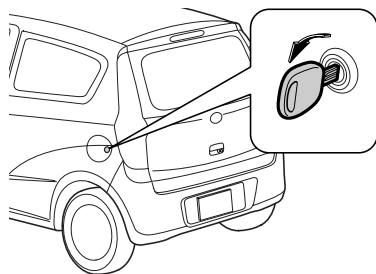
▼開けるとき

フューエル リッド オープナー レバー装着車
 インstrument パネルの右下にあるフューエル リッド オープナー レバーを引き上げます。



フューエル リッド オープナー レバー装着車以外

キーを差し込み左に回します。



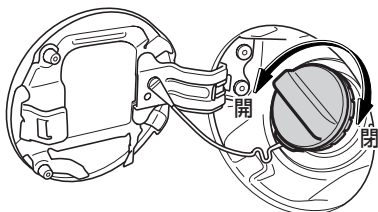
▼閉めるとき

リッドを押して閉めます。

フューエル キャップの開閉

▼開けるとき

左に回して開けます。

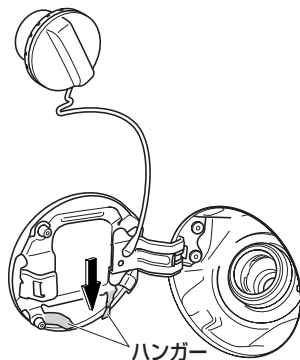


▼閉めるとき

「カチッ」という音が一度するまで、右に回して閉めます。

フューエル キャップ ハンガー

給油中は、外したフューエル キャップをフューエル リッド裏側にあるハンガーにかけておくことができます。





パワー ウインドゥ

オプション/グレード別装備

スイッチ操作により運転席、助手席、後席（5ドア車）のウインドゥの開閉ができます。

▼操作を行う前に

⚠警告

- パワー ウインドゥは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにパワー ウインドゥの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ロック スイッチを“OFF”にしてください。

👉 アドバイス

- 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさないでください。故障の原因となるおそれがあります。
- ウインドゥを完全に開閉した状態でスイッチを押し続けると故障の原因となりますので、操作完了後はすぐに手を離してください。
- パワー ウインドゥの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。エンジン停止時に行くと、バッテリーあがりの原因になります。
- ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドゥ スイッチの“開”または“閉”を連続操作しないでください。故障の原因となります。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、運転席・助手席のウインドゥ スイッチのマークが点灯します。

パワー ウインドゥ モーターの過熱保護機能について

- パワー ウインドゥ モーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワー ウインドゥ モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワー ウインドゥが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

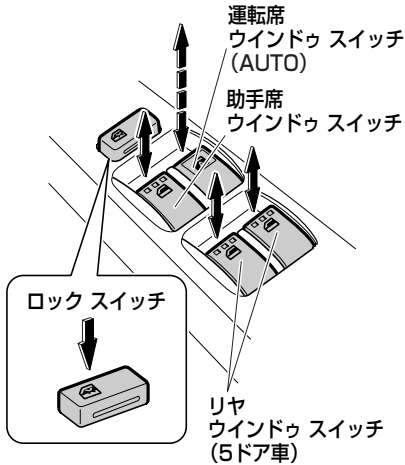




お車を運転する前に 車体各部の開閉

運転席ドア側スイッチ

エンジンスイッチが“ON”の位置のとき、使用できます。



○運転席ウィンドウスイッチ (AUTO)

▼操作方法

スイッチを軽く押し下げている間ウィンドウガラスは開き、軽く引き上げている間ウィンドウガラスは閉まります。手を離すと、その位置で止まります。

「カチッ」と音がするまで押し下げる、または引き上げるとウィンドウガラスは自動的に全開、全閉します。途中で止めるときは、軽く逆方向にスイッチを操作します。

○助手席ウィンドウスイッチ

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウィンドウガラスは開き、引き上げている間ウィンドウガラスは閉まります。手を離すと、その位置で止まります。

○リヤウィンドウスイッチ

5ドア車

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウィンドウガラスは開き、引き上げている間ウィンドウガラスは閉まります。手を離すと、その位置で止まります。



○ロック スイッチ

▼操作方法

スイッチを押すと“OFF”になり、運転席ウインドウ ガラス以外は開閉できなくなります。

もう一度押すと解除されます。



アドバイス

- スイッチを押して“OFF”にすると、助手席ドア側スイッチのマークも消灯します。

助手席・リヤ ドア側スイッチ

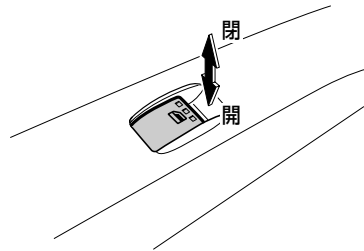
エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、使用できます。

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウインドウガラスは開き、引き上げている間ウインドウガラスは閉まります。

手を離すと、その位置で止まります。

○助手席

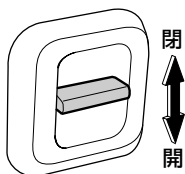




お車を運転する前に 車体各部の開閉

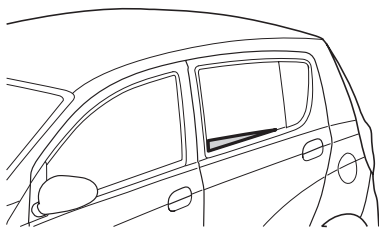
○リヤ ドア

5 ドア車



アドバイス

- 後席左右のドア ウィンドウは全開になりません。



ウィンドウ反転機構（運転席）

運転席ウィンドウ ガラスを閉めるときに、窓枠とウィンドウ ガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ウィンドウ ガラスの上昇を停止し、自動的にウィンドウ ガラスが下降します。

アドバイス

- ウィンドウ反転機構は次のときに作動します。
- 運転席ウィンドウ ガラスの開閉をスイッチにより自動（AUTO）で閉めているとき
- 特に小さな物を挟み込んだとき、ウィンドウ反転機構が作動しないことがあります。
- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がウィンドウ ガラスに加わると、ウィンドウ反転機構が作動することがあります。



初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、パワー ウィンドウの初期設定をしてください。

パワー ウィンドウの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

- 運転席ウィンドウ ガラスの自動開閉
- ウィンドウ反転機構（運転席）

▼ 操作手順

1. エンジン スイッチを“ON”の位置にします。
2. 運転席ウィンドウ スイッチを引き上げ続け、ウィンドウ ガラスを全閉します。
3. 全閉後そのままの状態です約2秒間スイッチを引き上げ続けます。

手動式ウィンドウ

オプション/グレード別装備

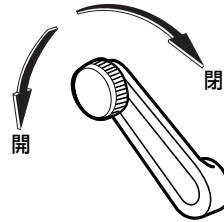
ハンドルを回してウィンドウ ガラスの開閉を行うことができます。

▼ 開けるとき

ハンドルを左に回すと、開きます。

▼ 閉めるとき

ハンドルを右に回すと、閉まります。



右側ドア

👉 アドバイス

- 開閉方向は車両の左側と右側で逆になります。



車体各部の調整

ルーム ミラー

▼操作を行う前に

⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

▼調整のしかた

ルーム ミラー全体を動かして角度を調整します。



ドア ミラー

▼操作を行う前に

⚠注意

- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあります。



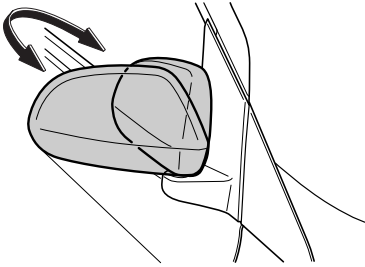
手動式

3ドア車

ミラーの格納、角度調整を手で行います。

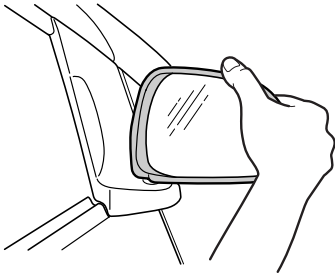
▼格納のしかた

ミラーは後方に倒して格納することができます。走行するときは必ず元に戻してください。



▼調整のしかた

ドア ミラー全体を動かして角度を調整します。



⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

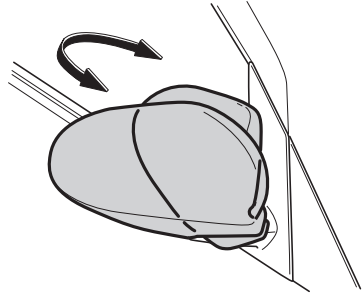
手動式（鏡面可動タイプ）

5ドア車

ミラーの格納、角度調整を手で行います。

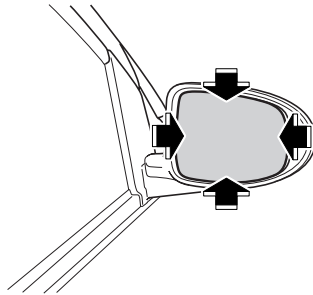
▼格納のしかた

ミラーは後方に倒して格納することができます。走行するときは必ず元に戻してください。



▼調整のしかた

鏡面部分を押し角度を調整します。



⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- 汚れた手で調整しないでください。鏡面に油や汚れが付くと夜間など後方からのライトが乱反射し、視認が困難になるなどして大変危険です。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



お車を運転するにあたって

お車を運転するうえでの各部のはたらき、装置の
使いかた、運転の方法について説明しています。

■ メーターのはたらき

メーター	108
------	-----

■ 表示灯、警告灯のはたらき

表示灯	111
警告灯	113

■ スイッチの使いかた

スイッチの名称	120
ライティング スイッチ	121
光軸調整ダイヤル	122
方向指示レバー	123
非常点滅表示灯スイッチ	124
ワイパー・ウォッシャー スイッチ	124
リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチ	126
ホーン スイッチ	127

■ 運転装置の使いかた

エンジン スイッチ	128
駐車ブレーキ	129
4WD車	130

■ エンジンのかけかた

マニュアル車	132
CVT車	133

■ マニュアル車の運転

マニュアル トランスミッション	136
-----------------	-----

■ CVT車の運転

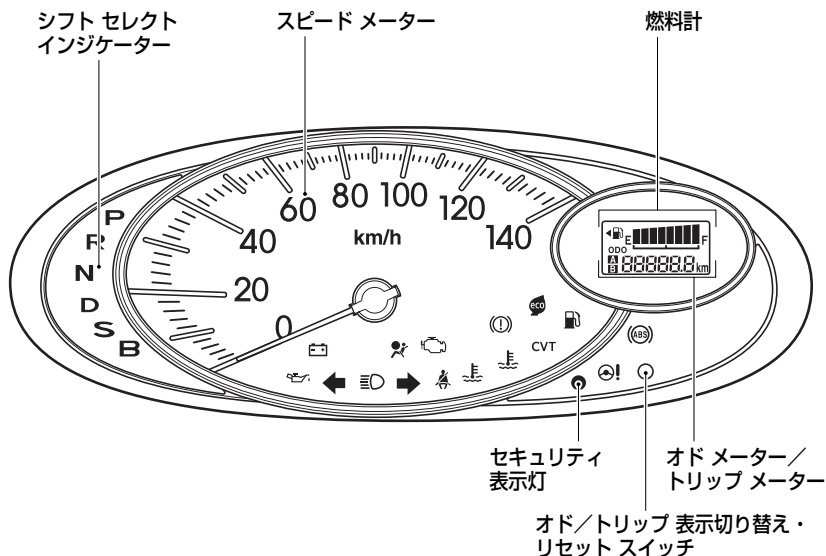
CVT車	137
セレクト レバーの操作	138
運転のしかた	140



メーターのはたらき

メーター

グレードの違い、オプションも含まれています。



○メーター照明

- 車幅灯に連動して点灯・消灯します。
- 車幅灯が消灯している状態で、エンジン スイッチが“ACC”または“LOCK”の位置のときは、ドア連動機能により点灯・消灯します。

(ドア連動機能→ 183 ページ)

🔧 アドバイス

- メーター照明の照度は調整することができます。

(照度調整→ 110 ページ)



スピード メーター

走行速度をkm/h で表示します。

燃料計

エンジン スイッチが“ON” の位置のとき、燃料残量を表示します。

燃料残量が少なくなると、燃料残量警告灯が点灯します。

(燃料残量警告灯→ 117 ページ)

⚠注意

燃料残量警告灯が点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

オド メーター/ トリップ メーター

エンジン スイッチが“ON” の位置のとき、表示されます。

○オド メーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

○トリップ メーター（区間距離計）

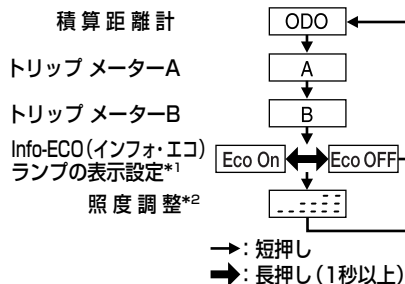
リセットした地点からの走行距離を表示します。

トリップ メーターは、同時に2つの区間の走行距離を表示することができます。

○オド／トリップ表示切り替え・ リセット スイッチ

▼表示を切り替えるには

スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。



*1 CVT車のみ。

*2 車幅灯が点灯しているときに表示されず。

▼トリップ メーター表示をリセットするにはリセットするトリップ メーター（AまたはB）を表示させ、スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。




お車を運転するにあたって メーターのはたらき

○Info-ECO（インフォ・エコ） ランプの表示設定

CVT車


Eco On（またはEco OFF）を表示させて、オドノトリップ表示切り替え・リセットスイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに、“Eco On”、“Eco OFF” が切り替わります。

（Info-ECO（インフォ・エコ）ランプ
→ 113 ページ）

表示設定	 Info-ECO（インフォ・エコ）ランプ
Eco On	二酸化炭素排出量の少ない、環境にやさしい運転をしていると点灯します。
Eco OFF	常時消灯します。

○照度調整

照度調整表示中、オドノトリップ表示切り替え・リセット スイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが下表のように変わります。

明るさ	表示	照度レベル
明るい  ↓ 暗い	— — — — —	レベル1
	— — — —	レベル2
	— —	レベル3
	—	レベル4

アドバイス

- エンジン スイッチが“ON”の位置で、車幅灯が点灯しているときのみ、照度調整を表示させることができます。



表示灯、警告灯のはたらき

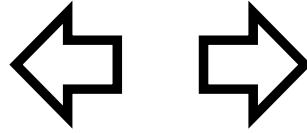
表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

△注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

方向指示器表示灯



○方向指示器表示灯

エンジン スイッチが“ON”の位置で、方向指示灯を点滅させると、同時に点滅します。

○非常点滅表示灯

エンジン スイッチの位置に関係なく、非常点滅表示灯を点滅させると、同時に点滅します。

👉アドバイス

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅表示灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

ハイビーム/パッシング表示灯



エンジン スイッチの位置に関係なく、ヘッド ランプを上向きの状態にすると点灯します。

水温表示灯（青色）



エンジン スイッチが“ON”の位置で、エンジン冷却水温が低いとき、青色に点灯します。

⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても、青色に点灯したままの場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

エンジン冷却水温が異常に高いときは

- 水温警告灯（赤色）が点滅・点灯します。

（水温警告灯（赤色）→ 116 ページ）

セキュリティ表示灯

（盗難警報装置 →84 ページ）

シフト セレクト インジケーター

CVT車



エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、使用中のセレクト レバーの位置が点灯します。



Info-ECO (インフォ・エコ) ランプ

CVT車



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転をしていると、点灯します。必要以上にアクセル ペダルを踏むと、消灯します。

アドバイス

- Info-ECO (インフォ・エコ) ランプの表示設定を“Eco On”に設定していないと、点灯しません。
(Info-ECO (インフォ・エコ) ランプの表示設定 → 110 ページ)

警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告表示します。

注意

- 警告灯が点灯 (または点滅) したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にしても警告灯が点灯 (または点滅) しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

注意

点灯・点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

オイル プレッシャー警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジン オイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠注意

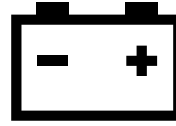
点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、スバル販売店にご連絡ください。

👉アドバイス

- オイル プレッシャー警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイル レベル ゲージで行ってください。(オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンス ノート」参照)

チャージ警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

👉アドバイス

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。



ブレーキ警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動して、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、次の場合に点灯します。

▼点灯理由

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の量が不足しているとき
- EBD制御に異常があるとき
(ABS (EBD機能付) → 78 ページ)

▼駐車ブレーキが解除されている場合

エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

○警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

⚠注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。
ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。
この場合、ブレーキの効が悪くなっているおそれがあります。
効が悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

水温警告灯（赤色）



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。
(オーバーヒートの処置 → 210 ページ)

👉アドバイス

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯（青色）が点灯します。
(水温表示灯（青色） → 112 ページ)

○警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

👉アドバイス

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。

CVT警告灯

CVT車

CVT

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、CVTシステムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



シート ベルト警告灯 (運転席)



- エンジン スイッチが“ON”の位置で、運転席側シート ベルトを着用していないと点滅します。
- シート ベルトを着用すると消灯します。

○警告ブザー

シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

アドバイス

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシート ベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

燃料残量警告灯



エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、燃料残量が 2WD車は約 6ℓ、4WD車は約 5.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点灯します。

注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。



お車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

ABS警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、ABSに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

👉アドバイス

- 走行中に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

SRSエアバッグ警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、次のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 71 ページ)
- プリテンショナー機構 (5ドア車)
(プリテンショナー機構
→ 55 ページ)

⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



ステアリング制御警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、電動パワー ステアリング システムに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

📖アドバイス

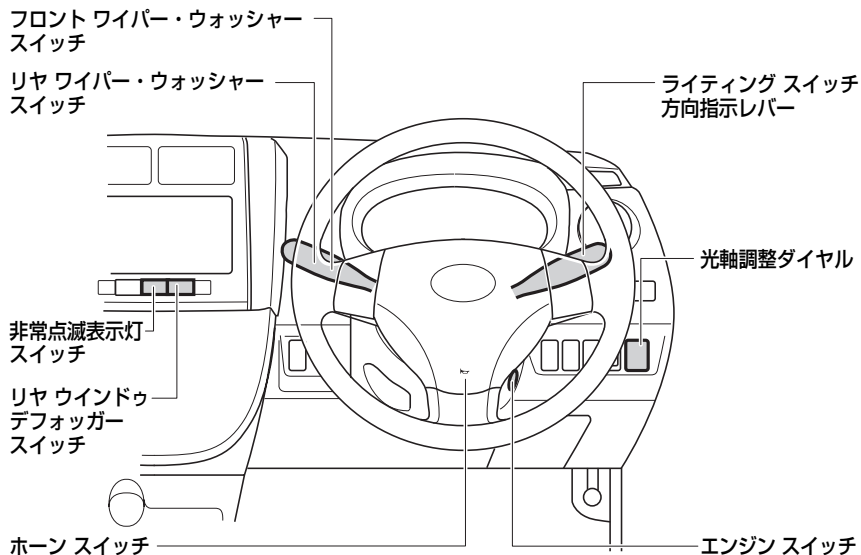
- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
これは、パワー ステアリング モーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワー ステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
この場合、しばらくハンドル操作を控えてください。
ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。
- 停車中に長時間、エンジンの空ぶかしを行ったときは、警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなりますが、エンジンを再始動し、走行を開始すれば警告灯は消灯し、通常の重さに戻ります。



スイッチの使いかた

スイッチの名称

グレードの違い、オプションも含まれています。



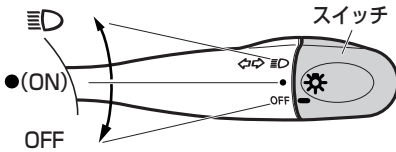


ライティング スイッチ

ランプの点灯

▼操作方法

スイッチを回すと、下表のランプ類が点灯します。



ランプ スイッチ位置	ランプ	
	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
OFF	—	—
● (ON)	—	点灯
≡D	点灯	点灯

⚠注意

バッテリーあがりを防止するために

- エンジン停止中は、ランプ類を長時間点灯しないでください。また、お車から離れるときは、必ずライティングスイッチを“OFF”にしてください。

ランプの消灯

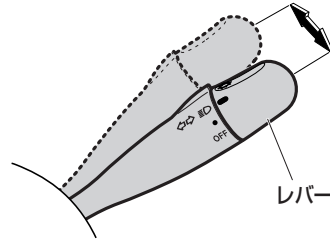
▼操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

ヘッドランプの切り替え

▼操作方法

ライティング スイッチが“≡D”の位置のときレバーを押すと、前照灯が上向き（ハイビーム）になり、戻ると下向き（ロービーム）になります。



⚠注意

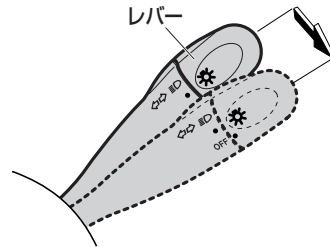
- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

▼一時的に使用する場合

👉アドバイス

- 前照灯が上向きのときは使用できません。

レバーを手前に引いている間、前照灯が上向きに点灯します。





お車を運転するにあたって スイッチの使いかた

ランプ消し忘れ警告ブザー

ランプを点灯したままで、エンジン スイッチからキーを抜き、いずれかのドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りランプの消し忘れを知らせます。

光軸調整ダイヤル

ヘッド ランプが点灯しているときに使用できます。

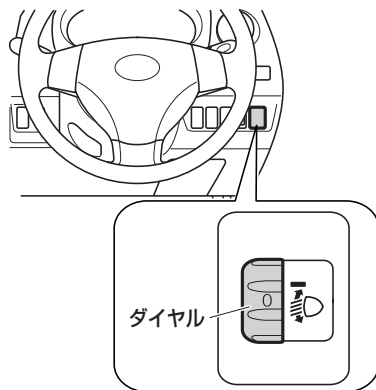
乗員数や積載量によって車両の姿勢が変化し、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。

通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

▼操作方法

ダイヤルを回転させると、ヘッド ランプの光軸が上下に変わります。

ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。





📖 アドバイス

- 乗員数などに応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

5 ドア車

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置	
	2WD	4WD
運転席のみ乗車時	0	0
運転席と助手席に乗車時	0.5	0
4名乗車時	1.5	1.5
4名乗車で荷室満載時	2.5	2.5
運転席のみ乗車で荷室満載時	3.5	3

3 ドア車

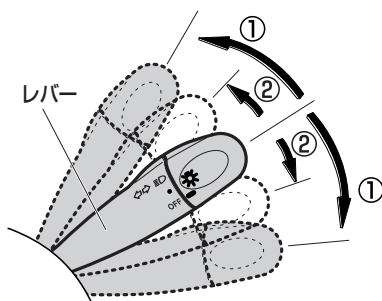
乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置	
	2WD	4WD
運転席のみ乗車時	0	0
運転席のみ乗車で荷室満載時	4	3.5

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

方向指示レバー

▼ 操作方法

レバーを①の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。車線変更などのときには、レバーを②の位置まで軽く上下に押すと点滅し、手を離すと消灯します。



📖 アドバイス

- ハンドルの切れ角が小さいと、レバーが自動的に戻らないときがあります。手で戻してください。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

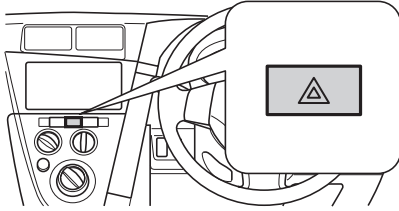


お車を運転するにあたって スイッチの使いかた

非常点滅表示灯スイッチ

▼操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。



⚠注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。
- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー・ウォッシャー スイッチ

⚠注意

- 乾ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパー ゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパー モーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパー モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けしないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

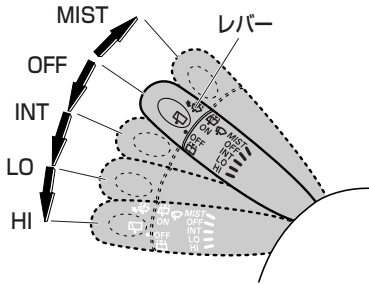


フロント

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた

レバーを下げると、ワイパーが作動します。



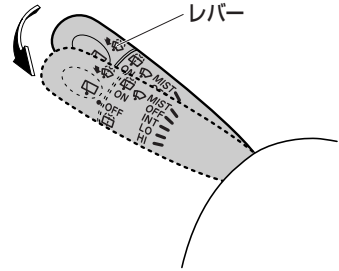
MIST	一時作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

👉 アドバイス

- MIST（一時作動）はレバーを“OFF”から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと“OFF”に戻ります。

○ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。



👉 アドバイス

- フロント ウォッシャーを作動させると連動してフロント ワイパーが低速作動します。



お車を運転するにあたって スイッチの使いかた

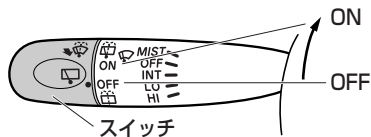
リヤ

オプション/グレード別装備

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた

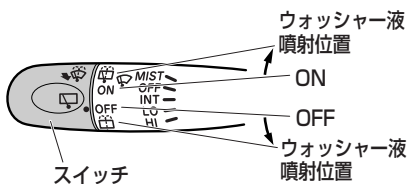
スイッチを“ON”の位置に回すと、リヤワイパーが作動します。



○ウォッシャー液の噴射

リヤ ワイパー作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチを“ON”の位置から上側の“ウォッシャー液噴射位置”に回します。

また、スイッチを“OFF”の位置から下側の“ウォッシャー液噴射位置”に回しても噴射します。



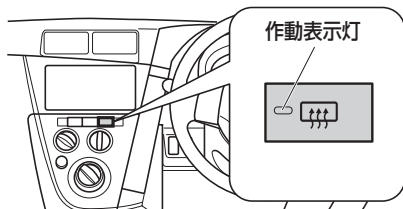
リヤ ウィンドウ デフォグガー スイッチ

リヤ ウィンドウ ガラスの曇りを取るときに使用します。

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき使用できます。

▼操作方法

スイッチを押すと作動表示灯が点灯し、リヤ ウィンドウ ガラスが暖められ曇りが取れます。作動を停止するときは、スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。



🔧 アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。
- リヤ ウィンドウ ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。



ホーン スイッチ

ハンドルの \odot マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

アドバイス

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。



運転装置の使いかた

エンジン スイッチ

⚠警告

- 走行中は、エンジン スイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンをかけるときやオーディオを聞くとときなどに使用します。

⚠注意

- エンジンを止めた状態で、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”の位置にしたまま長時間放置しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

⚠注意

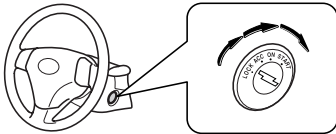
- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”の位置にしたまましていると、エンジンを損傷するおそれがあります。

👉アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

ハンドル ロックを解除するには

- キーが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。



LOCK	キーを抜き差しする位置です。キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	エンジンを止めたまま、オーディオが聞ける位置です。
ON	エンジン回転中の位置です。
START	エンジンを始動するときの位置です。手を離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。



キー インター ロック

オプション/グレード別装備

CVT車に装着されています。
誤操作防止のため、セレクト レバーが④レンジ以外のおときは、エンジン スイッチが“LOCK”の位置まで回らないようにする装置です。

▼操作方法

エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にするときは、セレクトレバーを④レンジにしてから行います。

⚠注意

- ④レンジ以外では、キーは“LOCK”位置まで回すことができないため、キーを抜くことができません。

駐車ブレーキ

⚠注意

- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。

駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼かけるとき

- ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げます。
- エンジン スイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。
(ブレーキ警告灯→ 115 ページ)

▼解除するとき

- レバーを軽く引き上げながらボタンを押し、レバーを確実に戻します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。



👉 アドバイス

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。

(ブレーキ警告灯→ 115 ページ)





お車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

坂道に駐車するとき

▼操作方法

坂道に駐車するときは、駐車ブレーキをかけるとともに、セレクトレバーをマニュアル車は1速（上り坂）またはR（下り坂）に、CVT車はRレンジに入れます。さらに輪止めもしてください。

4WD車

オプション/グレード別装備

△注意

- 4WD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。
また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- 4WD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。



フル タイム 4WDシステム

アドバイス

- プレオは、フル タイム 4WDシステムを採用しています。フル タイム 4WDシステムは、2WDと4WDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。また4WD表示灯もありません。

4WD車のタイヤ交換

4WD車は4つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。

タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤ交換をするときは、4輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

アドバイス

- タイヤ空気圧の点検は最低でも月に1回行ってください。タイヤの空気圧が前輪と後輪で大きく異なるときは、車の性能が十分に発揮できません。（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- タイヤのローテーションは5,000kmごとに行ってください。タイヤ間で摩耗差があると車の性能が十分に発揮できません。
- タイヤチェーンは必ず前輪に装着してください。



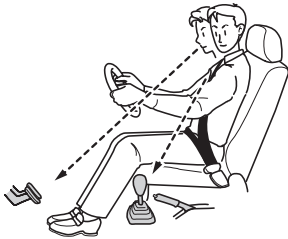
エンジンのかけかた

マニュアル車

エンジン始動の準備

▼操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、チェンジレバーがニュートラルの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートを調整します。
3. アクセルペダルおよびブレーキペダルを右足で、クラッチペダルを左足で踏み位置を確認します。



エンジンをかけるとき

▼操作方法

1. ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. クラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。
3. ブレーキペダルとクラッチペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを“START”の位置まで回します。
4. 始動後、クラッチペダルから足を離します。

⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

👉アドバイス

- エンジンの始動性を良くするためにランプ、リヤウインドウデフォグガー、ヒーターファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドル回転に下がります。



○クラッチ スタート システム

エンジン始動時の誤操作を防ぐために、クラッチ ペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンがかからないようになっています。

○エンジン スタート サポート

エンジン スタート サポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジン スイッチを“START”の位置で保持する必要はありません。

👉 アドバイス

- エンジン スタート サポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン スタート サポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

エンジンを止めるとき

▼操作方法

エンジンを止めるときは、アイドルリング回転にしてからエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にします。

CVT車

エンジン始動の準備

▼操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーが回レンジの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整します。
3. アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルを右足で踏み位置を確認します。





お車を運転するにあたって エンジンのかけかた

エンジンをかけるとき

▼操作方法

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みま
す。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エン
ジン スイッチを“START”の位置ま
で回します。

⚠注意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座っ
てエンジンをかけてください。窓越し
からエンジンをかけるとお車が急に動
き出すおそれがあり危険です。
- エンジン冷却水温が低い間は、急激な
空ぶかし、急加速、高速走行はしな
いでください。

👉アドバイス

- エンジンの始動性を良くするためにラ
ンプ、リヤ ウィンドウ デフォッガ
ー、ヒーター ファンなどのスイッチ
は“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯す
るのを確認してください。（ただしブ
レーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のは
たらきによりエンジン回転が高くなり
ますが、暖機完了後、自動的にアイド
リング回転に下がります。



○エンジン スタート サポート

エンジン スタート サポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジン スイッチを“START”の位置で保持する必要はありません。

アドバイス

- エンジン スタート サポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン スタート サポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

エンジンをとめるとき

▼操作方法

エンジンをとめるときは、アイドリング回転にしてからエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にします。

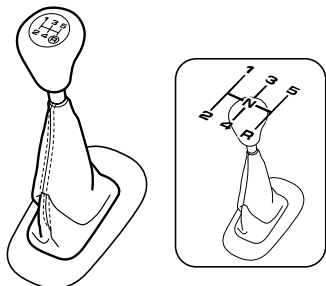


マニュアル車の運転

マニュアル トランスミッション

チェンジ レバー

シフト位置を変更するときは、クラッチペダルをいっぱい踏み込んで確実に操作します。



アドバイス

- **R**（後退）には、お車が完全に停止してからシフト位置を変更してください。トランスミッションに負担がかかり、故障の原因となります。
- 5速から**R**（後退）には、直接シフト位置を変更できません。一度ニュートラルにしてから、**R**（後退）にシフト位置を変更してください。

各シフト位置での上限速度

⚠注意

- エンジンの回転があがりすぎないように、上限速度を守って走行してください。エンジンが損傷するおそれがあります。
- 特にシフト ダウンを行うときは、上限速度を超えることのないように十分速度を落としてください。

各シフト位置での上限速度は、下表を参考にしてください。

(km/h)

シフト位置	1速	2速	3速	4速	5速
2WD	40	75	120	—	—
4WD	35	65	105	—	—



CVT車の運転

CVT車

CVT車は、ギヤ チェンジやクラッチ ペダルの操作から解放され、運転は大変楽になります。いくつかの特性があります。CVT車の運転の基本を理解し、正しく操作する習慣を身に付けてください。

CVT車の特性

○クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、Nレンジ以外の位置で動力が繋がった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

△注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がリ（アイドル アップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。

👉 アドバイス

- 停車中は、平坦路であってもお車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

セレクト レバー

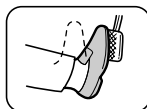
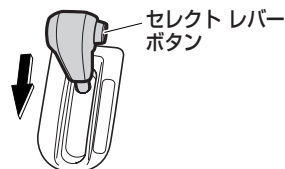
セレクト レバーの操作は確実に行ってください。

○シフト ロック装置

誤操作防止のため、シフト ロック装置が付いています。

▼シフト ロック解除方法

シフト ロックを解除する場合は、エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にし、ブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーの操作ができます。



👉 アドバイス

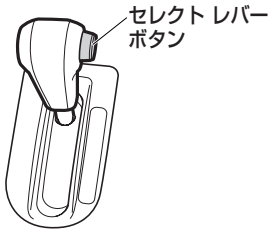
- セレクトレバーはブレーキペダルを踏みながらでないと、Pレンジからほかのレンジへは動きません。
- エンジンスイッチが“LOCK”の位置では、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーはPレンジからほかのレンジへは動きません。
- 先にセレクトレバーボタンを押した状態で、ブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーが動かない場合があります。一度ボタンから手を離し、ブレーキペダルを先に踏んでから操作してください。



お車を運転するにあたって CVT車の運転

セレクト レバーの操作

セレクト レバー部には、セレクト レバーを動かすときに使用するセレクト レバー ボタンが装着されています。



▼操作する前に

⚠警告

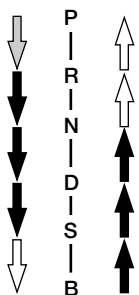
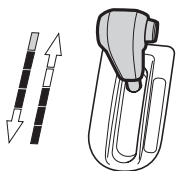
- PレンジからRレンジへセレクト レバーを動かすときは、突然お車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。

各位置のはたらき

Pレンジ	駐車するとき、エンジンを始動するとき、およびキーを抜くときの位置
Rレンジ	お車を後退させるときの位置 (お車が完全に止まってから入れてください)
Nレンジ	一時停止などで動力を伝えない位置
Dレンジ	通常の走行をする位置 [前進] (速度に応じて無段階で自動的に変速されます)
Sレンジ	上り坂や下り坂を走行するときの位置 [前進] (エンジン ブレーキが必要なときの位置)
Bレンジ	急な上り坂や下り坂を走行するときの位置 [前進] (強いエンジン ブレーキが必要なときの位置)



セレクト レバーの動かしかた



↓ ブレーキ ペダルを踏みながら
セレクトレバー ボタンを押して
動かします。

↑ ↓ セレクトレバー ボタンを押して
動かします。

↑ ↓ そのまま動かします。

⚠警告

- ➡の操作は誤作動を防ぐため、セレクトレバー ボタンを押さずに動かしてください。常にセレクトレバー ボタンを押して操作していると、P・R・N・Dレンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中にNレンジに入れしないでください。エンジン ブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車が完全に止まらないうちにPレンジに入れしないでください。また、前進走行中にRレンジ、および後退走行中にD・S・Bレンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、お車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



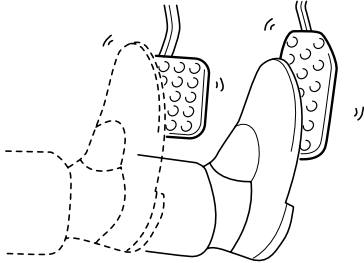


運転のしかた

エンジン始動前

▼操作を行う前に

アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を右足で確認します。



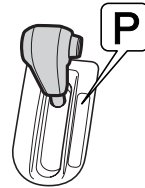
⚠注意

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン始動時

▼操作手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. セレクト レバーがPレンジにあることを確認します。
3. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
4. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置にします。





発進時

▼操作を行う前に

⚠警告

- PレンジからRレンジへセレクト レバーを動かすときは、突然お車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。
- アクセル ペダルを踏んだままセレクト レバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

▼操作手順

1. ブレーキ ペダルを右足で踏んだままセレクト レバーを前進であればDレンジに、状況に応じてS、Rレンジに、また後退のときはRレンジに入れます。
2. 駐車ブレーキを戻したあと、徐々にブレーキ ペダルから足を離し、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込み発進します。

⚠注意

- セレクト レバーがどの位置にあるかをセレクト レバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- セレクト レバーがP、Nレンジ以外の位置にあると、アクセル ペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。(クリープ現象)
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり(アイドル アップ)、動こうとする力が強くなります。発進時にセレクト レバー操作をするときはしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかりと踏み、完全にお車を止めてから行ってください。
完全に止まらない状態でシフトの切替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐためにPレンジからRレンジ、NレンジからDレンジ、NレンジからRレンジにセレクト レバー操作をするときもブレーキ ペダルをしっかりと踏んでから行ってください。
- 坂道発進時など、アクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。





お車を運転するにあたって CVT車の運転

アドバイス

- セレクト レバーを[R]レンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーが[R]レンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんので注意してください。

▼坂道発進する場合

1. 駐車ブレーキがしっかりかかっていることを確認しながら、セレクト レバーを[R]レンジに入れます。
2. 右足でアクセル ペダルをゆっくり踏み、お車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進します。

アドバイス

- バッテリーとの接続が断たれ、接続を復帰させた直後は車両の動きがごちないことがあります。故障ではありません。

走行時

▼操作手順

1. 通常は[R]レンジで走行します。
2. 強い加速が必要な場合は、アクセルペダルを踏み込みます。
3. 長い下り坂や急な下り坂など、強いエンジン ブレーキを必要とする場合は、路面状態やスピードに応じて[S]レンジまたは[R]レンジに切り替えます。

警告

- 坂道などでは、セレクト レバーを[D]、[S]レンジまたは[R]レンジに入れたまま惰性で後退したり、[R]レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。



⚠️注意

- 走行中はNレンジに入れしないでください。エンジン ブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中にPレンジ、また前進走行中にRレンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。
- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂をDレンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
このようなときに、フット ブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
Sレンジにしてエンジン ブレーキを併用してください。また、より強いエンジン ブレーキが必要な場合は、Bレンジに入れてください。
- ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

👉アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- Dレンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、CVTの変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。
CVT車は、軽くアクセル ペダルを踏むだけでスムーズに加速します。





お車を運転するにあたって CVT車の運転

一時停止時

▼操作手順

1. セレクト レバーは走行位置のままです。ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けます。
2. 停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをNレンジに入れます。
3. 発進するときは、セレクト レバーの位置を確認したあと、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込みます。

⚠注意

- 上り坂での停止はクリープ現象で前へ進もうとする力よりもお車が後退しようとする力の方が大きくなり、お車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

後退時

▼操作方法

お車が完全に止まってからも、ブレーキペダルをしっかりと踏み続け、セレクトレバーをRレンジに入れます。

⚠注意

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどはRレンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあととはすぐNレンジに戻すよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクトレバー操作するときは、そのつどブレーキペダルをしっかりと踏み、完全にお車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。

👉アドバイス

- セレクトレバーをRレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーがRレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんのでご注意ください。



駐車時

▼操作手順

1. お車を完全に止めます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車
ブレーキをかけ、セレクト レバーを
Pレンジに入れます。
3. エンジン スイッチを“LOCK”の位
置まで回してキーを抜きます。

⚠注意

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままでお車から離れないでください。
- お車から離れるときはエンジン スイッチを“LOCK”の位置にしてキーを抜いてください。“ON”や“ACC”のままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。
- Pレンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ずPレンジにあることを確認してください。
- お車が完全に止まらないうちにPレンジに入れしないでください。トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。
- キー インター ロック装置により、セレクト レバーがPレンジ以外のときは、エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回すことができません。
(キー インター ロック→ 129 ページ)

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



装備品の使いかた

お車の装備品の使いかたについて説明しています。

■ 空調

エアコン	148
------	-----

■ オーディオ

アンテナ	156
オーディオの取り扱い	157
オーディオ インデックス	160
AM/FM電子チューナー オーディオ	161
インテグレートッドCDプレーヤー & AM/FMチューナー	169

■ 室内装備品

室内照明	182
サン バイザー	184
グローブ ボックス	185
インパネ センター ボックス	185
インパネ アンダー ボックス	186
ショッピング フック	186
アクセサリー ソケット	187
カップ ホルダー	188
ボトル ホルダー	190
アシスト グリップ	190



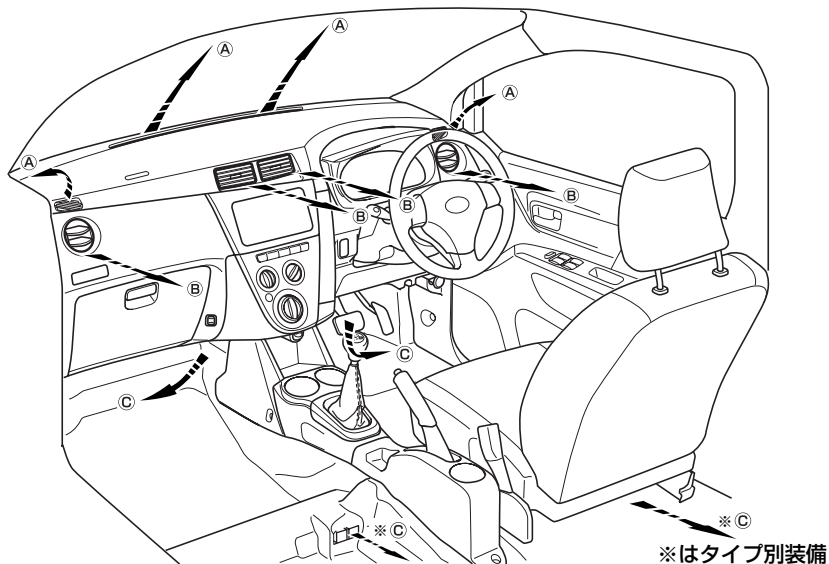
空調

エアコン

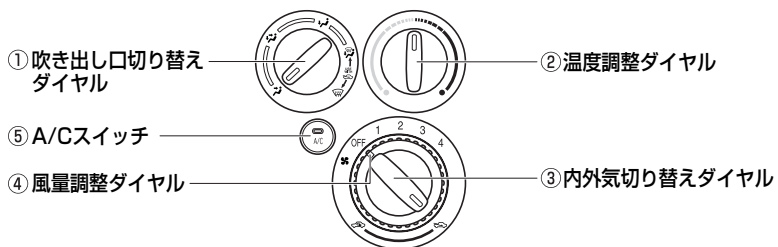
室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼ 吹き出し口の位置



エアコン コントロール パネル





○各ダイヤル／スイッチの使いかた

①吹き出し口切り替えダイヤル

イラストの方向へ風が出てきます。風量は吹き出し口によって異なります。



ダイヤル					
吹き出し口	(B)	(B) (C)	(C) (A)	(A) (C)	(A)

() は特に風量の少ないものを示します。

▼操作方法

ダイヤルを左右に回して、切り替えます。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い温度で作動させている場合は、吹き出し口を、またはに切り替えないでください。

外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

👉アドバイス



- このマークは、①吹き出し口切り替えダイヤルをまたはに合わせるときに③内外気切り替えダイヤルを（外気導入）に合わせて使用することをおすすめするためのものです。（外気導入）に合わせることでガラスが曇りにくくなります。





装備品の使いかた 空調

②温度調整ダイヤル

風の吹き出し温度を調整します。

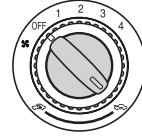


▼操作方法

ダイヤルを左右に回して、調整します。

③内外気切り替えダイヤル

内気循環、外気導入の切り替えを行います。



内気循環		外気をシャ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。
外気導入		外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼操作方法

ダイヤルを左右に回して切り替えます。

⚠注意

- “内気循環” を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入” を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環” にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- ①のダイヤルが、または④のとき “内気循環” にしないでください。ガラスが曇りやすくなります。



アドバイス

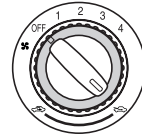
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

④風量調整ダイヤル

吹き出し口からの風の強さを切り替えます。

ダイヤルにより 4 段階の切り替えができます。



▼操作方法

ダイヤルを左右に回して操作します。

アドバイス

- “OFF” の位置にすると、ファンが停止します。

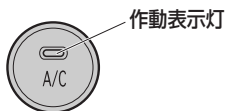


装備品の使いかた

空調

⑤A/Cスイッチ

冷房、除湿機能の作動と停止を行います。



▼操作方法

ファンが作動中のとき、スイッチを一度押しとエアコンが作動し、作動表示灯が点灯します。

もう一度押しとエアコンが停止し、作動表示灯が消灯します。

アドバイス

- 停車時の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。

特にCVT車で冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

(CVT車の運転→ 137 ページ)

- 外気温が 0°C 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

風向きの調整

左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

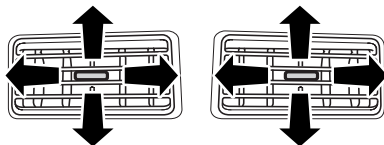
アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

○中央吹き出し口

▼操作方法

ノブを動かして調整します。

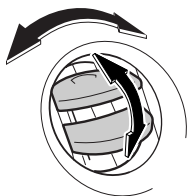




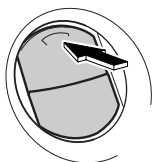
○左右吹き出し口

▼操作方法

カバーを動かして調整します。
カバーを一番下まで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。



吹き出し口を開けるときは、くぼみ部分を押します。

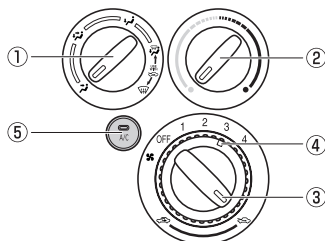


エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、スイッチのセット位置を説明します。

○通常の冷房

室内を冷やしたいときに使用します。



- ① 〰
- ② 低温側
- ③ 外気導入
- ④ お好みの位置
- ⑤ ON

👉 アドバイス

急速に冷房したいときは

- ②のダイヤルを最低温に、③のダイヤルを“内気循環”に、⑤のスイッチを“ON”にしてください。

ただし“内気循環”で長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき“外気導入”にしてください。

冷えてきたら②のダイヤルを高温側に回し、お好みの温度に調整してください。

車内の温度が高いときは

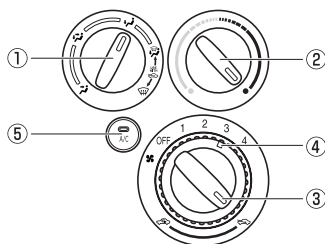
- 駐車のとあと車内の温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。



装備品の使いかた 空調

○通常の暖房

室内を暖めたいときに使用します。



- ① 風量
② 高温側
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ OFF

👉 アドバイス

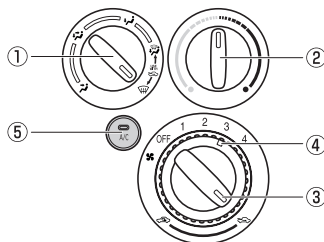
急速に暖房したいときは

- ②のダイヤルを最高温に、③のダイヤルを“内気循環”にしてください。ただし“内気循環”で長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。

暖かくなってきたら②のダイヤルを低温側に回し、お好みの温度に調整してください。

○ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。



- ① 風量
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

⚠️ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- ②のダイヤルを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

👉 アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ①のダイヤルを🌀にすると、曇り取りと同時に足元にも送風されます。

外気が汚れているときは

- 一時的に③のダイヤルを“内気循環”にしてください。

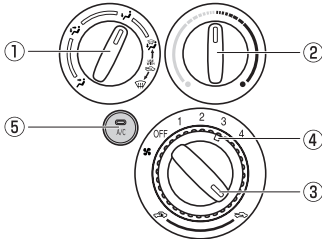
より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、次の操作を行います。
 - ④のダイヤルを操作して、風量を増す
 - ②のダイヤルを操作して、設定温度を上げる



○除湿暖房するとき（曇り止め）

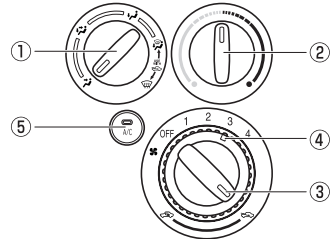
雨の日など湿気が多く、ガラスが曇りやすいときに使用します。



- ① 風量
- ② お好みの位置
- ③ 外気導入
- ④ お好みの位置
- ⑤ ON

○換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。



- ① 風量
- ② お好みの位置
- ③ 外気導入
- ④ お好みの位置
- ⑤ OFF

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。





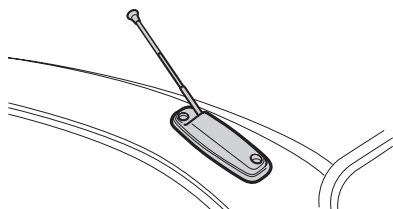
オーディオ

アンテナ

ラジオを受信するときは、アンテナをいっぱいまで伸ばしてください。

▼使用方法

使用するときは、アンテナの先を持っていっぱいに引き出します。収納するときは、アンテナの根元を持って少しずつ収納してください。



△注意

- 走行中に引き出し、収納などの操作をしないでください。運転のさまたげになるほか車外の物に当たったり、急ブレーキをかけたときけがをするおそれがあり危険です。
- 次のようなときは、アンテナを収納してください。破損したり、変形したりする場合があります。
 - 自動洗車機を使用するとき
 - ボディカバーをかけるとき
 - 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるとき
 - 降雪時に長時間駐車するとき



オーディオの取り扱い

オプション/グレード別装備

⚠注意

- 運転中は、車外の音が聞こえる程度の音量でお楽しみください。大きな音量を出すと車外の音が聞こえず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にオーディオの操作をしないでください。運転のさまたげになり、思わぬ事故につながります。

👉アドバイス

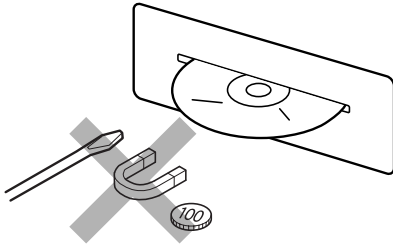
- オーディオを聞いているとき、室内またはお車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。
- エンジン停止時は、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなります。
- ラジオの受信は、電波の強さが変化したり、電車・信号機などの障害物の影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。
- 水分や高温・多湿・ほこり・ゴミを嫌いますので、車内清掃や換気に十分注意してください。
- オーディオ本体の手入れは、乾いた柔らかい布でふいてください。損傷の原因となるおそれがある固い布や、ベンジン・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合には、柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽くふき取ってください。
- 車内の温度に気を付けてください。極寒や酷暑のとき、特に夏期は車内の温度が大変高くなり、故障の原因となるおそれがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。



CDプレーヤーの取り扱い

👉 アドバイス

- 挿入口には、指定されているCD以外の物を入れたり、ドライバーなどの金属物や磁石などを近付けないでください。故障の原因となります。また、CDに磁石などを絶対に近付けないでください。



- CDが挿入された状態でエンジンを始動すると、「カチッ」・「ウーン」などという音が数回しますが、これは再生準備のための作動音で、故障ではありません。
- CDを挿入して数秒すると、セットされずに戻ってくることがあります。この場合は、CDの異常が考えられますので、CDに異常がないかを確認してください。
- 取り出しボタンを押しても、CDが挿入されたまま取り出せないときは、プレーヤーの保護のため、機能が停止することがあります。この場合、スバル販売店にご相談ください。

👉 アドバイス

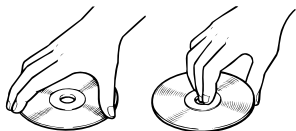
- お車を降りるときは、必ずCDをオーディオ本体から取り出し、ケースに入れて、高温にならない場所に保管してください。
- CDを直射日光に長時間当てたり、挿入口に残した状態のまま長時間放置しないでください。また、高温・多湿な場所（インストルメント パネルの上やシートの上など）に長時間放置しないでください。CDがひずみ、使用できなくなるおそれがあります。従来のオーディオ レコードと同様にプラスチック製ですので、その原因となります。そり防止のため、必ずケースに入れ、直射日光の当たらない場所に保管してください。



CDの取り扱い

アドバイス

- CDを持つときは、信号面に触らないようにしてください。両端を挟むようにして持つか、中央の穴と端を挟んで持ってください。



- CDは内部で高速回転しますので、異常なCD（ハート型など異形のCD、ヒビが入ったCDや大きくそったCD）は使用しないでください。



- 記録部分に透明または半透明部分があるCDは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので、使用しないでください。
- ラベル面（印刷面）にも紙やシールなどを貼り付けたり、傷などを付けないようにしてください。
- CDに指紋やホコリが付いた場合でも、CDに記録された信号には直接影響しませんが、汚れにより、信号記録面からの反射光の明るさが低減して音質が低下したり、音飛びを起こすことがあります。

アドバイス

- CDが汚れたときは、柔らかい布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。
- レコード スプレー・帯電防止剤などは使用できません。またベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品をかけると、表面が侵されることがありますので使用しないでください。



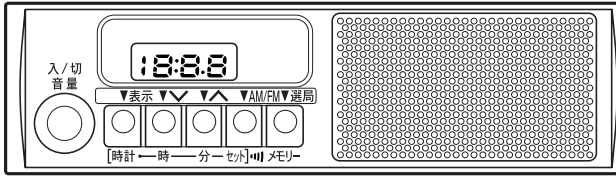
- 振動の激しい悪路を走行すると、音飛びを起こすことがあります。
- 真冬の車内は極度に冷えています。この状態で、ヒーターを入れてすぐに使用すると、CDや光学部品（プリズムやレンズなど）が曇って、正常に再生されることがあります。
CDが曇っているときは、柔らかい布でふいてください。
光学部品が曇っているときは、1時間ほど放置しておけば自然に曇りが取れ、正常に再生されます。



オーディオ インデックス

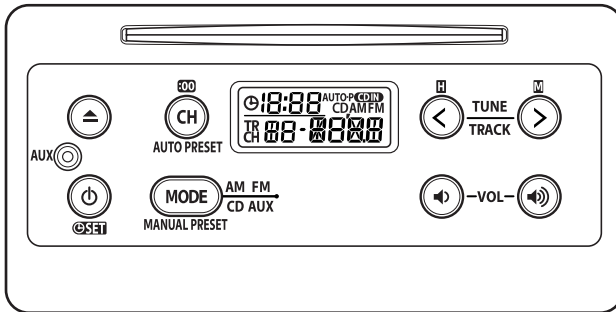
AM/FM電子チューナー オーディオ

- (音量調整→ 161 ページ)
- (ラジオの受信→ 162 ページ)
- (時計調整→ 166 ページ)



インテグレートッドCDプレーヤー&AM/FMチューナー

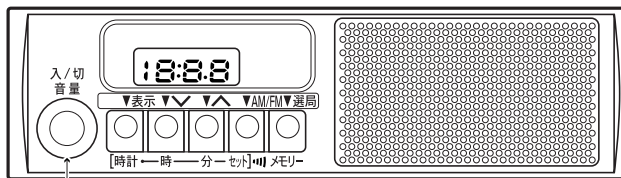
- (基本操作→ 169 ページ)
- (時計調整→ 170 ページ)
- (ラジオの受信→ 172 ページ)
- (CDの再生→ 176 ページ)
- (AUX (外部入力) 端子→ 180 ページ)





AM/FM電子チューナー オーディオ

オプション/グレード別装備



- ① 電源ボタン
- ② 音量調整ツマミ

音量調整

①電源ボタン

電源の“ON”・“OFF”ができます。

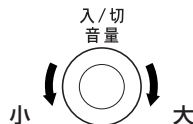


▼電源を入れるには

1. エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にします。
前回、エンジン スイッチを“LOCK”の位置にしたときにオーディオの電源が入っていた場合は、自動的に電源が入ります。
2. ボタンを押します。
ボタンを押すごとに、オーディオの電源が“ON”と“OFF”に切り替わります。

②音量調整ツマミ

音量を調整することができます。

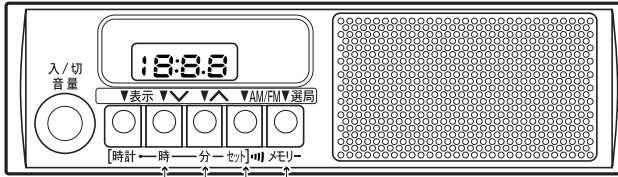


▼音量を調整するには

ツマミを右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。



ラジオの受信



- ② 選局ボタン (TUNE) ———— ③ 選択ボタン
① AM/FM切り替えボタン ————

○ラジオの受信

1. エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にします。
前回、エンジン スイッチを“LOCK”の位置にしたときにラジオを受信していた場合は、自動的にラジオが受信されます。
2. AM/FM切り替えボタン、選局ボタン (TUNE)、または選択ボタンを押して、希望の周波数を選択します。

①AM/FM切り替えボタン

AM・FMの切り替えをすることができます。また、交通情報放送を行っている地域で、あらかじめ記憶されている交通情報放送局を受信することができます。

▼ AM・FM放送を受信するには
ボタンを押します。

ラジオを聞いているときに、ボタンを押すと、「AM→FM」の順に切り替わります。

- ディスプレイ部に、選択したバンドが表示されます。

👉 アドバイス

- オーディオの電源が入っていて、時計が表示されているときは、ボタンを押すと、オーディオ モードの表示に切り替わります。ラジオを受信するとき (AM・FMを切り替えるとき) は、もう1度ボタンを押してください。



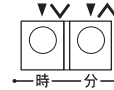


▼交通情報を受信するには
ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続
けます。
もう一度ボタンを押すと、解除されます。

アドバイス

- 交通情報を行われていない地域では受信できません。
- 交通情報ボタンで受信できる周波数は1620kHzのみです。ほかの周波数の交通情報放送局をこのボタンで受信することはできません。

②選局ボタン (TUNE)
放送局の周波数を選択することができます。



- ▼手動で選択するには
ボタンを押して希望の周波数を選択しま
す。
- 周波数を高い方に選択するには∧側のボタン、低い方に選択するには∨側のボタンを押します。
 - ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。



装備品の使いかた オーディオ

▼自動で選択するには

ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 周波数を高い方を選択するには△側のボタン、低い方を選択するには▽側のボタンを押します。
- 放送が受信されると、自動的に止まります。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

自動選択を止めるには、もう一度ボタンを押します。

アドバイス

- 受信感度が良く、ディスプレイ部に表示されている周波数に一番近い周波数を自動で選択します。
- 山岳部や弱電界地域で自動選択を行った場合、受信できる周波数があっても、自動的に止まらないことがあります。この場合、手動選択を行ってください。

③選択ボタン

放送局の周波数をあらかじめ記憶させておくことにより、選択ボタンでその周波数を選択することができます。



アドバイス

- 自宅付近などで日頃よくお聞きになる放送局の周波数を記憶させておくくと便利です。
- 6局まで周波数を記憶させることができます。

AM放送の場合

- 選択ボタンを押すたびに「A01→A02→A03→A04→A05→A06→A01」とチャンネルが変わり、記憶された周波数が数秒表示されたあと、時計が表示されます。

FM放送の場合

- 選択ボタンを押すたびに「F01→F02→F03→F04→F05→F06→F01」とチャンネルが変わり、記憶された周波数が数秒表示されたあと、時計が表示されます。



▼周波数を記憶させるには

1. 記憶させるチャンネルを選択します。
2. 記憶させる周波数を選択します。
3. 選択ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

▼記憶させた周波数を呼び出すには

選択ボタンを押すたびに、記憶されている周波数が選択されます。

 **アドバイス**

- 選択ボタンの記憶は、直前に選択ボタンで選択したチャンネルに記憶されません。
記憶させるチャンネルを選んだあとの選局は選局ボタン（TUNE）で行ってください。

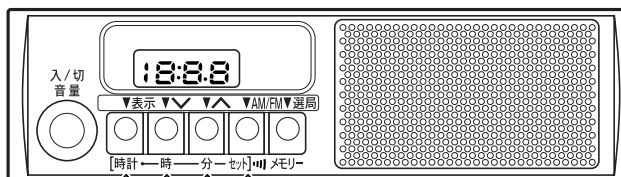
○選択ボタンに記憶させた周波数

 **アドバイス**

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、記憶させた周波数は消去され、初期設定の状態に戻ることがあります。
この場合は、再度記憶させてください。



時計調整



- ① DISP (表示切り替え) ボタン
- ② “時” 調整ボタン
- ③ “分” 調整ボタン
- ④ 時刻合わせボタン

- オーディオの電源の“ON”・“OFF”に関わらず、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”の位置にすると、ディスプレイ部に時刻が表示されます。
- オーディオの操作を行う（またはDISP（表示切り替え）ボタンを押す）と、オーディオモードの表示になりますが、約6秒後に時計表示に戻ります。

○時刻の調整

① DISP（表示切り替え）ボタン
時刻を表示させているとき、DISP（表示切り替え）ボタンを押しながら、同時に各ボタンを押して調整します。



👉アドバイス

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、初期設定の状態から時計の作動が開始されることがあります。この場合は、再度調整してください。



② “時” 調整ボタン

時計の“時”表示を調整することができます。



▼ “時” 表示を調整するには

DISP（表示切り替え）ボタンを押したまま“時”調整ボタンを押します。

- ボタンを押すごとに、数字が1つずつ大きくなります。
- ボタンを押し続けると、連続して数字が大きくなります。

③ “分” 調整ボタン

時計の“分”表示を調整することができます。



▼ “分” 表示を調整するには

DISP（表示切り替え）ボタンを押しながら、“分”調整ボタンを押します。

- ボタンを押すごとに、数字が1つずつ大きくなります。
- ボタンを押し続けると、連続して数字が大きくなります。



装備品の使いかた オーディオ

④時刻合わせボタン

時報などに合わせて、“分”表示を「:00」にすることができます。



▼ “分”表示を「:00」にするには

DISP（表示切り替え）ボタンを押しながら、時刻合わせボタンを押します。

（例） 1:00～1:29→1:00

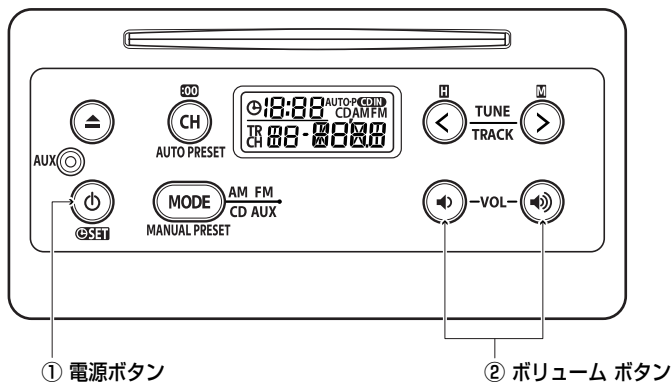
（例） 1:30～1:59→2:00



インテグレートCDプレーヤー&AM/FMチューナー

オプション/グレード別装備

基本操作



○電源を入れる

①電源ボタン



1. エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にします。
 - ・ 前回、エンジン スイッチを“LOCK”の位置にしたときにオーディオの電源が入っていた場合は、自動的に電源が入ります。
2. ボタンを押すと、オーディオの電源が入ります。
 - ・ もう一度ボタンを押すと、電源が切れます。

○音量を調整する

②ボリューム ボタン



右側のボタンを押すと大きくなり、左側のボタンを押すと小さくなります。

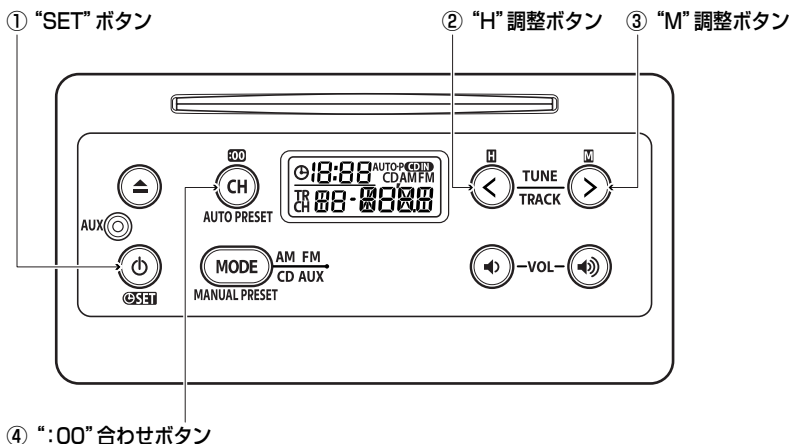
👉アドバイス

- 音量調整は「0～63」の範囲で調整できます。



時計調整

オーディオの電源の“ON”・“OFF”に関わらず、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”の位置にすると、ディスプレイ部に時計が表示されます。



アドバイス

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、初期設定の状態から時計の作動が開始されることがあります。この場合は、再度調整してください。
- 時刻の表示は、12 時間表示です。

○ 時計調整モードにする

- ① “SET” ボタン



ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 調整後、もう一度ボタンを押すと、時計の調整が完了します。

○ “時” を調整する

- ② “H” 調整ボタン



時計調整モード中に、ボタンを押します。

(時計調整モード→ 170 ページ)

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)



- “分” を調整する
- ③ “M” 調整ボタン



時計調整モード中に、ボタンを押します。

(時計調整モード→ 170 ページ)

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)

- 時報 “:00” に合わせる
- ④ “:00” 合わせボタン



AUTO PRESET

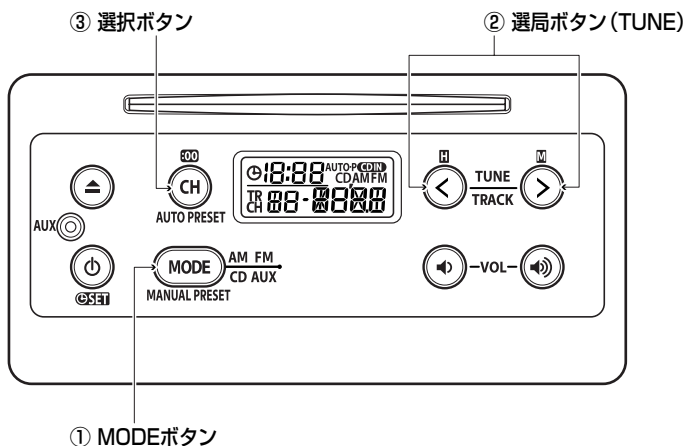
時計調整モード中に、ボタンを押します。

(時計調整モード→ 170 ページ)

- (例) 1:00～1:29→1:00
- (例) 1:30～1:59→2:00



ラジオの受信



○ラジオを受信する

①MODEボタン



ボタンを押して、AM / FMモードを選択します。

- ラジオを聞いているときに、ボタンを押すと、AM / FMが切り替わります。
- ディスプレイ部に、選択したモードが表示されます。

👉アドバイス

- CDが挿入された状態で、AUX（外部入力）端子にオーディオケーブルが接続されていると、ボタンを押すごとに「AM→FM→CD→AUX」の順にモードが切り替わります。





○周波数を変える

②選局ボタン (TUNE)



▼手動で選択するには

ボタンを押して希望の周波数を選択します。

- 周波数を高い方に選択するには右側のボタン、低い方に選択するには左側のボタンを押します。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

▼自動で選択するには

ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 周波数を高い方に選択するには右側のボタン、低い方に選択するには左側のボタンを押します。
- 放送が受信されると、自動的に止まります。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

自動選択を止めるには、もう一度ボタンを押します。

👉アドバイス

- 受信感度が良く、ディスプレイ部に表示されている周波数に一番近い周波数が自動で選択されます。
- 山岳部や弱電界地域で自動選択を行った場合、受信できる周波数があっても、自動的に止まらないことがあります。この場合、手動選択を行ってください。



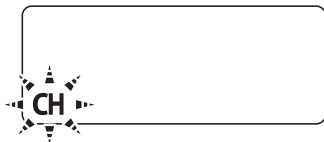
装備品の使いかた オーディオ

- 選択した周波数を記憶させる
(マニュアル プリセット)

① MODEボタン



1. 記憶させる周波数を選択します。
 2. ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。
- ディスプレイ部の「CH」が点滅します。



3. 「CH」が点滅している間に選択ボタンで記憶させたいチャンネルを選択します。



- 選択ボタンを押すたびに「CH1→CH2→CH3→CH4→CH5→CH6→CH1」の順にチャンネルが変わり、ディスプレイ部に表示されます。
4. もう一度MODEボタンを押して記憶させます。



アドバイス

- AM・FM各 6 局まで周波数を記憶させることができます。

- 自動で放送局を記憶させる
(オート プリセット)

③ 選択ボタン



ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 記憶操作が終了すると、「ピッピ」と音がして、記憶した中で一番低い周波数が受信されます。



👉 アドバイス

- オート プリセットをするごとに、現在受信状態の良い周波数が低い順に 6 局まで、選択ボタンに記憶されます。なお、オート プリセットをする前に記憶させていた周波数は消去されず。
- 受信周波数が 6 局未満のときは、受信することができた周波数だけが記憶されます。その場合、記憶されなかったチャンネルを選択すると、ディスプレイ部に「-----」が表示されます。
- 地域やお車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶されないことがあります。その場合、オート プリセットをする前に記憶させていた放送局が選択ボタンに記憶されたままになります。
- 同じ放送局からの受信でも、選択ボタンで選択し、記憶させた周波数とオート プリセットで記憶させた周波数は一致しないことがあります。
- オート プリセットによる記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。

- 記憶させた放送局を呼び出すには
③ 選択ボタン



ボタンを押すたびに、記憶した放送局が選択されます。

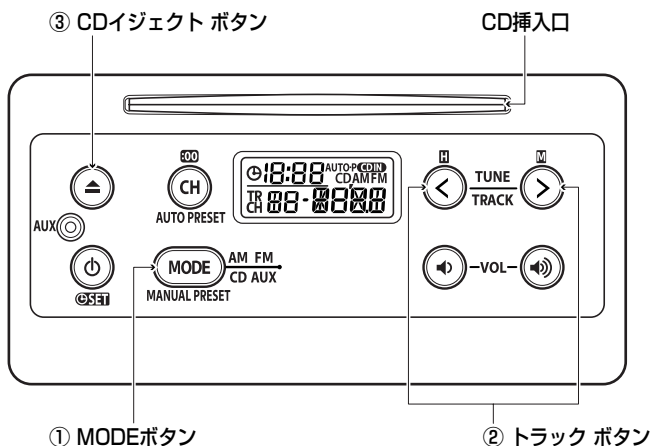
- 選択ボタンを押すたびに「CH1→CH2→CH3→CH4→CH5→CH6→CH1」の順にチャンネルが変わり、ディスプレイ部に表示されます。

👉 アドバイス

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、記憶させた周波数は消去され、初期設定の状態に戻ることがあります。この場合は、再度記憶させてください。



CDの再生



CDプレーヤーの使いかたについては、「オーディオの取り扱い」のページも併せてお読みください。

アドバイス

- 次のマークが付いているディスクを使用してください。



- CD TEXTは表示されませんが、再生は可能です。
- 音楽用CD-R (CD-Recordable) ・ CD-RW (CD-ReWritable) に記録された音楽用データを再生できます。
ただし、特性・傷・汚れなどにより再生できない場合があります。
- ディスクの状態 (録音環境・データ内容) により再生できない場合があります。
- MP3・WMA*・AAC方式などの圧縮オーディオ フォーマットには対応していません。
- CD-ROM・コピー プロテクト機能付ディスクには対応していません。
- 8cmCDには対応していません。
- Dual Discには対応していません。Dual Discを使用すると、機器の故障の原因になるおそれがあります。

* WMAは米国Microsoft corporationの米国およびその他の国における登録商標です。



○CDを再生する

①MODEボタン

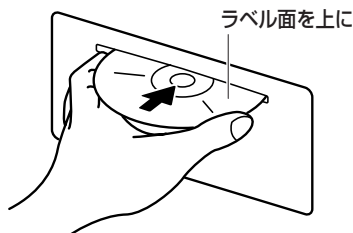


▼CDが挿入されているとき
ボタンを押してCDモードに切り替えると、自動でCDを再生します。

▼CDが挿入されていないとき
CDを挿入すると、自動でCDモードに切り替わり、CDを再生します。

 **アドバイス**

- 前回、エンジン スイッチを“LOCK”の位置にしたときにCDを再生していた場合は、自動的にCDが再生されます。
- CDを挿入するときは、ラベル面を上にして挿入します。



- CDが挿入されていない状態では、ボタンを押してもCDモードに切り替わりません。
- CDが挿入された状態で、AUX（外部入力）端子にオーディオ ケーブルが接続されていると、ボタンを押すごとに「AM→FM→CD→AUX」の順に切り替わります。

○早送り・早戻しをする

②トラック ボタン



- 早送りをするには右側のボタン、早戻しをするには左側のボタンを押します。
- ボタンを押している間、早送り（または早戻し）され、希望の位置で手を離すと、その位置から再生されます。



装備品の使いかた オーディオ

- 頭出しをする
- ② トラック ボタン



- 曲を進めるには右側のボタン、曲を戻すには左側のボタンを押します。

曲の再生中に

- 右側のボタンを押すと、次の曲が再生されます。
- 左側のボタンを押すと、その曲の始めに戻ります。このとき、もう一度ボタンを押すと、前の曲が再生されます。

- CDを取り出す
- ③ CDイジェクト ボタン



- CDが取り出されると、CDが再生される前の状態に戻ります。

アドバイス

- エンジン スイッチを“LOCK”の位置にすると、CDを取り出すことができなくなるため、“LOCK”の位置にする前にCDを取り出してください。



○エラー メッセージ

ディスプレイ部にエラー メッセージが出た場合、下表にしたがって処置をしてください。

メッセージ	内容と処置
Err 1	CDが汚れているときや裏返しになっているとき、また対応していないCDが挿入されたときに表示されます。CDを確認してください。
Err 3	何らかの原因でCDプレーヤーが作動しないときに表示されます。挿入されているCDを取り出してください。
Err 4	CDプレーヤーに過剰な電流が流れて作動しないときに表示されます。挿入されているCDを取り出してください。
WA IT	CDプレーヤーの温度が高くなり、作動しないときに表示されます。温度が下がるまで、しばらくそのままお待ちください。

 **アドバイス**

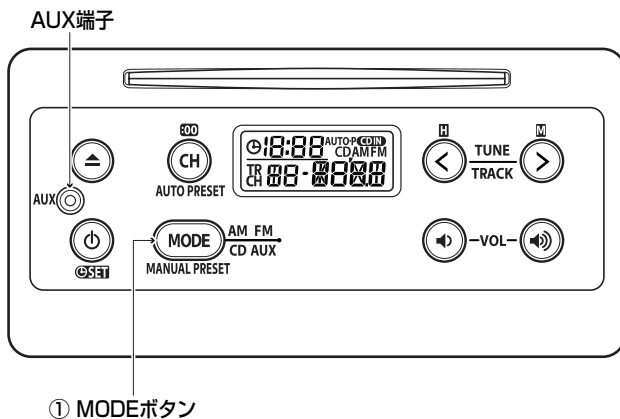
- 処置をしても、エラー メッセージが表示されたままの場合や機能が停止したままの場合は、スバル販売店にご相談ください。



装備品の使いかた オーディオ

AUX（外部入力）端子

ポータブル オーディオなど市販の機器を接続して、その音声を車両のスピーカーで聞くことができます。



○外部入力モードに切り替える

①MODEボタン



- 市販のオーディオ ケーブル（抵抗なし）を使用して、ポータブル オーディオをAUX端子に接続します。



- ボタンを押すと、ディスプレイ部に“AUX”と表示され、外部入力モードに切り替わります。

👉 アドバイス

- AUX（外部入力）端子にオーディオケーブルが接続されていないと、外部入力モードに切り替わりません。
- CDが挿入された状態で、AUX（外部入力）端子にオーディオケーブルが接続されていると、MODEボタンを押すごとに「AM→FM→CD→AUX」の順に切り替わります。



アドバイス

AUX (外部入力) 端子について

- ステレオ ミニプラグ (3.5φ) が接続できます。オーディオ ケーブル (抵抗なし)、接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。
- 接続する機器の電源は、機器の付属のバッテリーなどを使用してください。お車に装着されているアクセサリソケットで充電しながら使用すると、雑音が出ることがあります。
- より良い音質で聞くには、接続する機器の音量を最大にして、オーディオ本体で音量を調整してください。
- 外部入力モード中に入力端子のプラグを抜いたり、接続する機器側のプラグを抜き差しすると、雑音が出ることがあります。



室内装備品

室内照明



アドバイス

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。

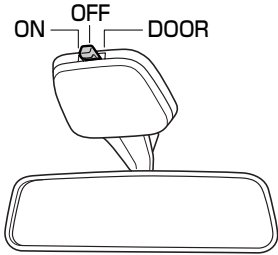
ルーム ランプ

スイッチの位置によって、点灯、消灯の切り替えができます。

- ▼スイッチが“ON” のとき
ドアの開閉に関係なく点灯します。
- ▼スイッチが“OFF” のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。
- ▼スイッチが“DOOR” のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。
(ドア連動機能→ 183 ページ)

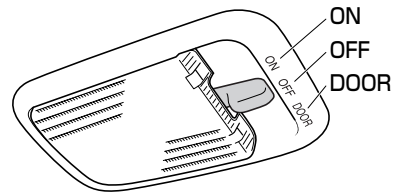
○フロント

3ドア車



○センター

5ドア車





ドア連動機能

室内照明とメーター照明は、ドア操作、エンジン スイッチ操作に連動して、点灯・消灯します。

- 室内照明は、スイッチが“DOOR”のときに連動します。
- メーター照明は、車幅灯が消灯しているときに連動します。

(メーター→ 108 ページ)

アドバイス

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

○タイマー機能

- すべてのドアが閉まっているとき、エンジン スイッチの操作により照明が点灯・消灯します。

エンジン スイッチ	室内照明	メーター照明
ON	消灯	
↓	↓	
ACC または LOCK	約15秒間点灯後に消灯	
↓	↓	
ON	消灯 (点灯中はすぐに)	

- エンジン スイッチが“LOCK”または“ACC”の位置のとき、次の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼運転席ドアの施錠・解錠

運転席 ドアロック	室内照明	メーター照明
施錠	消灯	
↓	↓	
解錠	約15秒間点灯後に消灯	
↓	↓	
施錠	消灯 (点灯中は減光後に)	消灯 (点灯中はすぐに)

▼ドアの開閉

ドア	室内照明	メーター照明
全閉	消灯	
↓	↓	
いずれか開	点灯	
↓	↓	
全閉	約15秒後に消灯	

○バッテリーあがり防止機能

バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明・メーター照明を消灯する機能です。

- 室内照明は、スイッチが“DOOR”のときに消灯します。
- エンジン スイッチが“LOCK”または“ACC”の位置で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、自動的に消灯します。
- 再度、点灯させるには、すべてのドアを閉めるか、エンジン スイッチを“ON”の位置にしてください。

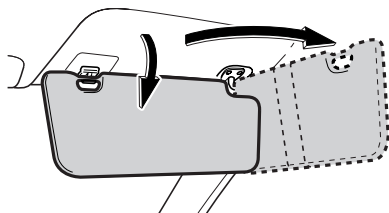


サン バイザー

直射日光などでまぶしいときに使用します。側面に移動させて使用することもできます。

▼使用するときは

図中の矢印の方向に動かします。

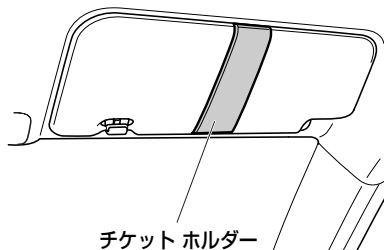


👉 アドバイス

- サン バイザーと天井の間に物を挟まないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

チケットホルダー

チケット類を収納することができます。



👉 アドバイス

- チケットホルダーにチケット類以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。

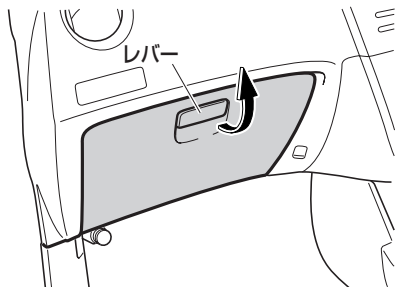


グローブ ボックス

物入れとして利用できます。

▼開閉方法

- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。



⚠注意

- 走行中はグローブ ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたカバーに体が当たるなど思わぬけがをするおそれがあります。

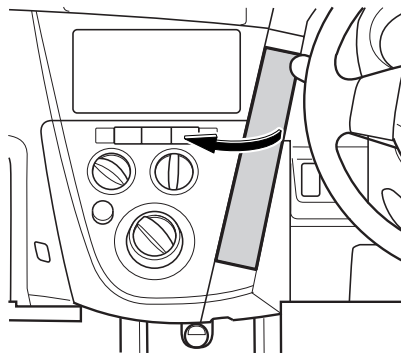
インパネ センター ボックス

5 ドア車

物入れとして利用できます。

▼開閉方法

- カバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。



⚠注意

- 走行中はインパネ センター ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に収納している物が飛び出すおそれがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。運転のさまたげになり、思わぬ事故につながります。
- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。破損や変形のおそれがあります。

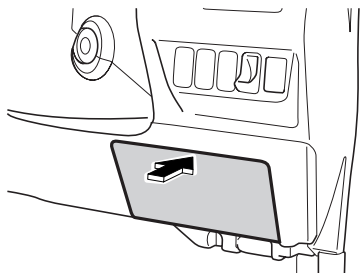


インパネ アンダー ボックス

小物入れとして利用できます。

▼開閉方法

- カバーを押して開けます。
- 閉めるときは、そのままカバーを閉めます。



⚠注意

- 走行中はインパネ アンダー ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたカバーに体が当たるなど思わぬけがをすおそれがあります。

ショッピング フック

軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。

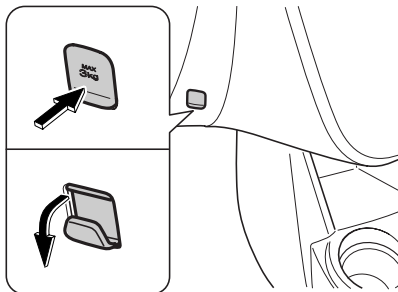
インパネ センター（助手席側）・助手席シート バック（バン仕様車を除く）にあります。

⚠注意

- 特に重たい物や、大きな物をショッピング フックにかけないでください。（最大荷重量約 3kg）フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

▼使用方法

- フックの下部を押さえ、反転させて使用します。
- 元に戻すときは、そのまま反転させフックを格納してください。





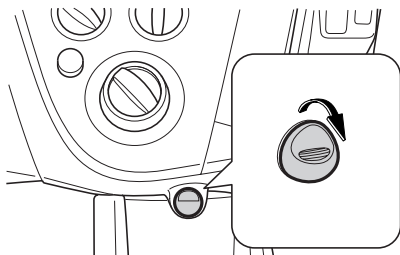
アクセサリ ソケット

電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

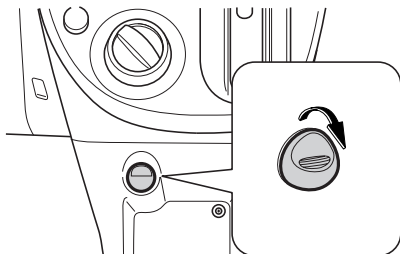
▼使用方法

カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。

マニュアル車



CVT車



⚠注意

- 電気容量は、DC12Vで最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で使用しないでください。バッテリーあがりのおそれがあります。また、エンジンがかかっても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- アクセサリ ソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートするおそれがあります。



カップホルダー

缶ジュースやカップなどを置くとときに便利です。

⚠注意

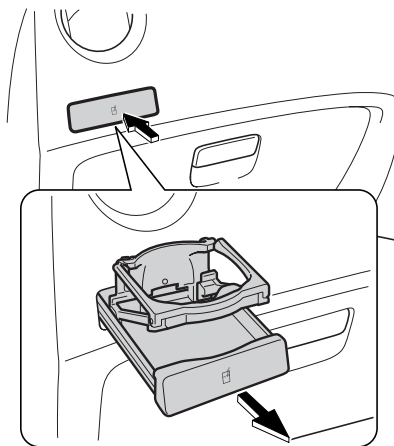
- 飲み物には、フタをするなどしてこぼさないように注意してください。振動で中身がこぼれるおそれがあります。特に温かい飲み物には、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。カップホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。また、スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- カップホルダーには、カップや飲料缶以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。また、次のような異物が入ると、カップホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
 - 爪楊枝・ヘアピン等の小さいもの、細かいもの
 - タバコの灰
 - 芳香剤の液体
- 使用しないときは、カップホルダーを必ず収納してください。急ブレーキなどの激しい運転の際に、カップホルダーに体が当たるなど、思わぬけがをするおそれがあります。

前席カップホルダー (プッシュオープン式)

5 ドア車

▼使用方法

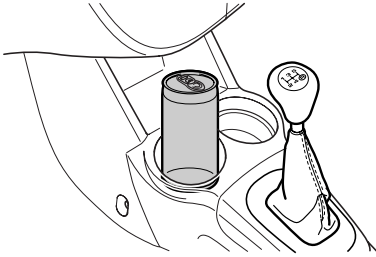
- 使用するときは、トレイを押すと開きます。
- 収納するときは、そのままトレイを押し込みます。



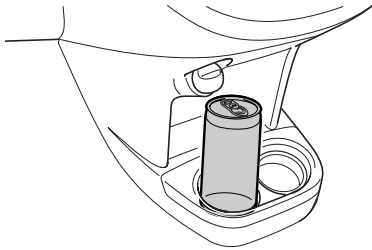


前席

マニュアル車



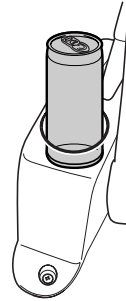
CVT車



後席

▼使用方法

そのまま缶ジュースやカップを置いて使
用します。



⚠注意

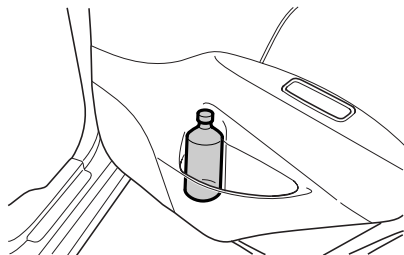
- カップホルダーを使用中に、ひじな
どが飲み物に当たるとこぼれるおそれ
がありますので十分注意してくださ
い。



ボトルホルダー

5ドア車

ペットボトルなどを置くときに便利です。
リヤドアにあります。



👉 アドバイス

- 飲み物が入った栓をすることができない容器（缶やカップなど）を置かないでください。また、飲み物が入ったまま栓をしていないペットボトルを置かないでください。
ブレーキ時に、飲み物がこぼれるおそれがあります。

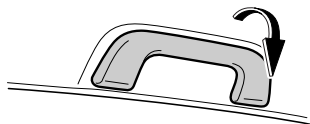
アシストグリップ

5ドア車

引き起こして使用できます。

▼使用方法

- 矢印の方向に引き起こします。
- 使用後は、自動的に元に戻ります。



⚠️ 注意

- 特に重たい物や、大きな物をアシストグリップにかけないでください。アシストグリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



いざというときに

車載工具の使いかたや、お車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。

■ 工具類

格納場所 -----	194
ジャッキの使いかた -----	195

■ いざというときの処置

エンジンがかからないとき -----	198
スタック（立ち往生）したとき -----	198
故障したとき -----	199
けん引される時 -----	200
パンクしたとき -----	202
応急用スペア タイヤ -----	203
タイヤ交換 -----	204
バッテリーあがりの処置 -----	208
オーバー ヒートの処置 -----	210
ヒューズの交換 -----	211
電球（バルブ）交換 -----	216
キーを閉じ込めたとき -----	224
車両を緊急停止するには -----	225
事故が起きたとき -----	226



工具類

格納場所

カーゴ ルームに収納しています。
工具袋の中にジャッキ ハンドル、ホイール ナット レンチ、けん引フックが入っています。

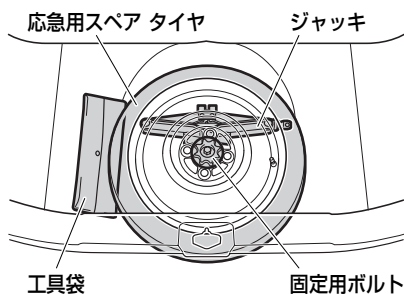
⚠️注意

- スペア タイヤ、ジャッキ、工具は所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

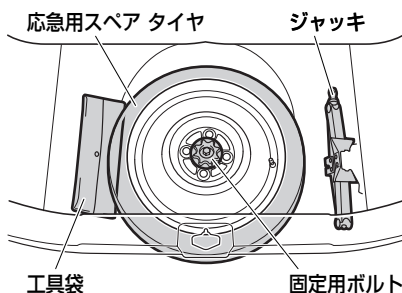
スペア タイヤを脱着するとき

- 固定用ボルトが手でゆるまない場合は、ホイール ナット レンチを使用してください。
- 固定するときは、必ず手で締め付けてください。工具などを使用すると、固定用ボルトが必要以上に締め付けられて破損したり、ゆるまなくなるおそれがあります。

2WD車

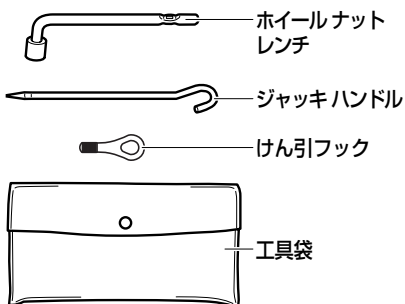


4WD車



○工具袋

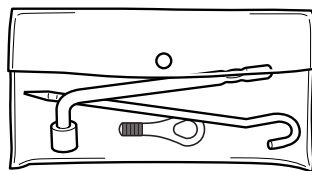
タイヤ交換のときなどに使用します。



👉アドバイス

工具を収納する場合

- 工具袋内のそれぞれの仕切りに図のような方向で収納してください。
- 工具袋を軽く振り、工具がぶつかる音がしないことを確認してください。





ジャッキの使いかた

⚠警告

- ジャッキ アップしたお車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキ アップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキ アップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、マニュアル車はチェンジ レバーを1速に、CVT車はセレクト レバーをPレンジに入れて、輪止めをしてください。お車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキ アップしたとき、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 備え付けのジャッキは、タイヤの交換およびタイヤ チェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキ アップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車両を損傷するおそれがあります。
- ジャッキ アップするときは、人や荷物をお車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から3cm以上離れないようにしてください。
- ジャッキ アップしているときは、エンジンをかけないでください。

⚠警告

- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠注意

- 備え付けジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



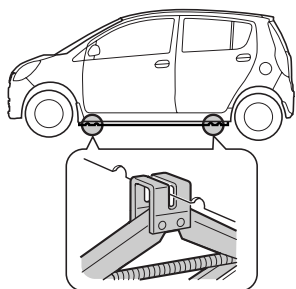


ジャッキをセットする位置

ジャッキは必ずジャッキ セット位置にセットしてください。

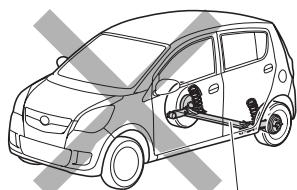
▼セットする位置

取り替えるタイヤに近いジャッキ セット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットします。



⚠注意

- 2WD車はリヤ サスペンション ビームにジャッキをかけないでください。

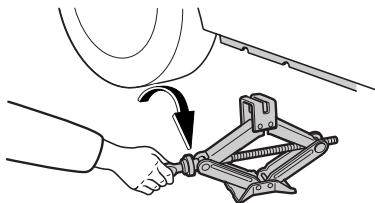


リヤサスペンションビーム

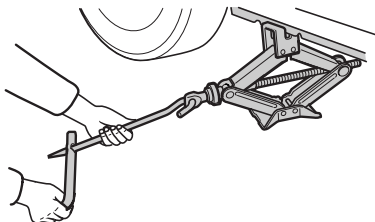
ジャッキのかけかた

▼操作手順

1. ジャッキを手で回して、セット位置（切り欠きと切り欠きの間）まで上げます。

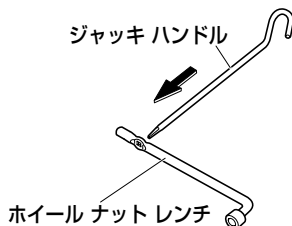


2. ジャッキが確実にセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にかかっていることを確認し、ジャッキ ハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車体を持ち上げます。



👉アドバイス

- ジャッキ ハンドルは図のように組み立てて使用してください。





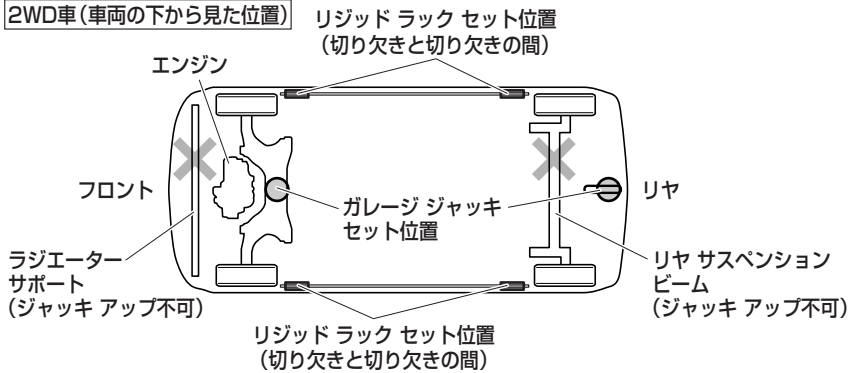
ガレージ ジャッキ（市販品）を使用する場合

ガレージ ジャッキを使用する場合は、図のガレージ ジャッキ位置にセットしてジャッキ アップを行ってください。その際は、必ずリジッド ラック（市販品）をリジッド ラック セット位置（切り欠きと切り欠きの間）にセットしてください。

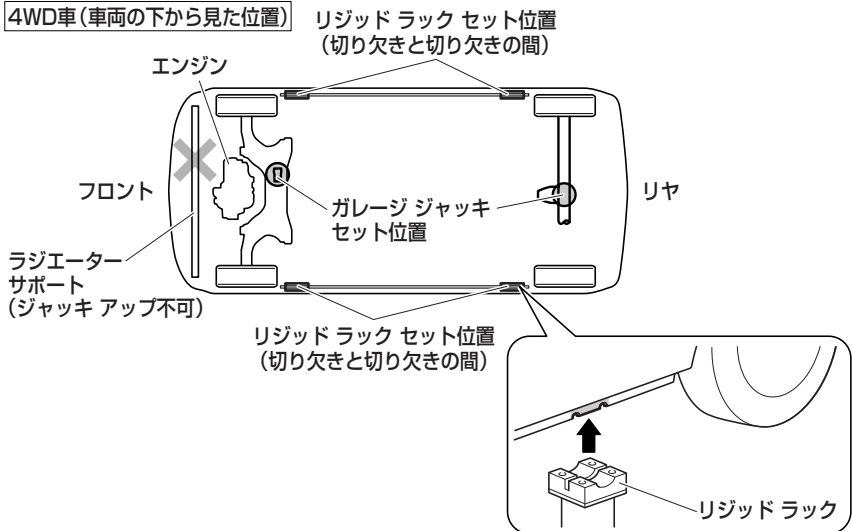
△注意

- ガレージ ジャッキ、およびリジッド ラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

2WD車(車両の下から見た位置)



4WD車(車両の下から見た位置)





いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カット システム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カット システムが作動している可能性があります。燃料カット システムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際にはエンジン スイッチを“LOCK”または“ACC”の位置に戻してから行ってください。

⚠警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのスバル販売店にご連絡ください。

スタック（立ち往生） したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、お車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- チェンジ レバーまたは、セレクト レバーを操作するときは、アクセル ペダルを踏んだまま操作しないでください。お車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセル ペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



⚠注意

- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。
(けん引される時→ 200 ページ)

▼脱出手順

1. 駐車ブレーキをかけ、マニュアル車はチェンジ レバーをニュートラル、CVT車はセレクト レバーをⒺレンジに入れ、エンジンを停止します。
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。
3. スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにします。
4. エンジンを始動します。
5. マニュアル車はチェンジ レバーを 1 速、またはⒺ（後退）、CVT車はセレクト レバーをⒺ、またはⒺレンジに確実に入れ、注意しながら、アクセル ペダルを軽く踏みます。

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押しもらってください。

⚠注意

- お車を押す場合、チェンジ レバーまたは、セレクト レバーをニュートラルに入れてください。
- エンジン スイッチを“START”の位置で保持しても、緊急避難時にお車を動かすことができません。

👉アドバイス

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

○踏切内の場合

踏切内で動かなくなったり、脱輪などで
すぐ動かせない場合は、ただちに踏切の
非常ボタンを押してください。





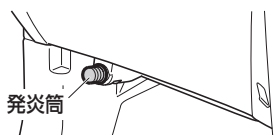
いざというときに いざというときの処置

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼設置場所

グローブボックス左下に設置されています。



⚠注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けてとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯や懐中電灯で合図してください。



アドバイス

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅表示灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、スバル販売店、スバル指定サービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で4輪とも持ち上げて運搬してください。

JAFロードサービスの連絡先は、巻末に記載されています。

⚠警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- 4WD車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。
前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、お車がレッカー車（台車）から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、次の注意にしたがってください。

▼けん引を行う前に

⚠注意

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、スバル販売店、スバル指定サービス工場にご確認ください。
駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。



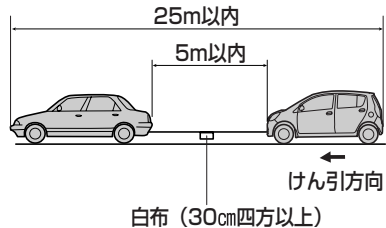
⚠️注意

- 次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずスバル販売店にご連絡ください。
- エンジンがかかるがお車が動かない
- 異常な音がする
- 4WD車・CVT車の場合、ロープによるけん引をするときの速度は 30km/h以下、けん引距離は 50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- けん引される車両は、次の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
- できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
- エンジン スイッチはハンドル ロックを解除させるために“ACC”の位置にし、チェンジ レバーまたは、セレクト レバーをニュートラルにしてください。
- エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキ ペダルを踏んでください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法

前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。

また、けん引ロープには必ず白い布 (30cm四方以上) を付けてください。



ロープをかける位置

ロープは必ずけん引フックにかけてください。

けん引フックは、カーゴ ルーム内の工具袋の中に入っています。

(格納場所→ 194 ページ)

▼ けん引フックの取り付けかた

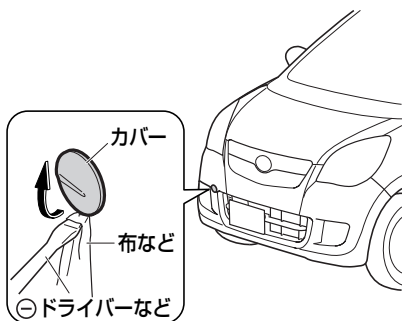
1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、カバーとバンパーのすき間に入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。



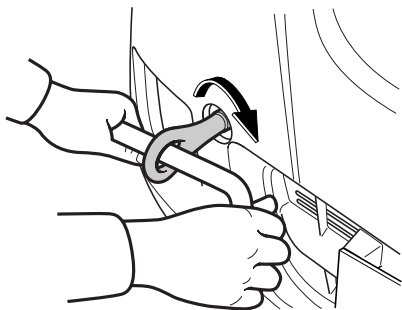


いざというときに いざというときの処置

- 用意した⊖ドライバーなどをカバーの下から差し込み、カバーを外します。



- けん引フックを矢印の方向に回しながら差し込み、ホイール ナット レンチでしっかりと固定します。



アドバイス

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

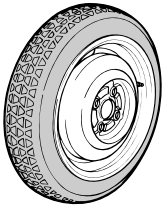
パンクしたとき

高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかりと持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。



応急用スペア タイヤ

応急用スペア タイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみ使うタイヤです。応急用スペア タイヤは標準タイヤに比べて、空気圧が高く、直径がやや小さくできています。お使いになるときは注意事項をお守りください。



⚠注意

- 応急用スペア タイヤを装着した場合は 80km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- この応急用スペア タイヤは型式、車種によって違います。ほかのタイヤやホイールと組み合わせたり、ほかの型式、車種の車に使わないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 前輪がパンクしたときには、応急用スペア タイヤを前輪に使用しないでください。前輪がパンクしたときには、応急用スペア タイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に付けて走行してください。

⚠注意

- 応急用スペア タイヤにタイヤ チェーンを装着しないでください。タイヤ チェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用スペア タイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に付けてからタイヤ チェーンを装着してください。
- 応急用スペア タイヤを装着して突起物などを乗り越えるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用スペア タイヤ装着時は車高が低下します。同じ感覚で運転するとぶつけるおそれがあります。
- 応急用スペア タイヤの点検は、最低でも月1回行ってください。
空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。（空気圧はフロント ドア開口部に記載しています）



いざというときに いざというときの処置

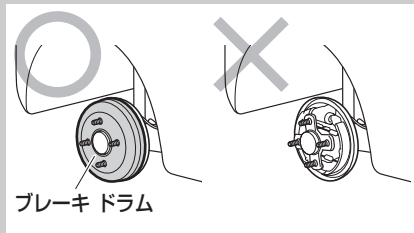
タイヤ交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠ 警告

- ジャッキ アップした車体の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキドラムが外れていないことを確認してください。

ブレーキドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



ブレーキドラム

- このお車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。

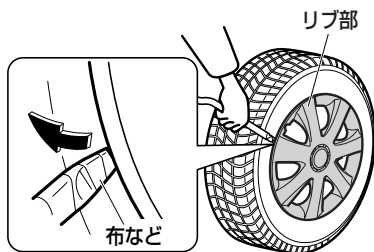
交換の準備

⚠ 注意

- お車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて、作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人はお車から降り、重い荷物はお車から降ろしてください。

フルホイールキャップ装着車

傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフルホイールキャップを外します。



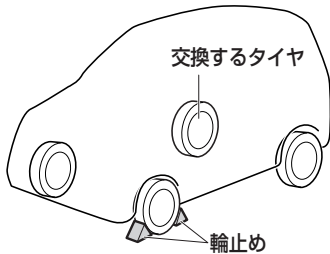
⚠ 注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイールキャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボディなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキハンドルは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイールキャップが割れるおそれがあります。



交換の手順

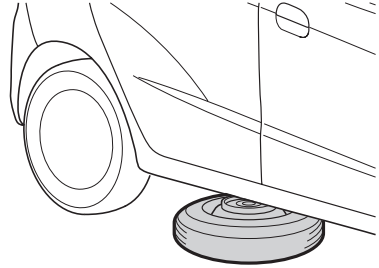
1. 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、マニュアル車はチェンジレバーを1速、CVT車はセレクトレバーをPレンジの位置にします。
2. 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置きます。



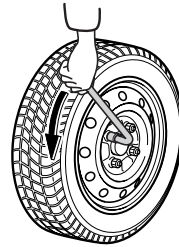
アドバイス

- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。
3. 工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出します。
(格納場所→ 194 ページ)
(ジャッキの使いかた→ 195 ページ)
(応急用スペアタイヤ→ 203 ページ)

4. ジャッキが外れた場合の危険防止のため、スペアタイヤは交換するタイヤの近くの車体の下に置きます。



5. ホイールナットレンチでホイールナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。

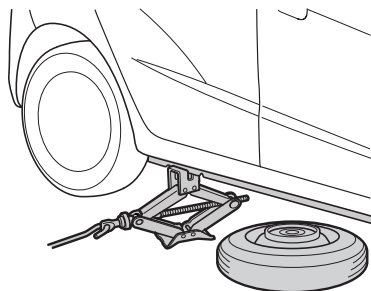




いざというときに いざというときの処置

6. タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりとジャッキ アップし、車体を上げます。

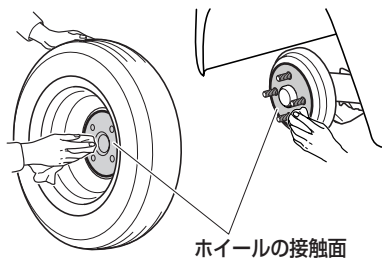
(ジャッキの使いかた→ 195 ページ)



7. 4 個のホイール ナットを外し、タイヤを外します。

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きに置いてください。

8. 交換するタイヤのホイールの接触面の汚れをふき取ります。

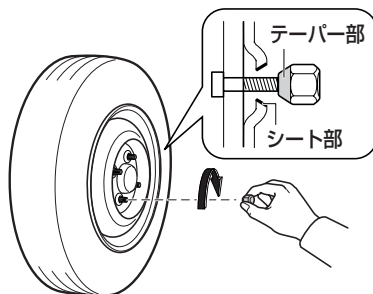


⚠警告

- タイヤを取り付けるときに、ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

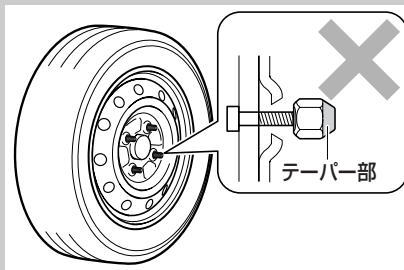
9. 交換するタイヤを取り付けます。

10. ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまで、ナットを右に回して仮締めします。



⚠警告

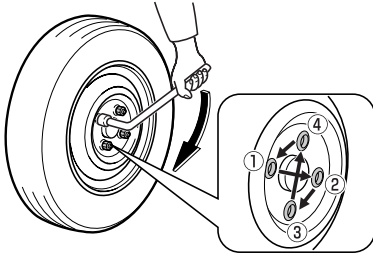
- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- ナットやボルトにオイルやグリスをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。



11. タイヤが地面につくまで車体をおろし、ホイール ナットを均等に対角線の順にホイール ナット レンチで2、3度にわたり十分締め付けます。



⚠注意

- ホイール ナット レンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。
- 締め付力量（ホイール ナット レンチ先端にて）：440～590N {45～60kgf}
- 締め付トルク：103N・m {1,050kgf・cm}

12. 工具、ジャッキ、タイヤを所定の位置に確実に収納します。

13. 走行後ホイール ナットのゆるみがないことを点検します。

⚠注意

- パンク時に限らず、タイヤを脱着したときは、しばらく走行したあと、再度ホイール ナットにゆるみがないことを確認してください。
- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をスバル販売店で受けてください。





いざというときに いざというときの処置

標準タイヤに戻すとき

タイヤ交換の手順と同じです。

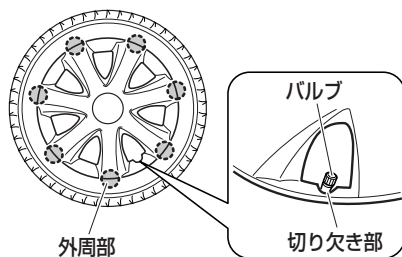
⚠注意

- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
(タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)
- タイヤを新品に交換する場合は、必ず指定のサイズのタイヤに交換してください。

フル ホイール キャップ装着車

フル ホイール キャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフル ホイール キャップの切り欠き部を合わせ、フル ホイール キャップの外周部を押して取り付けます。



バッテリーあがりの処置

次のような症状が見られるとバッテリーあがりと考えられます。

- スターターが回らない。
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッド ランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。

⚠警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

👉アドバイス

- バッテリーあがりを防ぐために次のことをお守りください。
- エンジンを止めたままランプをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。



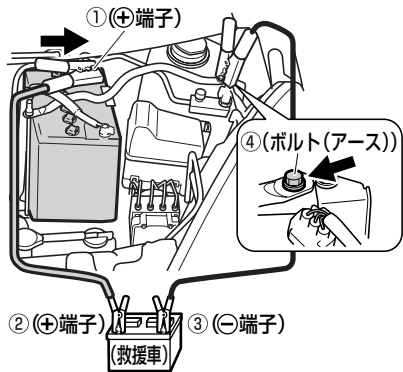
▼処置を行う前に

⚠警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いたら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースター ケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースター ケーブルを接続するとき、⊕端子と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

▼処置の手順

1. バッテリーの⊕端子のカバーを外し、ブースター ケーブルを図の番号順で接続します。
 - ①バッテリーあがり車の⊕端子
 - ②救援車の⊕端子
 - ③救援車の⊖端子
 - ④次の箇所
(ボルト（アース）につなぐ)





いざというときに いざというときの処置

2. 救援車（電源側の車）を始動し、少しエンジン回転を高めを保ちます。
3. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
4. ブースター ケーブルを接続順序の逆で外します。

⚠注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12Vバッテリー車と接続してください。
- ケーブル接続の際には、ブースターケーブルを矢印の方向にして、⊕端子に接続させてください。
また、⊕端子をボディ金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

オーバー ヒートの処置

次の状態がオーバー ヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

お車を安全な場所に止め、次の処置をしてください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

1. ボンネットから蒸気が出ていたら、エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
2. ボンネットから蒸気が出ていなければ、エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。



- 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジン ルームをチェックします。エンジン ルーム内が次のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。
 - 冷却ファンが回転していないとき
 - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
 - 冷却水リザーバー タンクの水がないとき
 - ファン ベルトが切れているとき
4. 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止めます。
5. エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファン ベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検します。
6. 冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水の補給は、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

👉アドバイス

- オーバー ヒートを防止するため、日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンス ノート」参照）

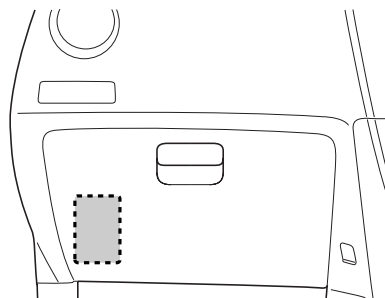
ヒューズの交換

ランプが点灯しない場合や、電気系統の装置がはたらかない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。ヒューズについてはスバル販売店にご相談ください。

ヒューズの位置

○インストルメント パネル
ヒューズ ボックス

グローブ ボックス奥に設置されています。

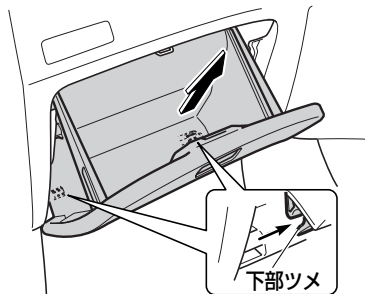




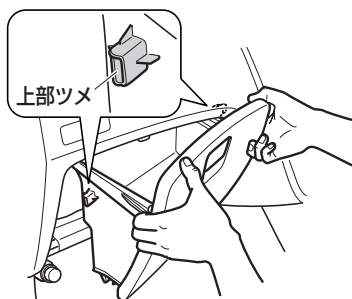
いざというときに いざというときの処置

▼グローブ ボックスの取り外しかた

1. エンジン スイッチを“LOCK”の位置にします。
2. グローブ ボックスを開けます。
3. グローブ ボックスを矢印の方向へ引き上げて下部ツメを外します。

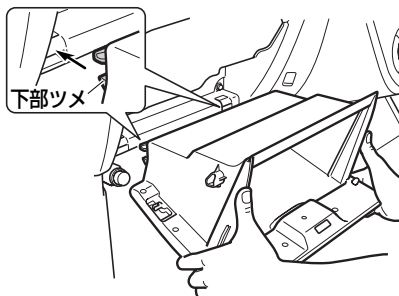


4. 上部ツメがひっかからないように、少し傾けながら、グローブ ボックスを取り外します。

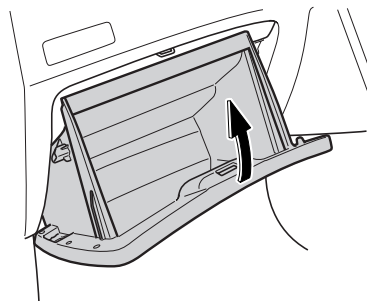


▼グローブ ボックスの取り付けかた

1. グローブ ボックスを水平にして、下部ツメを取り付けます。



2. グローブ ボックスを矢印の方向に押し込みます。

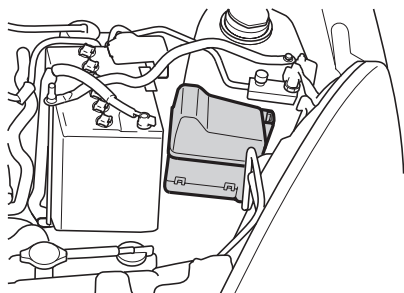


👉 アドバイス

- グローブ ボックスを取り付けるときは、十分にかん合していることを確認してから、ボックスを閉めてください。下部ツメのかん合が不十分なままだと、ボックスが開かなくなります。

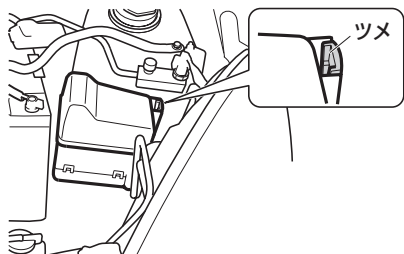


○エンジン ルーム ヒューズ ボックス



▼取り外しかた

1. エンジン スイッチを“LOCK”の位置にします。
2. カバー横のツメを押しながら、カバーを取り外します。



▼取り付けかた

取り外すときと逆の手順で行います。

ヒューズ ボックス

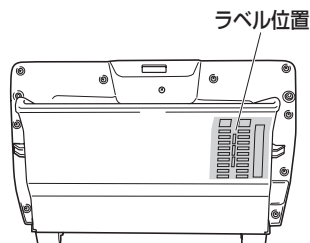
ヒューズ ボックスのラベルに各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。

ヒューズは、ラベル表示にしたがって交換してください。

○インストルメント パネル
ヒューズ ボックス

▼ラベル位置

グローブ ボックスの裏側に表示されています。

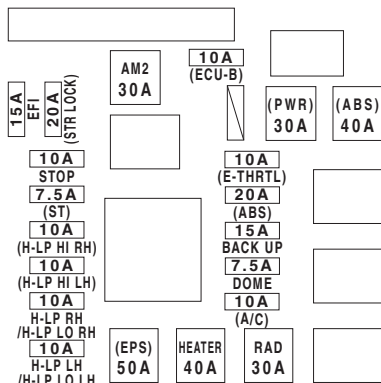


30 A	30 A	
(POWER B)	(POWER IG)	
7.5 A	25 A	
ACC	FR WIPER	
	15 A	
	(RR WIPER)	
10 A	7.5 A	
ECU IG1	(FOG RH)	
10 A	15 A	
HORN/HAZ	DEFOG	
20 A	7.5 A	
AM2	(FOG LH)	
15 A	15 A	
(D/L)	SOCKET	
20 A	10 A	
AM1	E/G	
10 A	7.5 A	
TAIL	ECU IG2	
10 A	7.5 A	
(SEAT HTR)	IG1/BACK	



いざというときに いざというときの処置

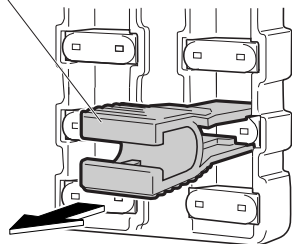
○エンジン ルーム ヒューズ ボックス
ヒューズ ボックスのカバーに表示されて
います。



ヒューズの点検と交換

1. 備え付けのヒューズ プラーを使用して、ヒューズを挟んで外します。

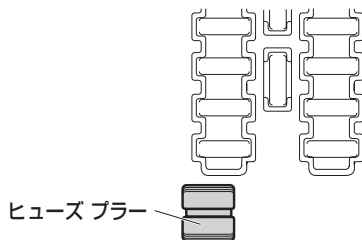
ヒューズ プラー



アドバイス

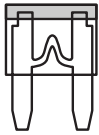
ヒューズ プラーの位置

- インストルメント パネル ヒューズ ボックス内にあります。

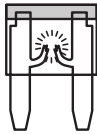




2. 取り外したヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換してください。ヒューズが切れていないときはほかに原因が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。



(正常)



(切れているとき)

⚠注意

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、スバル販売店で点検を受けてください。
- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。



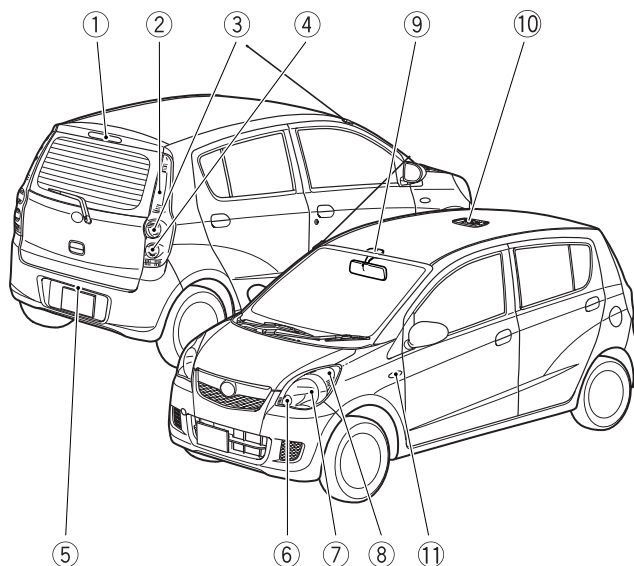
いざというときに いざというときの処置

電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、スバル販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。





	電球 (バルブ)	W (ワット) 数
①	ハイマウント ストップ ランプ	5
②	制動灯 / 尾灯	21/5
③	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
④	後退灯	21
⑤	番号灯	5
⑥	車幅灯	5
⑦	前照灯	60/55
⑧	前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
⑨	ルーム ランプ (フロント ミラー一体式)	5
⑩	ルーム ランプ (センター)	8

⚠注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

次の電球の交換は、スバル販売店にご相談ください。

⑩側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

👉アドバイス

- 側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯は、レンズセット交換になるため、電球のみの交換をすることができません。スバル販売店にご相談ください。



いざというときに いざというときの処置

交換の手順

⚠警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

⚠注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。

⚠注意

- 前照灯のハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。

👉アドバイス

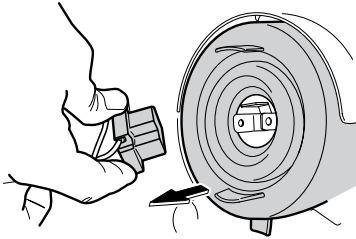
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。



○前照灯

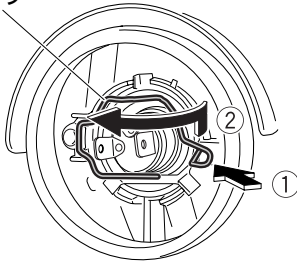
▼取り外し手順

1. コネクターを取り外したあと、カバーを取り外します。

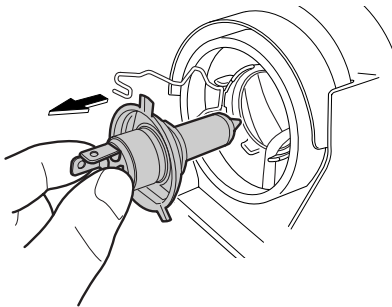


2. クリップを矢印の方向に外します。

クリップ

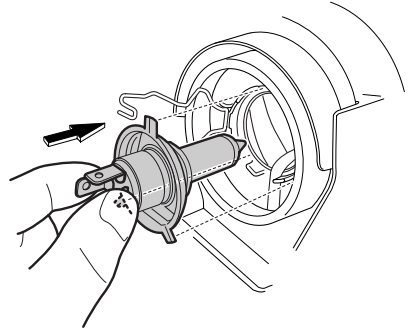


3. バルブを取り外します。

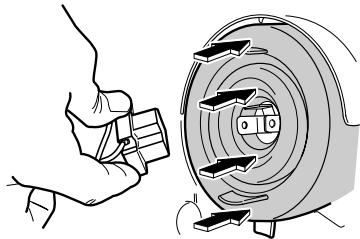


▼取り付け手順

1. バルブの突起部をヘッドランプ本体の溝にはめ込みます。



2. クリップを確実にフックに取り付けます。
3. 矢印の方向にカバー押さえて、確実にカバーを取り付けたあと、コネクターを取り付けます。





いざというときに いざというときの処置

○車幅灯

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。



2. ソケットから電球を引き抜きます。



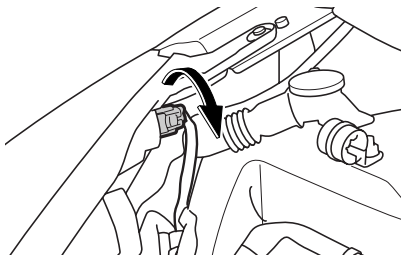
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

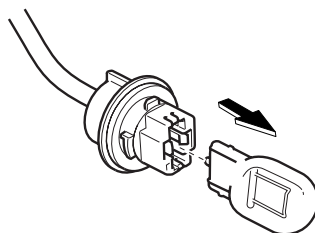
○前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。



2. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

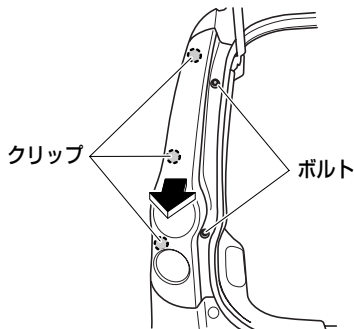
逆の手順で行います。



○リヤ コンビネーション ランプ

▼取り外し手順

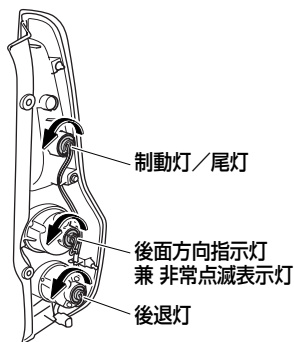
1. リヤ ゲートを開けます。
2. ボルト（2本）を取り外します。
3. 車両後方にランプ本体を引いて、車両からランプ本体を取り外します。



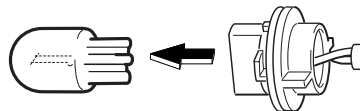
⚠注意

- ランプ本体を必要以上に引っ張ると、クリップと勘合しているランプ本体のツメが折れるおそれがあります。

4. 交換する電球のソケットを回して取り外します。



5. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

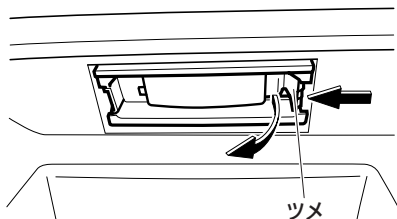


いざというときに いざというときの処置

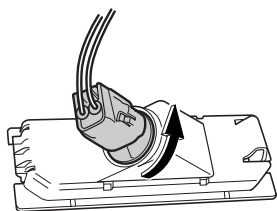
○番号灯

▼取り外し手順

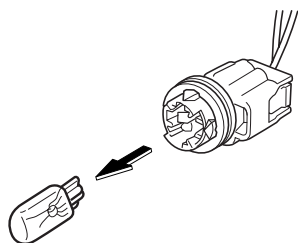
1. ツメを矢印の方向に押し、ランプ本体を取り外します。



2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



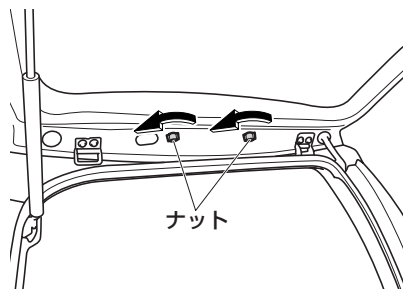
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

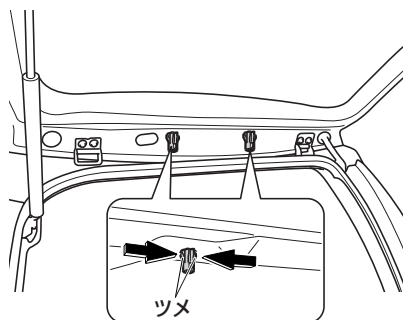
○ハイマウント ストップ ランプ

▼取り外し手順

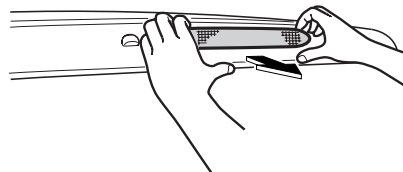
1. リヤ ゲートを開けます。
2. ナット (2個) を取り外します。



3. 矢印の方向にツメを押し、ランプ本体をリヤ ゲートから浮かせます。



4. ドアを閉めたあと、ランプ本体を取り外します。

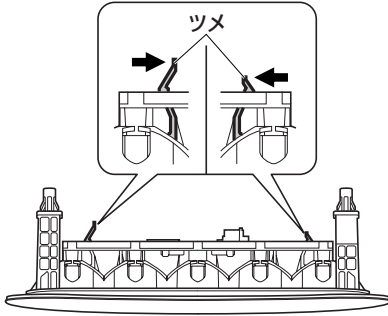


△注意

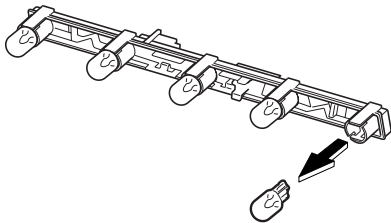
- リヤ ゲートはゆっくりと閉めてください。ランプ本体が落下し、破損するおそれがあります。



5. ツメを矢印の方向に押し、ソケットからレンズを取り外します。



6. ソケットから交換する電球を引き抜きます。



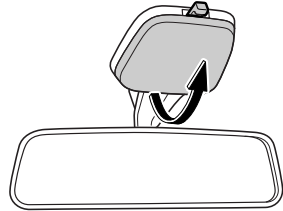
- ▼ 取り付け手順
逆の手順で行います。

○ルーム ランプ (フロント)

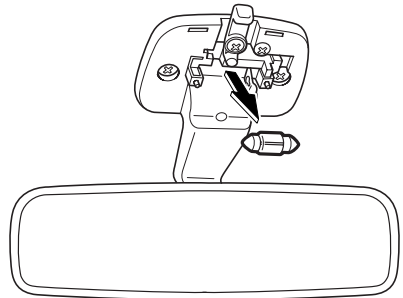
3 ドア車

▼ 取り外し手順

1. カバーを矢印の方向に引いて取り外します。



2. 電球を取り外します。



- ▼ 取り付け手順
逆の手順で行います。



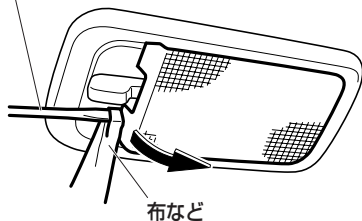
いざというときに いざというときの処置

○ルーム ランプ (センター)

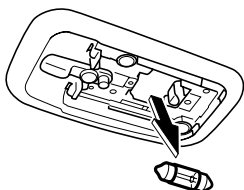
5 ドア車

1. ⊖ドライバーなどを差し込んで、カバーを取り外します。

⊖ドライバーなど



2. 電球を取り外します。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAFなどを呼んでください。

JAFロード サービスの連絡先は、巻末に記載されています。

▼キーをなくした場合

キー ナンバーを最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

📞 アドバイス

- キーの閉じ込みで困らないために次の習慣を心がけてください。
- 日頃からキーを使ってロックしてください。
- バッグなどにスペア キーを入れておいてください。



車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

○緊急停止方法

1. ブレーキ ペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

⚠警告

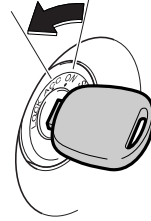
- ブレーキ ペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2. チェンジ レバーまたは、セレクト レバーをニュートラルに入れます。

▼チェンジ レバーまたは、セレクト レバーがニュートラルに入った場合

3. 減速後、お車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止します。

- ▼チェンジ レバーまたは、セレクト レバーがニュートラルに入らない場合
4. ブレーキ ペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。
5. エンジン スイッチを“ACC”の位置にして、エンジンを停止します。



6. お車を安全な道路脇に停めます。

⚠警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。





事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに次の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1. ただちにお車を止めます。お車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



お車の手入れ

お車の整備、手入れの方法について
説明しています。

■ お車の手入れ

エンジン ルーム-----	230
消耗品の補給、交換-----	231
タイヤの点検-----	234
ワイパーの交換-----	236
エアコンの手入れ-----	240
キーの電池交換-----	240
室内の手入れ-----	242
ボディ、塗装面の手入れ-----	243

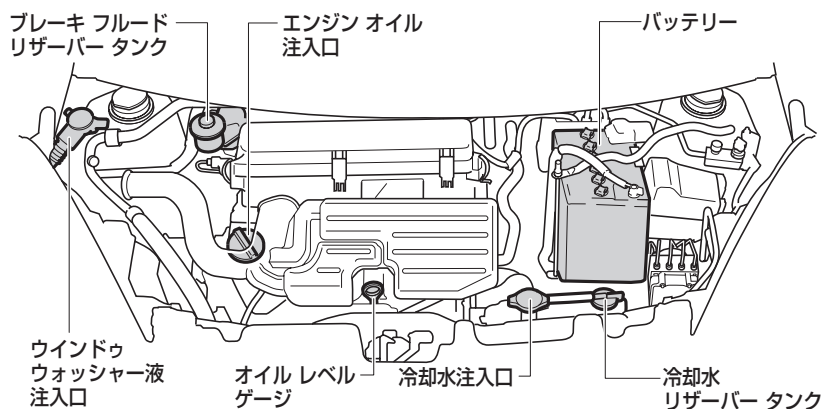


お車の手入れ

お車を安全、快適にご使用いただくには、日頃の手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

エンジン ルーム

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。





消耗品の補給、交換

消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

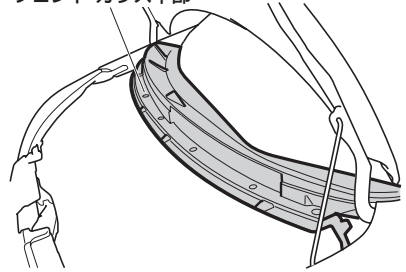
⚠警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、次のことをお守りください。
- やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
- 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。
オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあります。

⚠注意

- エンジン ルームを点検するときは、フロント ガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。

フロント ガラス下部

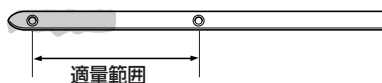




お車の手入れ お車の手入れ

エンジン オイル

エンジン オイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。



オイルレベルゲージ

👉 アドバイス

- エンジン オイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、エンジン オイル注入口の裏側や、オイル注入口にエンジン オイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジン オイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。この現象によるエンジン オイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありませぬ。

冷却水

▼ 冷却水の点検について
冷却水リザーバー タンクの側面の目盛りで行ってください。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠️ 警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。



ウインドウ ウォッシャー液 の補給

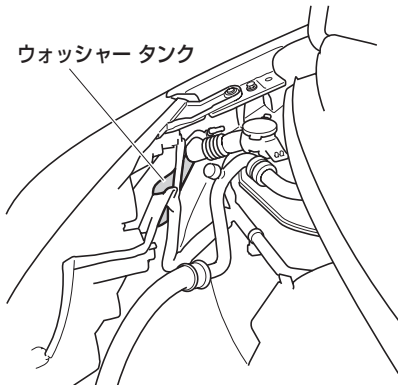
ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、スバル指定ウインドウ ウォッシャー液を補給します。

👉 アドバイス

- ウインドウ ウォッシャー液はスバル指定をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウインドウ ウォッシャー タンクはフロント、リヤ兼用です。

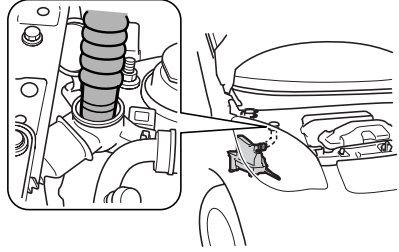
▼ 点検のしかた

ウォッシャー タンクの側面から、液面を目視により確認します。



▼ 補給のしかた

ウォッシャー タンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



⚠️ 警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

⚠️ 注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

👉 アドバイス

- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。





タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、最低でも月に1回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。また、スペアタイヤの空気圧も点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

(サービスデータ→ 255 ページ)

(タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。)

⚠警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象*によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



アドバイス

- タイヤが冷えているときは、一般道路で走行距離が1km以下の場合、または3時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約20～30kPa (0.2～0.3 {kgf/cm²}) 空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、スバル販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

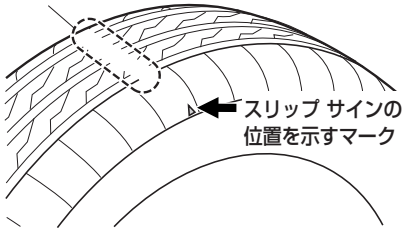


タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

スリップサイン



スリップサインの位置を示すマーク

⚠警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤのローテーション

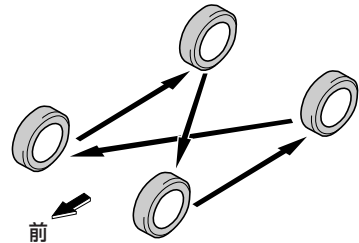
タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは 5,000km 走行ごとに行ってください。

▼ローテーションのしかた

図の順にローテーションしてください。

(タイヤ交換→ 204 ページ)



⚠注意

- 応急用スペアタイヤはローテーション用タイヤとしては使用しないでください。





ワイパーの交換

⚠注意

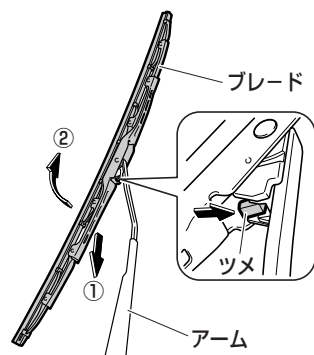
- ワイパー ブレード、ラバーはスバル指定品をおすすめします。スバル指定以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパー ブレード ラバーを使用し続けると、ウインドウ ガラスを傷付けるおそれがあります。ふきむらがある場合は、早めに交換してください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- ワイパー ブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパー アームを倒さないでください。ウインドウ ガラスやボンネットに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパー アームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパー アームが変形したり、ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。

フロント ワイパー

○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードをツメが見える角度まで傾けます。
3. ツメを押しながら、ブレードを矢印①の方向に引いたあと、矢印②の方向に抜き取ります。



▼取り付けかた

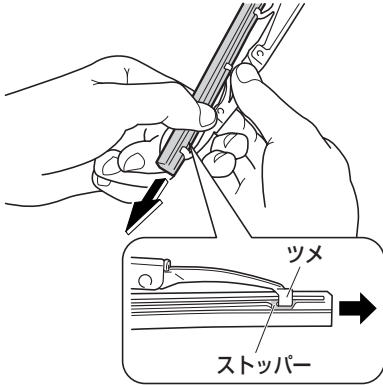
- ブレードをアームに取り付けます。
- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。



○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

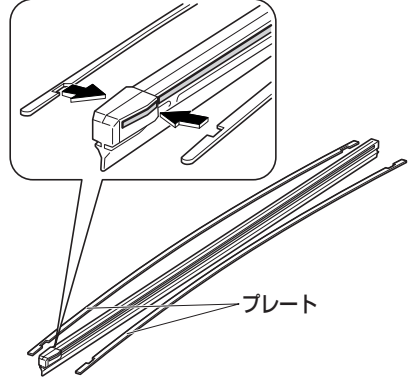
1. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引きます。



2. そのままラバーをブレードから引き抜きます。

▼取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。



4. ストッパーがない側からラバーをブレードに挿入します。
5. 取り付けるとき、ストッパーのある側が運転席側になるようにしてください。

⚠注意

- ラバーのストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウィンドウガラスに傷が付くおそれがあります。



お車の手入れ お車の手入れ

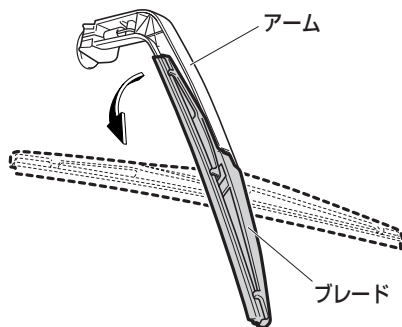
リヤ ワイパー

オプション/グレード別装備

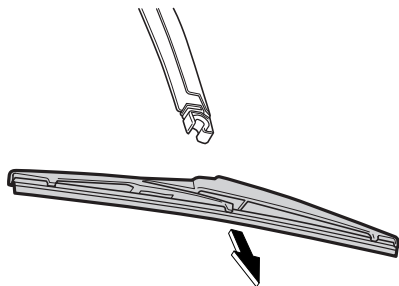
○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードを矢印の方向に回し、アームと垂直にします。



3. ブレードを矢印の方向に引いて、アームからブレードを引き抜きます。



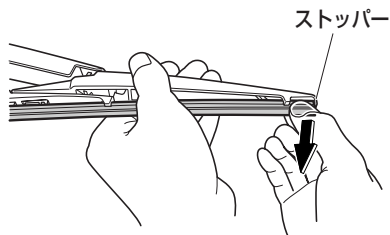
▼取り付けかた

逆の手順で行います。

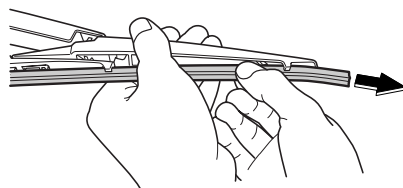
○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーを手前に引いて、ブレードの先端部のストッパーから取り外します。



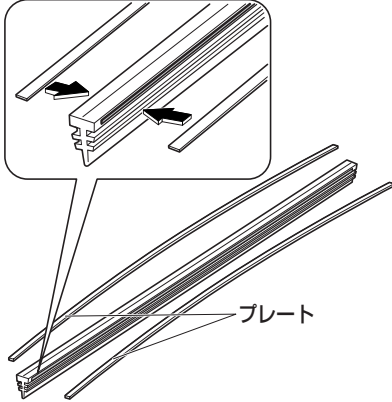
2. ラバーをブレードから引き抜きます。



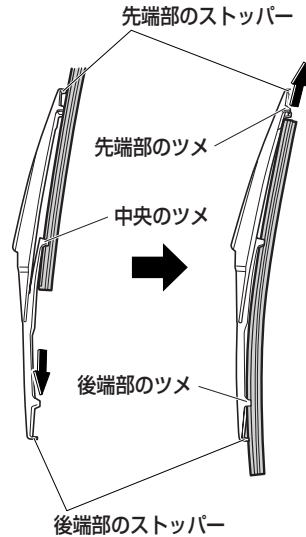


▼ 取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。



4. ブレードの中央のツメからラバーを挿入します。
5. ブレードの後端部のツメにラバーを通し、さらにラバーを挿入して、後端部のストッパーを通過させます。
6. 先端部のツメにラバーを通し、先端部のストッパーまで挿入します。
7. 後端部のツメにラバーが確実に挿入されていることを確認してください。



⚠ 注意

- ラバーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウィンドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。



エアコンの手入れ

エアコン ガス

エアコン ガスは新冷媒 HFC134a (R134a) を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

アドバイス

- エアコン ガスの補充、エアコンの修理をする場合はスバル販売店にご相談ください。

キーの電池交換

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- スイッチを押しても作動しない
- 著しく作動距離が短くなった
- インジケーターが点灯しない

電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、スバル販売店での変換をおすすめします。

注意

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。
- 電池を交換するときは次のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
 - 濡れた手で電池交換をしない
 - 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
 - 油や異物を入れない

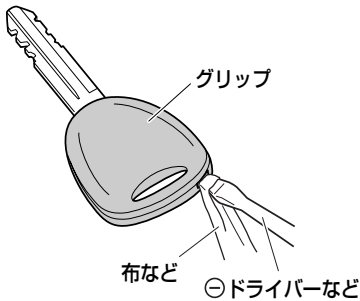


▼使用電池について

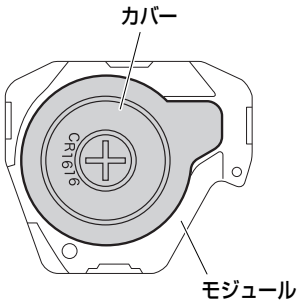
使用電池は「CR1616 (3V)」です。

▼交換方法

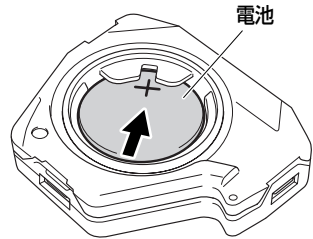
1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。
2. 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、グリップを外します。



3. モジュールの裏側のカバーを外します。



4. 矢印の方向に軽く押し込んで電池を取り出し、新しい電池と交換します。



▼交換したあと

1. カバーとモジュール、およびグリップを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認します。



⚠注意

- 電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりメイン キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように特にご注意ください。

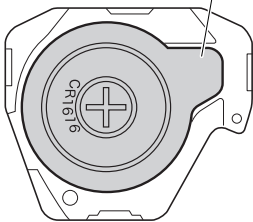


お車の手入れ お車の手入れ

アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、次のことをお守りください。
 - 端子部分などを曲げない
 - 水、油などでぬらさない
 - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換はスバル販売店に依頼することをおすすめします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はメイン キーの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例にしたがってください。
- カバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。カバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。

突起部



室内の手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材などの汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウィンドウ ガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠️注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- シート ベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。

⚠注意

車内に水などをかけないでください

- インstrument パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、水、飲み物などがかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにスバル販売店にご相談ください。

👉アドバイス

- リヤ ウィンドウ ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷つけないでください。

ボディ、塗装面の手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度の割合で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボディカバーを付けるように心がけましょう。車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

次の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コール タール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

👉アドバイス

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めにペイントで補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しく手入れを行ってください。



お車の手入れ お車の手入れ

洗車

▼洗車の手順

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗います。汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落とします。
2. 水が乾かないうちにふき取ります。

⚠注意

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。



アドバイス

- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤を使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。

○自動洗車機を使用するとき

⚠注意

- エアコンコントロールパネルの内外気切り替えダイヤル、またはスイッチで“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ミラー、アンテナは格納し、前側から洗車してください。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

○高圧洗車機を使用するとき

⚠注意

- ドアガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。



ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなつたときに行ってください。

▼ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。

アドバイス

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスを使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。

樹脂部分の手入れ

樹脂塗装部品（バンパーなど）にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、スバル販売店にご相談ください。不適當な塗料を使用すると塗膜をいためます。

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.



積雪、寒冷時の取り扱い

積雪時、寒冷時に必要となる
運転知識について説明しています。

■ 積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かったの手入れ-----	248
走行前点検と準備-----	249
積雪、寒冷時の走行-----	250
走行中の点検と注意-----	251
走行後の取り扱い-----	252



積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かっての手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジン オイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジン オイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をスバル販売店に依頼してください。

ウインドウ ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパー ブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパー ブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。

寒冷地用ワイパー ブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

⚠️注意

- 高速走行時は、通常のワイパー ブレードよりウインドウ ガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合は速度を落として走行してください。



走行前点検と準備

走行前点検の際に次の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

お車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠️注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインドウ ガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠️注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインドウ ガラスが割れるおそれがあります。
- フロント ウインドウ ガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロント ウインドウ ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠️注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどを無理に作動させると、ワイパー ゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。



積雪、寒冷時の取り扱い 積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤ チェーンまたは冬用タイヤ（スタッドレス タイヤ）を装着してください。

⚠️注意

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
チェーン装着車、冬用タイヤ（スタッドレス タイヤ）装着車、また 4WD車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤ チェーンの装着

前輪駆動車ですので、チェーンは前 2 輪に装着します。4WD車も前 2 輪に装着します。

タイヤ チェーンは、タイヤ サイズに合った物を使用してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

▼ 指定タイヤ サイズおよびチェーンの種別

タイヤサイズ	タイヤ チェーンの種別	
145/80R13	スバル純正チェーン	使用可能
155/65R14	市販JISチェーン（金属）	使用不可

⚠️注意

- タイヤ チェーンはお車のタイヤのサイズに合った、スバル指定品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。

⚠️注意

- 金属チェーンを使用すると車体に干渉して異音発生や傷付きによる錆が発生することがあります。
- タイヤ チェーンの取り付けは各タイヤ チェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤ チェーン装着時は 30km/h以上で走行しないでください。タイヤ チェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅表示灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などがをしないように注意してください。
- 応急用スペア タイヤには標準タイヤ用のタイヤ チェーンは装着できません。前輪がパンクした場合は、応急用スペア タイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用タイヤ チェーンを装着してください。

👉 アドバイス

- タイヤ チェーンを装着するとホイール キャップに傷が付くおそれがあります。ホイール キャップ装着車はホイール キャップを取り外した状態で、タイヤ チェーンを装着してください。



冬用タイヤ (スタッドレス タイヤ) の装着

⚠注意

- 冬用タイヤ (スタッドレス タイヤ) は必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン (溝模様) の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
(タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキ ペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキ パッドのしめりを乾かしてください。

⚠注意

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠注意

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤ ハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。



積雪、寒冷時の取り扱い 積雪、寒冷時の取り扱い

パンク時の対応

タイヤ チェーン装着時、前輪がパンクした場合は、応急用スペア タイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤ チェーンを装着してください。

応急用スペア タイヤにはタイヤ チェーンは装着できません。

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、お車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。

エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなる場合があります。

また、ワイパー アームは起こしてください。雪の重みでワイパー アームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

⚠警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態でお車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがありますので使用しないでください。マニュアル車はチェンジ レバーを 1 速またはⓇ（後退）、CVT車はセレクト レバーをⓅレンジに入れて輪止めを置いてください。



アドバイス

- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車両が損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを収納してください。

(アンテナ→ 156 ページ)

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

アドバイス

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボディカバーを使用してください。

注意

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロントグリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。



MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

サービス データ

サービス データ

項 目		サービスデータ	
点火プラグ	メーカー	NGK	デンソー
	プラグ型式	LKR6C	XU20HR9
ファンベルト	たわみ量(mm) 押力98N{10kgf}時	7.6~9.3(点検時)  点検位置	
アイドリング回転数(rpm)		800	
ブレーキペダル	遊び(mm)		0.5~3.0
	床板とのすき間(mm) (踏力294N{30kgf}時)	M/T車	73.0以上
		CVT車	75.8以上
クラッチペダル	遊び(mm)		20~35
	床板とのすき間(mm) (切れ残りしろ)		20以上
駐車ブレーキ	引きしろ(操作力196N{20kgf}時)	4~7ノッチ	
バッテリー	寒冷地仕様車、4WD車		44B-20L
	上記以外		26B-17L
フューエルタンク	容量(ℓ)(無鉛ガソリン使用)	36(2WD)、34(4WD)	
ウォッシャータンク	容量(ℓ)	2.0	

項 目		サービス データ	
エンジン オイル	使用オイルと交換時期		<ul style="list-style-type: none"> ・SUBARU MOTOR OIL SN 0W-20*¹または5W-30 ・アミックス 0W-20 SN*¹ ・アミックス 5W-30 SN 6か月ごとまたは、10,000kmごと(5,000kmごと* ²)のどちらか早い方
	交換量 (ℓ)	オイル交換時	M/T車 約2.6
		オイルとオイルフィルター(オイルクリーナー) 交換時	M/T車 約2.8
			CVT車 約2.7
		CVT車 約2.9	
オイルフィルター(オイルクリーナー)	交換時期		10,000kmごと(5,000kmごと* ²)
トランスミッション オイル	交換時期	M/T車	100,000kmごと
		CVT車	50,000kmごと
	使用オイル	M/T車	アミックス トランスミッションギヤオイルSAE75W (API分類GL-4)
		CVT車	アミックスCVTフルード-DC
	交換量 (ℓ)	M/T車	約2.25
		CVT車	約2.4 (ドレン)、約5.7 (全容量)
トランスファオイル	交換時期		100,000kmごと
	使用オイル		アミックスデファレンシャルハイポイドギヤオイルSAE80W-90 (API分類GL-5)
	交換量 (ℓ)		約0.57

⚠注意

CVT車のトランスミッション オイルを交換する場合

- スバル指定オイル（アミックス CVTフルード-DC）のみご使用ください。ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。オイルの交換については、スバル販売店にご相談ください。

*1 省燃費性に優れたオイルです。

*2 シビア コンディション条件での定期交換の場合

シビア コンディション条件とは、走行距離大 (20,000km以上/年) や短距離走行の繰り返し (8km以下/回) または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

項 目		サービス データ
リヤ デファレンシャル オイル	交換時期	30,000kmまたは2年(乗用車初回は3年)
	使用オイル	アミックスデファレンシャルハイポイドギヤオイルSAE80W-90 (API分類GL-5)
	交換量(ℓ)	約0.81
ブレーキオイル	交換時期	2年ごと(乗用車初回は3年)
	使用オイル	アミックス ブレーキフルード(DOT3相当)
エアクリナーエレメント	交換時期	40,000kmごと(20,000kmごと*)
冷却水 (除くりザーバータンク)	交換時期	2年ごと(乗用車初回は3年)
	使用液	アミックス ロングライフ クーラント(高防錆力タイプ)
	規定濃度(%)	30(寒冷地50)
	全容量(ℓ)	M/T車
CVT車		約3.0

- * シビア コンディション条件での定期交換の場合
シビア コンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上/年)や短距離走行の繰り返し(8km以下/回)または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

タイヤ サイズ	タイヤ空気圧 (空車時:kPa{kgf/cm ² })				タイヤの溝の 深さ(mm)	タイヤ位置 交換時期
	前 輪		後 輪			
	一般	高速	一般	高速		
145/80R13	240{2.4}				1.6以上	5,000kmごと
T105/90 D12(応急用タイヤ)	420{4.2}					—
T105/70 D14(応急用タイヤ)						

アドバイス

- 標準装着タイヤ、装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。

MEMO

Dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing a memo.

さくいん

ア

アイドリング回転数	256
アウター（ドア）ミラー	104
アクセサリー ソケット	187
アシスト グリップ	190
アンチロック ブレーキ システム （ABS）	78
アンテナ	156

イ

ELRシート ベルト	53
EPS（電動パワー ステアリング）	
警告灯	119
EBD	78
イグニッション（エンジン）	
スイッチ	128
イグニッション キー	82
ISO FIX対応ISO FIX固定バー &テザー アンカー	67
インジケーター ランプ （表示灯）	111
インター ロック	129
インテグレートッドCDプレーヤー &AM/FMチューナー	169
インナー ハンドル	94
インナー（ルーム）ミラー	104
インパネ アンダー ボックス	186
インパネ センター ボックス	185
Info-ECO（インフォ・エコ） ランプ	113
Info-ECO（インフォ・エコ） ランプの表示設定	110

ウ

ウインカー（方向指示）レバー	123
ウインドウ ウォッシュャー液の補給	233
ウインドウ ガラス	
ドア ウインドウ	103
パワー ウインドウ	99
ウインドウ デフォッガー スイッチ	126
ウインドウ反転機構（運転席）	102
ウォーニング ランプ（警告灯）	113
ウォッシュャー タンクの容量	256
ウォッシュャー スイッチ	124
運転席SRSエアバッグ	71
運転席シート ベルト	
警告灯	117

エ

エア クリーナー エレメントの データ-----	258
エアコン -----	148
エアコン ガス -----	240
エアバッグ-----	71
AM/FM電子チューナー オーディオ-----	161
AMラジオ インテグレートッドCDプレーヤー &AM/FMチューナー-----	172
AM/FMラジオ-----	162
ABS-----	78
AUX (外部入力) 端子-----	180
SRSエアバッグ-----	71
FMラジオ インテグレートッドCDプレーヤー &AM/FMチューナー-----	172
AM/FMラジオ-----	162
LLC (冷却水) のデータ-----	258
エンジン オイルのデータ-----	257
エンジン オイル レベル ゲージ----	232
エンジン キー-----	82
エンジン警告灯-----	113
エンジン スイッチ-----	128
エンジン スタート サポート CVT車-----	135
マニュアル車-----	133
エンジン フード (ボンネット) -----	94
エンジン ルーム-----	230

オ

オイルの交換量-----	257
オイル プレッシュャー警告灯-----	114
応急用スペア タイヤ-----	203
オート (パワー) ウインドウ-----	99
オーバー ヒート-----	210
オープナー フューエル リッド-----	97
ボンネット-----	95
オド メーター (積算距離計) -----	109
オルタネーター (ファン) ベルトの 点検基準値-----	256

カ

外部入力端子-----	180
鍵 (キー) -----	82
カップ ホルダー-----	188
後席-----	189
前席-----	189
可変ロード リミッター機構付 シート ベルト-----	55
間欠ワイパー (ワイパー・ ウォッシャースイッチ) -----	124

キ

キー	82
キー インター ロック	129
キー（エンジン）スイッチ	128
キー閉じ込み防止機能	88
キー抜き忘れ警告ブザー	90
キーの電池交換	240
給油口（フューエル リッド）	96
緊急停止するには	225

ク

空気圧	258
空調	148
クーラー（エアコン）	148
クーラント（冷却水）のデータ	258
区間距離計 （トリップ メーター）	109
曇り取り フロント	154
リヤ	126
クラクション（ホーン）スイッチ	127
クラッチ スタート システム	133
クラッチ ペダルの点検基準値	256
クリーナー（オイル フィルター）の データ	257
グローブ ボックス	185

ケ

警告器（ホーン）スイッチ	127
計器（メーター）	108
警告灯	113
警告ブザー キー抜き忘れ警告ブザー	90
ランプ消し忘れ警告ブザー	122
警報（盗難警報装置）の停止方法	86
けん引	200

コ

工具	194
光軸調整ダイヤル	122
高水温警告灯	116
後席（リヤ シート）	49
固定バー	67
小物入れ インパネ アンダー ボックス	186
インパネ センター ボックス	185
コンビネーション スイッチ	120
コンビネーション メーター	108

サ

サービス データ	255
サイド（駐車）ブレーキ	129
サイド（ドア）ミラー	104
3点式ELRシート ベルト	53
サン バイザー	184

シ

CDプレーヤー	176
シート	
フロント	47
リヤ	49
シート ベルト	51
シート ベルト	
警告灯 (運転席)	117
CVT警告灯	116
CVT車	137
室内照明	182
シフト セレクト	
インジケーター	112
シフト ロック装置	
CVT車	137
車載工具	194
ジャッキの使いかた	195
車両を緊急停止するには	225
集中ドア ロック	89
使用オイル	257
照度調整	110
照明	182
助手席SRSエアバッグ	71
ショッピング フック	186

ス

水温警告灯	116
水温表示灯	112
スイッチ	120
スタック (立ち往生) したとき	198
ステアリング制御警告灯	119
スノー (タイヤ) チェーン	250
スパーク (点火) プラグの型式	256
スピード メーター	109
スペア タイヤ	203
スライド調整	47

セ

積算距離計 (オドメーター)	109
セキュリティ表示灯	112
セレクト レバー	
CVT車	137
マニュアル車	136
洗車	244
前照灯 (ヘッド ランプ) の	
切り替え	121
前席カップホルダー	
(プッシュオープン式)	188
前席 (フロント シート)	47

ソ

速度計 (スピード メーター)	109
-----------------	-----

タ

ターン シグナル インジケーター （方向指示器表示灯）	111
ターン シグナル（方向指示） レバー	123
タイヤ交換	204
タイヤ チェーン	250
タイヤのデータ	258
タイヤのローテーション	235
暖房（エアコン）	148

チ

チェーン	250
チェック エンジン警告灯	113
チェンジ（セレクト）レバー CVT車	137
マニュアル車	136
チケットホルダー	184
チャージ警告灯	114
チャイルド シート	56
チャイルド シート固定バー	67
チャイルド シートの選びかた	58
チャイルド シートの固定の しかた	66
チャイルド シートの種類	57
チャイルド プルーフ	89
駐車ブレーキ	129
駐車ブレーキの点検基準値	256

ツ

ツール（工具）	194
---------	-----

テ

低水温表示灯	112
ディスク ホイール（タイヤ）の 交換	204
ディスク ホイール（タイヤ）の データ	258
テザー アンカー	67
デファレンシヤル オイルの データ	258
デフォッガー スイッチ	126
デフロスター（曇り取り） フロント	154
リヤ	126
デュアルSRSエアバッグ	71
点火プラグの型式	256
電球の交換	216
点検整備項目 （サービス データ）	255
電池の交換	240
電波式リモコン ドア ロック	83

ト

ドア -----	87
ドア（パワー）ウインドウ -----	99
ドア ミラー	
手動式 -----	105
手動式（鏡面可動） -----	105
ドア ロック -----	89
盗難警報装置 -----	84
盗難警報装置の警報の停止方法 -----	86
時計	
インテグレートッドCDプレーヤー	
&AM/FMチューナー -----	170
AM/FMラジオ -----	166
トランスファ オイルのデータ -----	257
トランスミッション オイルの	
データ -----	257
トリップ メーター	
（区間距離計） -----	109

ネ

燃料カット システム -----	198
燃料給油口（フューエル リッド） -----	96
燃料計 -----	109
燃料残量警告灯 -----	117
燃料（フューエル）タンクの容量 ----	256

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ-----	129
パーキング（駐車）ブレーキの 点検基準値-----	256
ハイビーム/パッシング表示灯-----	112
ハザード インジケーター （非常点滅表示灯）-----	111
ハザード（非常点滅表示灯） スイッチ-----	124
発炎筒-----	200
バック（ルーム）ミラー-----	104
パッシング （ヘッド ランプの切り替え）-----	121
バッテリーあがり-----	208
バッテリーあがり防止機能-----	183
バッテリーの型式-----	256
バルブ（電球）の交換-----	216
パワー ウインドウ-----	99
パワー ステアリング警告灯-----	119
パンク-----	202
ハンド ブレーキ-----	129

ヒ

ヒーター（エアコン）-----	148
非常点滅表示灯スイッチ-----	124
非常点滅表示灯-----	111
ヒューズ ボックス-----	213
表示灯-----	111
ピラー アンテナ-----	156

フ

ファン ベルトの点検基準値-----	256
V（ファン）ベルトの点検基準値----	256
フィルターのデータ-----	257
不凍液（冷却水）のデータ-----	258
フューエル ウォーニング （燃料残量警告灯）-----	117
フューエル タンクの容量-----	256
フューエル（燃料）カット システム-----	198
フューエル メーター（燃料計）----	109
フューエル リッド-----	96
冬用タイヤ-----	251
プラグの型式-----	256
プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付シート ベルト-----	54
フル タイム 4WDシステム-----	131
ブレーキ（ABS）-----	78
ブレーキ オイルのデータ-----	258
ブレーキ警告灯-----	115
ブレーキ ペダルの点検基準値-----	256
ブレード（ワイパー）の交換-----	236
フロント シート-----	47
フロント シート ベルト-----	53
フロント ドア-----	87
フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ-----	125

へ

ヘッド ランプの切り替え ----- 121
 ヘッド レストの調整 ----- 48
 ベルトの点検基準値 ----- 256

ほ

ホイール (タイヤ) の交換 ----- 204
 ホイール (タイヤ) のデータ ----- 258
 方向指示器表示灯 ----- 111
 方向指示レバー ----- 123
 ホーン スイッチ ----- 127
 ポジション表示 (シフト セレクト
 インジケーター) ----- 112
 ボトルホルダー ----- 190
 ボンネット ----- 94

ま

前倒し ----- 49
 窓ガラス
 ドア ウインドウ ----- 103
 パワー ウインドウ ----- 99
 マニュアル エアコン ----- 148
 マニュアル車 ----- 136

み

ミラー
 ドア ミラー ----- 104
 ルーム ミラー ----- 104

め

メーター ----- 108
 メンテナンス データ
 (サービス データ) ----- 255

よ

4WD車 ----- 130

ら

ライティング スイッチ ----- 121
 ラジエーター液 (冷却水) の
 データ ----- 258
 ラジオ
 インテグレートッドCDプレーヤー
 &AM/FMチューナー ----- 172
 AM/FMラジオ ----- 162
 ラバー (ワイパー) の交換 ----- 236
 ランプ消し忘れ警告ブザー ----- 122

リ

リクライニング調整 ----- 47
 リモコン スイッチ----- 83
 リヤ ウィンドウ デフォッガー
 スイッチ ----- 126
 リヤ ゲート----- 90
 リヤ シート----- 49
 リヤ シート ベルト ----- 53
 リヤ デファレンシャル オイルの
 データ----- 258
 リヤ ドア ----- 87
 リヤ ワイパー・ウォッシャー
 スイッチ ----- 126

ル

ルーム ミラー ----- 104
 ルーム ランプ ----- 182

レ

冷却水のデータ ----- 258
 冷房（エアコン） ----- 148
 レバー式駐車ブレーキ ----- 129

ロ

ローテーション ----- 235

ワ

ワイパー・ウォッシャー スイッチ ---- 124
 ワイパーの交換----- 236
 ワイヤレス ドア ロック
 （電波式リモコン ドア ロック） ----- 83
 W数（電球） ----- 216

3

3点式ELRシート ベルト ----- 53

4

4WD車 ----- 130

A

ABS警告灯 ----- 118
 A/C (エアコン) ----- 148
 AM/FM電子チューナー オーディオ ---- 161
 AMラジオ
 インテグレートッドCDプレーヤー
 &AM/FMチューナー----- 172
 AM/FMラジオ----- 162
 AUX (外部入力) 端子 ----- 180

C

CDプレーヤー----- 176
 CVT警告灯----- 116
 CVT車----- 137

E

EBD----- 78
 ELRシート ベルト -----53
 EPS (ステアリング制御)
 警告灯----- 119

F

FMラジオ
 インテグレートッドCDプレーヤー
 &AM/FMチューナー----- 172
 AM/FMラジオ----- 162

I

Info-ECO (インフォ・エコ)
ランプ----- 113

Info-ECO (インフォ・エコ)
ランプの表示設定----- 110

ISO FIX対応ISO FIX固定バー
&テザー アンカー----- 67

L

LLC (冷却水) のデータ----- 258

M

M/T (マニュアル) 車----- 136

S

SRSエアバッグ----- 71

SRSエアバッグ警告灯 ----- 118

SRSエアバッグ コンピューター----- 77

V

V (ファン) ベルトの点検基準値---- 256

W

W数 (電球) ----- 216

- 次の商標はダイハツ工業株式会社の登録商標です。
当社は使用許諾に基づき使用しております。
- アミックス
- AMMIX

MEMO

Dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing a memo.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（**A**は一時使用中止時、**B**は解体返納時に必要です）

- A** 自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
- B** 解体届出書
- A B** 自動車検査証
- A B** 車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
- A B** 軽自動車税申告書
- A B** 印鑑

A 一時使用中止時

7番窓口

ナンバー頒布



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2番窓口

申請書類の確認



3番窓口

検査手数料収納



2番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7番窓口

ナンバー頒布



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2番窓口

申請書類の確認



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（**㊦**は使用者・所有者を変更した場合、**㊧**は引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

- ㊦㊧** 自動車検査証記入申請書
- ㊦㊧** 自動車検査証
- ㊦㊧** 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後3ヶ月以内のもの）
- ㊦** 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）
- ㊦㊧** 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）
- ㊦** 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書
 - ㊧** 軽自動車税申告書
- ㊦㊧** 印鑑

㊦㊧（ナンバー変更あり）

2番窓口

申請書類の確認



7番窓口

ナンバー頒布



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



7番窓口

ナンバー頒布

㊦㊧（ナンバー変更なし）

2番窓口

申請書類の確認



6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

*お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項

型式・車台番号・登録番号・登録年月日

②走行距離

③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール  0120-052215

受付時間【平 日】9:00~17:00

【土日祝】9:00~12:00、13:00~17:00

※平日の12:00~13:00および土日祝は

(1) のインフォメーションサービスのみとなります。

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。

(1) ご意見/ご感想/ご案内(カタログ、販売店、転居手続き 他)

(2) お問合せ/ご相談

株式会社SUBARU

〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿1-20-8 (エビススバルビル)

JAF ロードサービス
救援コール



ナビダイヤル®

0570-00-8139

通話料は有料(固定電話は1分/10円、携帯電話は20秒/10円)。
ただし、一部のIP電話等からはご利用になれません。

※携帯電話からおかけの場合
基本使用料金に含まれる無料通信分の対象とはなりません。

または 短縮ダイヤル **#8139**

通話料は有料。
ただし、固定電話〔ダイヤル回線〕からはご利用になれません。

全国共通・24時間年中無休

禁複製・転載

編集・発行 **株式会社SUBARU**



SUBARU

株式会社SUBARU

発行 2017年4月 Printed in Japan KB

Publication No. **A5744JJ-B**

01999-B2411